



平成29年度
学社融合実践集録



平成 30 年3月
田辺市教育委員会

はじめに

平成29年10月29日、東陽中学校と東部・南部公民館が「『表現する力を育む学び合い』～地域と共に学び合う学校づくり」を研究テーマに、平成27年度から3年間にわたり研究実践を重ねてきた、学社融合推進事業の発表会が開催されました。

当日は、台風22号の接近で風雨の激しい中でしたが、大勢の保護者や地域の方が、道案内のため各所に立ってくださいました。

授業では、生徒の意見に耳を傾けながらも、地域住民としての視点や立場から意見を下さる地域の方の姿や、調理実習では時間内に全ての生徒ができるよう適切な支援をする地域の方の姿に、学校と家庭と地域が一体となって子供たちを育てようという意識が醸成されていることが伺えました。さらに、ウォークラリーや各種の公民館事業に東陽中学校の学生が、貴重なパートナーとして活動に関わり、地域づくりの心強い戦力となっています。

また、12月3日には、稲成地域共育コミュニティ本部事業の発表会が開催され、「《つなげよう・広げよう・稲成の「共育」！》～新しい時代に向けて～」という主題に基づき、同じく平成27年度から3年間にわたる研究の一端が発表されました。「学校力の向上」「地域力の向上」「家庭力の向上」を柱として、地域人材を活かした教科学習・ふるさと学習・学習環境の整備充実等々の発表でした。

地域の方々の協力を得て学習したことの発表では、地域の歴史や豊かな資源・文化・人材の多さ、また、地域の方々の学校や子供たちへの熱い想いが伝わり、ふるさとを誇りに思う児童の育成に大きく繋がっていると考えられます。

ところで、次期学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を重視することが、改訂の基本的な考え方として示されています。つまり、学校で育むべき資質・能力とは何かを社会と共有することを重視しているものであり、まさに、田辺市教育委員会がこれまで進めてきた「学社融合推進事業」そのものであります。

今回の東陽中学校校区や稲成小学校校区の発表は、学校教育と社会教育を融合させたものであり、子供たちが未来の創り手となるために求められている資質・能力を育み、子供にどのような力をつけるかという目標を、学校と地域社会が共有し、地域の力を活かしながら学校教育を展開しているものであります。

市教育委員会では平成30年度より、これまで市内すべての公立校（幼・小・中）で取り組んできた学社融合活動が、学社融合推進協議会（コミュニティスクール）に組織化されますが、これまでと同様、各校区において特色ある実践が展開されますことを期待しています。

最後になりましたが、越田幸洋先生には10年間という長きにわたり、市教育委員会が進めてきました「学社融合の推進」にご支援・ご指導を頂きましたことに対しまして、厚くお礼申し上げます。本当に長い間有難うございました。

平成30年3月 田辺市教育委員会 教育長 中村 久仁生

目 次

[小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
稻成小学校	11
会津小学校	13
新庄小学校	15
新庄第二小学校	17
三栖小学校	19
長野小学校	21
上秋津小学校	23
秋津川小学校	25
上芳養小学校	27
中芳養小学校	29
田辺東部小学校	31
龍神小学校	33
上山路小学校	35
中山路小学校	37
咲楽小学校	39
中辺路小学校	41
近野小学校	43
鮎川小学校	45
富里小学校	47
三里小学校	49
本宮小学校	51

[中学校]

東陽中学校	53
明洋中学校	55
高雄中学校	57
新庄中学校	59
衣笠中学校	61
上秋津中学校	63
秋津川中学校	65
上芳養中学校	67
中芳養中学校	69
龍神中学校	71
中辺路中学校	73
近野中学校	75
大塔中学校	77
本宮中学校	79

[幼稚園]

新庄幼稚園	81
三栖幼稚園	83
上秋津幼稚園	85
中芳養幼稚園	87

[学社融合実践集録]



平成 29 年 10 月 29 日 東陽中学校と東部・南部公民館 学社融合発表会のようす

平成 29 年 12 月 3 日 稲成小学校と稲成公民館 共育コミュニティ発表会のようす

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立田辺第一小学校		公民館名 中部公民館	
学社融合における学校・地域の様子 本校の校区は、城下町の名残が豊かで、その地名や産業などがそれを示しており、田辺祭や湊まつりがあるなど、歴史と伝統にあふれる地域である。加えて、田辺市の中心として商店街が栄え、現在も商店街の再生・活性化をはかる人々が様々な取組を進めている。また、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、大変熱心に学校教育活動を支援してくれる人材に恵まれている。これらの地域の人材や資源を生かし本校では、従来から教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などに地域の方をゲストティーチャーとして招いた活動を取り入れている。さらに、平成21年度から3年間、「地域の教育力を生かした学社融合事業の推進」をテーマに教育委員会指定研究に取り組んできた実績を生かすことができる。			
活動名 クラブ活動		学年・教科・領域等 第4学年～第6学年・特別活動	
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と触れあいながら、活動を通して伝統芸能や文化にふれることができる。 ・より専門的で充実した活動によって、達成感や満足感を培い、自主的・実践的な態度を育てる。 ・学年や学級を超え、地域の方々や仲間との活動を通して、望ましい人間関係を築くことができる。 	
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動を通じた地域住民と子供たちとの交流の中で、互いが学びあっていることを自覚し、大人と子供の双方からつながりを築く。 ・学校と地域が連携した活動を展開する中で、子供たちも自分たちが地域の一員である自覚を持たせる。 	
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 地域のゲストティーチャーの方々(10名) お手伝いの方々(数名)			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)			
日時	活動名・活動内容	ねらい、活動の様子	
年間10回 (月1回～2回の実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・10種類のクラブの中から児童が希望するクラブで活動を行う。 ・琴クラブ、生け花クラブ、スポーツクラブなど、たくさんクラブで地域の大人が多数参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ発表に向けて各クラブで練習を行う。 ・今まで体験したことのない伝統や文化を体験し、積極的に技能習得に向けて学ぶ姿が見られた。 ・多くの地域の方々と接することで、言葉づかいやあいさつなどの礼儀を学ぶことができる。 	
11月11日 11月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・「大人も子どもも地域作品展」にて生け花クラブ、紀州てまりクラブの児童が制作した作品の展示。 ・和室にて、茶道クラブによるお茶席を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動で制作した作品を披露する場となり、活動を知って頂きたい機会となった。 ・生け花クラブ・紀州てまりクラブの作品展示。和室では、茶道クラブが習得したお茶の作法を生かし、地域の方々をもてなした。 	
2月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ発表会の実施。来年度のクラブ選択に向け活動の紹介を行う。 ・1年間のまとめ発表として、成果を披露する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラブが活動内容の紹介を行い、習得したことを披露する。ご協力頂いた地域の方々に感謝の気持ちを伝える。 ・人前で伝える力を育むことができる。 	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>紀州てまりクラブによる 紀州てまりの制作</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地域作品展に出展する 生け花の制作</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スポーツクラブによる グラウンドゴルフ</p> </div> </div>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・得意分野をもたれている地域の方々の参加によって、様々な体験活動ができる機会が増えた。 ・活動を通して、地域の方々に「今の学校」、「今の子供達」の様子を知って頂き、交流を深めることができた。 ・家庭、学校などの限られた範囲だけではなく、地域との連携によって、教育力の向上が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の指導者の確保が必要である。 ・当日、時間の都合が合わなくなってしまったり、天気の関係等で十分にクラブ活動ができない日があった。別日で補うなど、何か補充策を考える必要がある。 ・今後もクラブ構成や地域の特性を考慮した活動の具体的な活動計画を検討する必要がある。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・普段経験することができない活動を体験することができた。 ・専門分野を生かしたご指導、アドバイスを頂くことで、技能の習得や上達が見られた。 ・地域の方々と積極的に接することで、地域・ふるさとに対する愛着をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回のクラブ活動であるため、前回の学習内容を忘れてしまう児童が多く、発展させた学習をすることが難しい。積み上げていけるような手立てを行う。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・本校職員以外の大人から教わることで、地域のことに興味を持ち、自ら意欲的に学習することができた。 ・大人に対する言葉づかい、挨拶などの礼儀を学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業と同じように、集中力を保ちながら学習に取り組ませる。 ・これからも、地域の方々に適切な言葉づかいができるよう、日頃の学校生活でも気をつけ、指導していく。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じて、普段は接点の少ない地域住民と子供の間で交流が生まれた。 ・ゲストティーチャーや参加者など、地域住民が子供の様子を知る機会を作り出すことができた。 ・地域の方々や、学社融合事業に参加することにより、子供たちとともに学ぶ喜びを得られた。 ・学校と地域が連携した活動を継続してきた結果、学校(授業)及び公民館(事業)に対する理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、授業参加の呼びかけを行うと多くの地域住民が参加してくれるが、ゲストティーチャーを含めた地域の高齢化が進んでいることから、新たな指導者や参加者を確保していくことを検討する必要がある。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの先生方が様々な工夫をしてくださるので、児童は毎回のクラブ活動を楽しみにしている。 ・日頃は経験できないことを、クラブ活動を通して経験することができた。特に、茶道・紀州てまり・琴・生け花・尺八・和太鼓・将棋・囲碁などの日本の伝統文化に触れる貴重な機会となっている。 ・地域の方々や交流する中で、大人との接し方を学ぶことができた。 ・琴クラブ、生け花クラブ、スポーツクラブでは地域の方々に多数参加していただき、賑やかな活動となっている。児童も大人も発表会に向けて、目標をもって活動に取り組んでいる。 ・スポーツクラブでは、日常体験することができないスポーツに取り組むことにより、普段の休み時間の遊びに取り入れることができた。 		
次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域の方々と共に学びを深められるよう、つながりを保っていきたい。 ・年度初めに、学校と公民館で事業を計画的に進めることができるよう話し合う。 ・ゲストティーチャーの方々や連絡をこまめに取り、取組を進めていく。 		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立田辺第二小学校		公民館名 東部公民館・南部公民館																																								
学社融合における学校・地域の様子 本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子どもを育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある東部公民館と南部公民館との連携を図りながら学社融合の取組を進めている。 具体的には、第2土曜日に実施の「公民館いけばな子ども教室」への参加、公民館主催文化展示会への作品出品、幼・保・小・中・専門学校及び地域との地震津波避難合同訓練の実施などに取り組んできた。 また本年度は、6年生が総合的な学習の時間に公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出掛けて歴史学習・語り部活動に取り組んだ。現在は三学期に予定している、6年生から5年生に向けての現地報告会に向けて練習に取り組んでいる。																																										
活動名 再発見！ふるさと「たなべ」ウォッチング		学年・教科・領域等 6年生 トライタイム(総合的な学習の時間)																																								
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、自分たちが住む地域の良さを知り、愛着をもつ児童を育てていく。 ・昨年度の資料や発表をもとにし、調べる力・協力する力・表現する力を育てていく。 ・自分たちでは、調べられないことをゲストティーチャーに教えていただき、聞く力・まとめる力を育てていく。 																																								
	地域公民館(公)	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちと地域の方々との交流の橋渡し役となる。(公民館) ・地域の良さを伝えることによって、子供たちとの交流を楽しむとともに、子供たちに地域の良さを伝えることで、自分たちも再度地域について見直す機会とする。(地域) 																																								
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 田辺第二小学校 東部公民館 南部公民館 田辺市教育委員会文化振興課 市立図書館(歴史民俗資料館) 鬮雞神社 神楽神社 覚照寺 地域にお住まいの方々																																										
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>活動名</th> <th>活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月5日</td> <td>学習計画</td> <td>・昨年度の語り部の様子や、現地見学を想起し、地域にある宝物について確認する。</td> </tr> <tr> <td>7月18日</td> <td>学習課題設定</td> <td>・学習活動を進めるために、それぞれの場所の歴史や秘密について情報を共有し、具体的な調査内容を定める。</td> </tr> <tr> <td>9月12日 ～11月20日</td> <td>調べ学習</td> <td>○各グループで以下の点について取り組む。 ・学習を進めるための資料類を用意する。 ・インターネットで各場所を詳しく調べる。 ・内容をまとめる。 ・疑問点やわからないことを整理する。</td> </tr> <tr> <td>11月28日</td> <td>ゲストティーチャーに教えていただく質問を考える</td> <td>・自分たちだけでは、分からないこと・疑問に思うことを整理する。</td> </tr> <tr> <td>12月1日</td> <td>ゲストティーチャーによる講義</td> <td>・事前に質問を伝え、調べ学習で分からなかったことなどについての話を聞く。(3箇所について)</td> </tr> <tr> <td>12月8日</td> <td>ゲストティーチャーによる講義</td> <td>・事前に質問を伝え、調べ学習で分からなかったことなどについての話を聞く。(残り3箇所について)</td> </tr> <tr> <td>12月12日 ～1月17日</td> <td>原稿作り・資料作り</td> <td>・自分で調べたことやお話を聞いた情報を語り部の文章としてまとめる。</td> </tr> <tr> <td>1月18日 ～1月25日</td> <td>「5年生に発表」するための計画・練習</td> <td>・各グループに分かれ、発表者・資料作り・提示など役割を決め練習をする。</td> </tr> <tr> <td>1月26日</td> <td>「5年生に発表」</td> <td>・6年生は、それぞれの役割に分かれて発表する。 ・5年生は、質問や感想を発表する。</td> </tr> <tr> <td>1月28日</td> <td>発表会の反省 計画・練習</td> <td>・各グループに分かれ、発表会での反省を行い、次の発表につなげる。</td> </tr> <tr> <td>1月30日</td> <td>「参観日で成果発表」</td> <td>・保護者に発表する。</td> </tr> <tr> <td>2月1日</td> <td>まとめ</td> <td>・これまでの学習をふり返る。</td> </tr> </tbody> </table>				月日	活動名	活動内容	7月5日	学習計画	・昨年度の語り部の様子や、現地見学を想起し、地域にある宝物について確認する。	7月18日	学習課題設定	・学習活動を進めるために、それぞれの場所の歴史や秘密について情報を共有し、具体的な調査内容を定める。	9月12日 ～11月20日	調べ学習	○各グループで以下の点について取り組む。 ・学習を進めるための資料類を用意する。 ・インターネットで各場所を詳しく調べる。 ・内容をまとめる。 ・疑問点やわからないことを整理する。	11月28日	ゲストティーチャーに教えていただく質問を考える	・自分たちだけでは、分からないこと・疑問に思うことを整理する。	12月1日	ゲストティーチャーによる講義	・事前に質問を伝え、調べ学習で分からなかったことなどについての話を聞く。(3箇所について)	12月8日	ゲストティーチャーによる講義	・事前に質問を伝え、調べ学習で分からなかったことなどについての話を聞く。(残り3箇所について)	12月12日 ～1月17日	原稿作り・資料作り	・自分で調べたことやお話を聞いた情報を語り部の文章としてまとめる。	1月18日 ～1月25日	「5年生に発表」するための計画・練習	・各グループに分かれ、発表者・資料作り・提示など役割を決め練習をする。	1月26日	「5年生に発表」	・6年生は、それぞれの役割に分かれて発表する。 ・5年生は、質問や感想を発表する。	1月28日	発表会の反省 計画・練習	・各グループに分かれ、発表会での反省を行い、次の発表につなげる。	1月30日	「参観日で成果発表」	・保護者に発表する。	2月1日	まとめ	・これまでの学習をふり返る。
月日	活動名	活動内容																																								
7月5日	学習計画	・昨年度の語り部の様子や、現地見学を想起し、地域にある宝物について確認する。																																								
7月18日	学習課題設定	・学習活動を進めるために、それぞれの場所の歴史や秘密について情報を共有し、具体的な調査内容を定める。																																								
9月12日 ～11月20日	調べ学習	○各グループで以下の点について取り組む。 ・学習を進めるための資料類を用意する。 ・インターネットで各場所を詳しく調べる。 ・内容をまとめる。 ・疑問点やわからないことを整理する。																																								
11月28日	ゲストティーチャーに教えていただく質問を考える	・自分たちだけでは、分からないこと・疑問に思うことを整理する。																																								
12月1日	ゲストティーチャーによる講義	・事前に質問を伝え、調べ学習で分からなかったことなどについての話を聞く。(3箇所について)																																								
12月8日	ゲストティーチャーによる講義	・事前に質問を伝え、調べ学習で分からなかったことなどについての話を聞く。(残り3箇所について)																																								
12月12日 ～1月17日	原稿作り・資料作り	・自分で調べたことやお話を聞いた情報を語り部の文章としてまとめる。																																								
1月18日 ～1月25日	「5年生に発表」するための計画・練習	・各グループに分かれ、発表者・資料作り・提示など役割を決め練習をする。																																								
1月26日	「5年生に発表」	・6年生は、それぞれの役割に分かれて発表する。 ・5年生は、質問や感想を発表する。																																								
1月28日	発表会の反省 計画・練習	・各グループに分かれ、発表会での反省を行い、次の発表につなげる。																																								
1月30日	「参観日で成果発表」	・保護者に発表する。																																								
2月1日	まとめ	・これまでの学習をふり返る。																																								

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・学校職員だけでは教えることができない地域の歴史を、専門の方に教えていただくことができた。職員にとっても初めて知ったことが多かった。 ・地域の文化遺産に対する地域の方々の思いを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査に時間がかかるため、学習時間の確保が難しい。 ・教員も地域の歴史に詳しくないため、資料の収集に苦労した。今後も地域の歴史について、教員の研修を深める必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史を知ること、疑問に思っていたことを解決し、それぞれの文化に愛着をもつことができた。 ・昨年度の情報をいかし、インターネットで調べる力やグループで協力する力など様々な面で成長することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集できた資料の内容が難しく、児童だけで読み込むのは困難なことが多かった。 ・地域の歴史について、さらに深く追究していきたいと思っている児童もいるので、継続して学習をしていく必要がある。(中学校との連携)
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生や保護者に語る事ができ、児童はそれが自信に繋がり、語り部の意義を確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は語り部を発表する実際の場がないので、子どもたちにとっての意欲関心を高める必要があった。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の方との間の橋渡しとしての役割を十分に果たすことができた。 ・5年生や保護者に語るタイミングや話すスピードなどの大切さを実感することができた。 ・学習したことを発信することで、地域にお住まいの方にもふるさとの歴史について知ってもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童との関わり方や話し方を工夫することが必要である。 ・興味や関心の持たせ方 話すスピード 言葉の選び方 等々
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・今まで教師も児童も知らなかった(気がついていなかった)地域教材を発掘することができた。何気なく通り過ぎていく地域の風景の中にある歴史的な場所や史跡について学ぶことができ、大変有意義であった。 ・今年度の語り部活動は、「地域語り部ジュニア発表」に向けての取組がなかったので、保護者や5年生を対象に行った。 ・来年度以降、今年以上に綿密な計画を立て、さらに詳しい形で教育計画上に位置づけるようにしていきたい。 ・学習に取り組む前の段階から、広く地域に呼びかけて情報提供者を求めていく必要があった。 ・地域の歴史について、教員の研修を深めていきたい。 		



学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立田辺第三小学校		公民館名 西部公民館	
学社融合における学校・地域の様子 ○本校は、西部公民館・西部センターや天神児童館と共同・連携しながら、各種事業や行事に取り組んでいる。本校区内でも核家族化が進む中、地域社会との関わりを推進し、地域の一人であると自覚を持つ児童を育成していくことは、大きな課題である。そのため、地域を知り、地域に興味をもつ取り組みとして地域に出かけ、体験的な活動を通して積極的に地域との交流を図るようにしている。 ○本校はこれまで地域とともに同和教育、人権教育に取り組む中で、西部センターとは「天神町の教育を進める会」で、天神児童館とは「西部子どもエンパワーメント支援事業」などで、連携を深めてきた。また、西部公民館とは、公民館と学校を結ぶ事業や取組について協議し、学習支援ボランティア(OK先生)やゲストティーチャー(地域ボランティア)などと連携し、活動を進めている。			
活動名 西部地域学社融合推進協議会		学年・教科・領域等 各学年・国語科・算数科・生活科・特別活動・総合的な学習の時間	
目 標	学校・園	①子供の教育をよりよいものとする。 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。 ③学社融合を推進し、更に充実する。	
	地域(公民館)	①「地域の子供は、地域の中で育てていく。」という意識を更に高めていく。 ②学社融合事業をもっと地域に浸透させていく。	
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 西部公民館及び西部地域自主防災協議会 各地区の町内会			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 4月 4年 天神崎クリーン作戦(28日) 5月 3年 町探検(11日) 6月 2年 町探検(14日) 5年 西部花いっぱい運動・土作り(9日)、西部花いっぱい運動・花植え(19日) 7月 4年 俳句をつくろう(5日) 9月 2年 月見団子作り(15日) 10月 4年 天神崎クリーン作戦(20日) 5年 天神崎学習、日和山観察(31日) 6年 ミシン学習(26日・27日) 11月 1年 手作り遊び(7日)、昔遊び(22日) 2年 児童館探検(17日) 4年 グランドゴルフ体験(16日)、俳句をつくろう(28日) 5年 西部花いっぱい運動(16日)(22日) 4・5・6年 クラブ活動 学校開放週間(6日～12日) 6年 児童館祭り参加(5日)、防災学習(13日)タウンウォッチング(29日) 12月 3年 昔のくらし体験(7日) 2月 3年 そろばん学習 5年 ミシン学習 3月 4年 俳句をつくろう (2017年)西部地域学社融合推進協議会の事業との取組の様子			
 <p>1年 手作り遊び</p>		 <p>2年 おいしい月見だんご作り</p>	
 <p>3年 天神崎の学習</p>		 <p>メルヘンさん(読み聞かせ)</p>	
 <p>4年 俳句を作ろう</p>		 <p>5年 花いっぱい運動の取組</p>	
 <p>6年 ミシン学習</p>		 <p>4年 天神崎の清掃</p>	

	成 果	課 題
学校・園	どの学年においても、学習支援ボランティアの方との交流や学習が定着し、生き生きとした授業展開ができています。また、経験からアドバイスしていただくことで、意欲を持って取り組める児童が増え、学習活動も広がり、深めることができてきています。日ごろの学習では、「家庭学習の手引き」を配布し、自主的に家庭学習に取り組めるように工夫しています。また、基本的な生活習慣の見直しに向けた「田三小 BOOK はなまるデー(ノーゲーム、ノーテレビの日:毎月13日実施)」の活動も継続して取り組んでいます。各家庭に基本的な生活習慣を意識付ける手立てとしてもよい効果が現れ、読書活動にも興味を持って取り組める児童も徐々に増えています。	地域コーディネーター・学習支援ボランティア(OK先生)の新たな人材を発掘しつつ、どのようなかわり方がより効果的かを、精査し、継続して取り組める事業展開を行うことが大切であると考えています。次年度からも学社融合推進協議会(コミュニティスクール)との連携を深め、両者の実行しやすい内容に、変容させていく。
*子供にとって	地域の方を交えて専門的な知識に触れることにより、学習が深まり、児童の学習意欲に繋げることができた。学力を付けるだけでなく、話す力や聞く力をつけることもできた。また、学習支援ボランティアの励ましや支援により、学習する喜びを味わい、地域の方と触れ合う良さを感じることができた。大人の方との接し方を学ぶこともでき、社会性も育っている。	学社融合の取組を通して、地域の中で生きる力を育むと共に、全体の児童に主体性をもって学習に取り組む姿勢と、基礎・基本の力を定着させる必要がある。地域を大切に、その中の一人であることを自覚して生活を送る心を育てることが望まれる。
*子供にとって	毎年恒例のように、地域の方が学習支援ボランティアとして協力し支えていただけことで、子供たちとの交流が深まり、安心して学習に取り組めるようになった。	これらの活動を通して、自分自身が今の段階でできることや、しなくてはいけないことに基づき、実際の社会で求められる行動がとれるようにすることが課題である。
地域(公民館)	地域コーディネーター自らが、学校と地域の調整を行い、学習支援ボランティアに連絡調整を取っており、地域主導型の学社融合事業が着実に浸透している。	学習支援ボランティアの固定化や高齢化が進み、何らかの手立てを講じていかなければならない時期である。地域コーディネーターのネットワークを当事業に取り込みながら、地域の幅広い年齢層の方々に協力してもらうことや、新しい人材発掘にも取り組んでいかなければいけない。
評価及び次年度に向けての取組の方向 各学年の授業にあわせて、学習ボランティアの方々が協力していただくことにより、児童が生き生きと学習に取り組んでいる。 手作り遊びや昔の遊び道具を使った学習では、多くの学習ボランティアに協力してもらうことができ、今まで経験したことがないことにも、進んで取り組もうとする児童の様子が見られた。優しく接していただけるので、子供たちも安心して声をかけることができていた。児童館の先生に来ていただき、月見だんごの作り方を教えてもらいながら、保護者と一緒になって月見だんごを作って食べることができた。地域の和菓子屋さんで購入したあんこを使って、地元で作られているものよさに気づくこともできた。ゲストティーチャーという形で講師先生に来ていただき、海の生きものに直接ふれたり、生態について教えてもらったりすることができた。俳句づくりやミシンの使い方の学習では、多くの学習ボランティアに参加していただき、一人一人ていねいに教えてもらうことができた。 学習したことを、公民館便りや学校便り等で、多くの方々に知らせることにより、町内会や老人会、各種団体と地域全体にも伝えることができた。その結果、関係団体や学習ボランティアの方々に快く協力をしたただけるようになってきたと考えている。また、初めてのことや難しそうなことには、あまり積極的でない児童でも、普段馴染みのない体験や学習の場面などで、やさしく丁寧に接してもらうことで、自分からチャレンジしてみようとする姿が見られている。生活してきた時代や年齢の違いがあっても、授業を通してふれあったり会話したりすることにより、温かな人間関係が築けるようになってきている。学習や交流を通して、親睦を深められるようになり、何らかの形で関わってもらえたり、わからないことを教えてもらえたりしたときの感謝の気持ちも持てるようになってきている。お年寄りからも、交流した喜びの気持ちを伝えてくれるようになり、児童も気持ちよく活動することができて、お年寄りを大切にすることも育ってきている。 次年度に向けて、現在行っている活動を充実させ、地域の方々とつながりを大切にし、地域の一員であることを自覚しつつ、行動できる児童を育てていきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立芳養小学校		公民館名 芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 芳養小学校では、「芳養共育コミュニティ本部」を学社融合の基盤とし、児童の健全育成を図る取組を行っている。その内容は、地域と学校の連携したもの、育友会・家庭と学校の連携したもの、公民館と学校の連携したもの、地域の教育力を生かした授業、芳養ふれあい教室の5つに分類することができ、いずれも話し合いを大切にしながら、学校・地域・家庭・公民館が一体となって進めている。 また、地域の教育力を学校の授業に生かす上では、「芳養地域人材バンク」を活用している。これは、芳養公民館と学校とが共に募集をしているもので、登録していただいた方には、スクールパートナーとして生活科や書写、総合的な学習の時間などの授業に参加していただいている。		
活動名 スクールパートナーを活用した学習		学年・教科・領域等 全学年・生活科、書写、総合的な学習の時間
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を積極的に活用することで、郷土に伝わる文化や産業に対して興味・関心を児童にもたせる。 ・地域の方々が持つ専門性によって、児童のより確かな知識と実践力を育む。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と児童の交流を通して、「子供は地域で育てる」という意識の向上を図る。 ・学社融合を推進するための基盤となる人的資源を育成する。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 芳養公民館 芳養地域人材バンク登録者 育友会 地域の方々		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 現在、35名の地域の方々に芳養地域人材バンクに登録していただいております。その中からスクールパートナーとして授業に参加していただいております。スクールパートナーの方々や芳養婦人会の方々、それに地域のお店をはじめとする多様な地域の方々と共に、今年度実践を行った内容は以下の通りである。 【1年生】よもぎだんご作り・昔の遊び体験 【2年生】校区を探検しよう・おいものむしパンを作ろう 【3年生】梅ジュース作り・ひまわりの種植え・書写・芳養のまちアピール大作戦・芳養の町クリーン作戦 【4年生】心のバリアフリーを広げよう 【5年生】稚魚放流体験 【6年生】本当に大丈夫？災害に対するあなたの備え！ 【なかよし】ひじきご飯を作ろう・おいものむしパンを作ろう 【3～6年生】芳養浦音頭の練習		
  		
なお、これらの実践を行うに当たっては、毎年年度当初に「芳養共育コミュニティ本部会議」で地域・育友会・職員などが話し合いの場を持っている。それぞれの実践においては、主に学年担任とスクールパートナーの方が事前に打ち合わせをし、学習内容や役割分担などを確認し合っている。 本校では、放課後に子供たちが安全に過ごせる居場所作りをねらいとして「芳養ふれあい教室」を開いている。ここでは、芳養人材バンクに登録していただいている方々に講師となっただき、それぞれの専門分野を生かして子供たちに様々な内容を体験させてくれている。現在開かれているのは、囲碁・キンポール・茶道・俳句・かきかた・中国語・英語・花アレンジ・読み聞かせの9つの教室であり、1年間を前期と後期に分け、参加児童の募集と教室の実施を行っている。今年度の全校児童数は285人であるが、前期は122人、後期は131人の児童が芳養ふれあい教室に参加をし、有意義な時間を過ごした。		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・共に取組を進める中で、スクールパートナーをはじめ地域の方々に児童や学校の様子を知ってもらえた。また、その結果として、地域と学校の距離を縮めることができた。 ・スクールパートナーの方々に専門的な分野を担当してもらうことで、普段の授業ではなかなか指導が難しい郷土の文化や産業に関わる事柄について、多様な活動を展開することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域・家庭・公民館が一体となって取組を進めてはいるが、保護者世代をスクールパートナーとして活用できていない現状がある。子供たちのための様々な取組に保護者の方も参加してもらえるようにしていく必要があり、そのためにも、参加しやすい内容の設定や取組の周知を図っていくことが重要となる。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールパートナーの方々の経験や実践に基づいた活動に取り組むことで、普段の生活の中ではなかなか経験できない事柄を体験することができた。また、それらの活動を通して、地域の方々の自分たちへの愛情を感じることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのために計画や準備などをしてくれ、活動を行ってくれる地域の方々に対して、適切なマナーを持って接し、お礼の気持ちを自分自身の言葉や行動で表現できる力を益々育てていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と何度も交流を持つ中で、自分の地域のことに関心を持ち、ふるさとを愛する心を育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員としての自覚を持ち、自分の地域についての知識や愛着を高めていく中で、この地域で育った自らのアイデンティティを確固たるものにしていきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、新規の教室を開室するなど、10年経った今でも活発に活動を続けることが出来ている。 ・芳養ふれあい教室を通して、茶道などの伝統文化やニュースポーツであるキンポールを学ぶことにより、子供たちが公民館の文化・体育行事に参加してくれるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師としてボランティアを担ってくれている地域の方々が固定化しており、それに伴い高齢化が見受けられる。今後は、持続可能な運営のために後継者の育成が必要である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールパートナーの方々が、それまでの生活の中で培ってこられた知識や経験を授業で生かしてくれるので、児童は多様な活動を行い、学びを深めることができた。 ・芳養地域人材バンクをはじめとする地域の方々の結束力や、「芳養の子供たちは芳養の地域で育てる」という意識が高いために、児童の実態に合わせて柔軟に対応して活動をしてきている。 ・「子供たちから元気をもらえる」といった声があるように、地域の方々にとっても有意義な取組となっている。 ・芳養地域人材バンクへの登録を呼びかけているが、新規登録者は少ない傾向が続いている。 ・取組をより良いものにしていくために、積極的に職員とスクールパートナーが話し合いの場を持つなど、交流をさらに深めていく必要がある。 		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立稲成小学校	公民館名 稲成公民館
--------------------	---------------

学社融合における学校・地域の様子
 「共育コミュニティ本部事業」の研究発表の年であった。テーマは『つなげよう 広げよう 稲成の「共育」！～新しい時代に向けて～』とし、昨年までの成果と課題を踏まえながら、取組のまとめを行ってきた。
 取組の柱を①地域人材を生かした学習による「学校力」の向上、②保護者との信頼関係を基盤にした「家庭力」の向上、③ふるさと学習を通して育む「地域力」の向上とし、体制を整え取り組んできた。今年度は、授業作りでは特に、本地域ならではの「ふるさと学習」のカリキュラムの確立に力を注いだ。また環境整備においても、地域のボランティアさんの力を借り、「杉の子ランド」の維持管理を行っている。

活動名 地域人材を活用した「ふるさと学習」の取組	学年・教科・領域等 1・2年生・あすなろ学級(生活) 3・4・5・6年生(総合的な学習)
-----------------------------	---

目 標	学校・園 ・地域の教育資源・地域人材を積極的に授業に活用することで、児童により高い関心、意欲を持たせる。 ・「ふるさと学習」を積み上げ、地域を学び、地域への愛着を深める。
	地域（公民館） ・地域の教育資源・地域人材を発掘する。 ・地域人材の知識や技能を生かし、学校と協力して授業づくりを研究する。 ・地域の子どもを「学校・家庭・地域」で一体となって育てるという意識の向上を図る。

校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織
 稲成地域共育コミュニティ地域本部 稲小いわき会 稲成校区協議会
 稲成公民館運営協力委員会 育友会

取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)
 総合的な学習・生活科の時間に「ふるさと学習」として取組を進めてきた。

学年	内 容	学習支援ボランティア
1・2	稲成の自然と環境・杉の子ランド	
3	「稲成のお地蔵さま」 ～下村地区・谷中地区～ ☆地域の方々の願いがともよく伝わってきた学習でした。	谷中地区：小田さん 下村地区：樋原さん
4	稲成の名物「稲成なす」 ☆800年以上前からあると言われていた「稲成なす」を受け継いでいきたいと思いました。	荒光地区：榎本さんご家族
5	「伝統文化を受け継ごう」 ～稲荷神社と獅子舞～ ☆3地区の獅子舞は、僕たち、私たちが受けついでいきます！	山田公民館長さん 荒光地区：辻本さん 市文化振興課の方
6	「高山寺 阿涼さん物語」 ～悲願の多宝塔建立～ ☆旅の僧、阿涼さんと稲成糸田村の人々の温かなふれあい、そして多宝塔建立までの貴重な物語を知ることができました。	曾我部住職さん



1・2年 杉の子ランドの歌とダンス



6年 高山寺 多宝塔について学ぶ
～旅の僧、阿涼さんにまつわるお話は私たちが語りついでいきます～



3年 谷中のお地蔵さん



4年 稲成なすについての発表



5年 獅子舞

	成 果	課 題
学校・園	・3年間の研究指定を受けて、多くの成果が残った。一番大きいことは、大勢の支援ボランティアの方との出会いである。授業の中だけでなく、さまざまな場面において、大変熱心に支えていただくことができた。 ・また地域の方々や環境支援ボランティアさんの力を借り、学校裏の「杉の子ランド」の再生維持管理ができた。今では様々な学習に活用している。 ・クラブ活動では、切り絵クラブ・家庭科クラブ・農業クラブに地域人材を導入することができた。	○これまでの研究を踏まえ、引き継いでいけることと、新たに挑戦していくことに分け、地域の方とのつながりを大切にしながら、取り組んでいく。 ○「杉の子ランド」のメンテナンスを年間計画に位置づけ、今後安全に長く利用できるよう管理する。 ○クラブ活動への地域人材の定着を図る。
*子供にとって	・「ふるさと学習」では、支援ボランティアさん自分たちの知らなかったことを教えてもらい、またたくさんふれ合うことで、ボランティアさんではなくてはならない存在となった。	○「ふるさと学習」の内容の発信が、今回は「ふれあい文化祭」と「コミュニティ発表会」の二回あった。今後の地域への発信方法を検討したい。
*子供にとって	・地域の方が授業やふるさと学習に参画することにより、興味・関心・意欲が高まっている。また、地域の方々や顔見知りになり、結びつきも深くなっている。	○今まで以上に進んで地域に出向き、地域の一員であることの自覚を持ち、地域の良さを発見し、ふるさと「稲成」に誇りをもつ人になってほしい。
地域（公民館）	・学校の授業に参画することにより、地域の人材が持っている知識を振り返る機会となった。 ・子供たちと何度かふれあうことで、結びつきが深くなり、楽しみが生まれた。	○「コミュニティ本部事業」の取組を通し、地域・公民館・学校との連携を深めてきた。これまでの取組を振り返りながら、より充実した活動に発展させていきたい。 ○地域人材・地域にある教育資源をさらに発掘し、学習支援ボランティアとして学校との関わりを続けていく。

評価及び次年度に向けての取組の方向
 ○評価
 ・「共育コミュニティ本部事業」の大きな成果は、学習支援ボランティアを招いての授業である。地域コーディネーターを中心に、担任が一人で行う授業より効果的な授業を行うための、専門性や独自性を持つ学習支援ボランティアを探していただいている。
 ・「ふるさと学習」のカリキュラムの確立と「杉の子ランド」の再生オープンも大きな成果として残った。子供たちは、「杉の子ランド」で様々な学習をし、昼休みには北風をもろともせず鬼ごっこを楽しんでいる。かつて杉の子ランドで遊んだ経験のある保護者たちは、参観日に足を運び懐かしんでいる。どちらも、ボランティアさん方を含む地域の方々の大きな力で実現したものである。
 ・「図書室の充実」も大きな成果である。図書館ボランティア・学校司書のみなさんによる、図書の整理など専門的で継続的な活動により、大変使いやすい図書室になっている。

○次年度に向けての取組の方向
 ・これまでの取組を振り返り、整理していく中で、さらなる地域教育資源・地域人材を発掘することを考慮する。
 ・学習支援ボランティアさんを導入した授業作りを、計画の中にしっかりと位置づける。
 ・学習支援ボランティア以外の各支援ボランティア(交通安全・図書館・環境)のさらなる充実を図る。

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立会津小学校		公民館名 秋津公民館・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校では、「会津さわやかコンサート」や「合同作品展」「獅子舞鑑賞」「昔の遊び体験」など、保護者や校区協議会、公民館、敬老会等、地域の各種団体との連携、協力を得ながら、様々な教育活動に取り組んでいる。現在511名の児童が通学しており、校区協議会シニアパトロールの登下校の見守り活動や、公民館での「町民運動会」、町内会の「防災訓練」など、地域で積極的に子供たちを見守り、育む活動が展開されている。また、総合型地域スポーツクラブ「会津スポーツクラブ」の活動は、所属している子供たちにスポーツに親しむ多くの機会を提供してくれているとともに、多くの子供たちにスポーツに対する興味・関心を高める役割を担っている。		
活動名 会津さわやかコンサート、合同作品展		学年・教科・領域等 全校・特別活動(学校行事)
目 標	学校・園	様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して ・地域の伝統や文化とそ地域に住まう人々を大切に、感謝する心を養う。 ・言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。 ・発表や作品の鑑賞を通して相手の気持ちや思いを感じられる心を育てる。
	地域(公民館)	・公民館活動を通じて学習した成果発表の場を提供する。 ・地域の人々や子供たちに見ていただくことで、達成感を得ていただき、今後も活動を継続する意欲を養っていただく。
校区の推進組織・支援者及び支援組織 会津小学校・会津小学校育友会・秋津公民館・万呂公民館・会津校区協議会		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ○会津さわやかコンサート【11月11日(土)】 ・会津校区協議会主催、会津小学校・会津小学校育友会共催のもと、秋津・万呂両公民館の協力を得て開催する。学校・家庭・地域が一つになって、お互いの心が触れ合う時間を持ちたいという願いのもとで開かれ、今回で第10回を迎えた。参加者は小学校の児童を入れてのべ約1200名。 ・内容…会津小学校1年生から5年生による学年別合唱、6年生による合唱・合奏、会津小学校合唱部による合唱・重唱、公民館サークルによる合唱、高雄中学校吹奏楽部による演奏、高雄中学校吹奏楽部と会津小学校合唱部の共演、高雄中学校吹奏楽部による伴奏で全員合唱(ふるさと)		
○秋の合同作品展【11月20日(月)～22日(水)】 ・会津小学校、秋津公民館、万呂公民館が合同で学校開放期間に合わせ、作品展を開催している。子供たちの学習の成果とともに、公民館活動の成果を見ていただく機会を提供している。 ・内容…子供たちの絵画の展示、公民館サークル「秋津パッチワークサークル」「万呂パッチワークサークル」の文化作品展を実施		
○ふれあい交流(昔の遊び体験)【12月1日(金)】 ・1、2年生が秋寿会、万呂寿会の方々に昔の遊びを教わりながら、交流を深めている。 ・内容…秋寿会、万呂寿会の方々が、竹馬・こま・お手玉・竹とんぼ・ぶんぶんごま等の約20種類のブースを作り、子供たちが各自それぞれのブースを回り、遊び方を教えてもらいながら交流する。		
  		
さわかコンサート 秋の合同作品展 昔の遊び体験		

	成 果	課 題
学校・園	行事を通して発表の練習や作品づくりに、主体的・意欲的に取り組むことができた。学社融合の取組では、子供たちも、それに関わる保護者や地域住民も、それぞれの目的意識を持ち、取り組んできた。当日までの練習や作品づくりの過程だけでなく、当日の他の出演者の発表や作品を楽しむとともに、自分を表現することに達成感や充足感を得ることができた。	「さわやかコンサート」の運営には、育友会本部役員と常任委員の保護者が中心となり、全員が協力し合って行事を支えてくれた。終了後は皆さん充実した表情で、成功の喜びを分かち合っている。委員は毎年交代するが、校区協議会の常任委員と協力して取り組むことで、行事の良さを実感するとともに、お互いが知り合うきっかけとなり、日頃の生活にもつながる関係ができることを期待している。
*子供にとって	学校・公民館・地域の行事を通して、地域の方と交流し、触れ合う機会を得た。一方的に作品や発表を見るだけでなく、互いに発表し合う、作品を鑑賞し合うことでより充実した時間を過ごすことができた。時間・場所・目的の共有が、今後、子供と地域住民の絆を、さらに深めるきっかけとなることを期待している。	保護者・地域の方など、日頃から自分たちを見守ってくれている身の回りの人に対して、感謝の気持ちを持ち、その気持ちを、自分の言葉や行動で素直に表現できるよう引き続き取り組んでいきたい。また、行事での交流を通して相手を大切に、思いやる気持ち、マナーや作法を身につけさせていきたい。
*子供にとって	地域の方とふれあい、公民館活動がどのようなことをしているのか知らせることができた。学習の大切さや、継続することの大切さを考える機会となることを期待している。	作品や発表を見て、自分が住んでいる地域に誇りを持てるようにしたい。また、学習の成果だけでなく、作品等が完成するまでの過程を知らせられるように工夫したい。
地域(公民館)	発表の場を提供することができ、達成感を与えることができた。会津小学校で開催することで、子供だけでなく、保護者にも活動を周知することができ、学習意欲向上や、交流の促進に繋げることができた。	何を目的として実施しているかということ、周知しきれていない部分がある。主催者側の都合ばかりでなく、お互いの状況を理解し、無理なく展開する必要がある。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・各行事では、子供たちや出演者だけでなく、参加者・運営に携わった保護者にも充実した笑顔が多く見られた。この笑顔には、行事に向けた取組の過程とその結果において、学校と公民館が設定した目標が達成され、やりがいを感じるということが含まれている。今後も、目標の達成のために行事の工夫・改善に努めていきたい。 ・学社融合の取組が無理なく持続的に発展するためには、子供と教職員、公民館職員と公民館サークル、保護者と地域住民のそれぞれにメリットがあることが重要である。そのためには、今年度の取組を評価し、来年度に向けて改善すべき点がないか検討する必要がある。また、学校での限られた授業時間内での取組という観点からは、特に取組の効率化が必要である。他の多くの行事との兼ね合いを考慮し、各行事の実施時期や実施内容等についても検討し、計画的に行うことが大切である。		
  		
さわかコンサート 秋の合同作品展 昔の遊び体験		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立新庄小学校		公民館名 新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子 新庄小学校では、地域と連携し、地域を知り、地域で学び、地域を愛する児童を育成することを目標に、林業、農業、伝統的な祭りや行事、福祉、地震や津波等について学習する機会を設け取り組んでいる。新庄地域は、古くから熊野の林業やそれに関連した製材業などが盛んであり、木造新校舎は紀州の木材がふんだんに使われたものとなっている。市指定無形民俗文化財である祇園祭の「ぎおんさん夜見世」を始めとする伝統的な行事も多く、地域や各種団体の方々も学校教育活動にたいへん協力的である。また、新庄公民館・新庄幼稚園・新庄小学校・新庄第二小学校・新庄中学校が連携し、月に一度の担当者会で情報交換を行ったり、年に一度の合同研修会で研修を行ったりしている。		
活動名 福祉体験学習 公民館と連携した各学年の取組		学年・教科・領域等 全学年・生活・音楽・総合的な学習の時間・学校行事
目 標	学校・園	地域の祭りや行事などへの参加と、伝統産業の調べ学習、福祉施設との交流などを通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。
	地域（公民館）	学校・家庭・地域の連携を図り、地域の特色をいかした取組を展開し、地域に興味や愛着を持ってもらう。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 地域の方々 新庄公民館 新庄地区老人会 真寿会 ふたば福祉会 南紀のぞみ会 社会福祉協議会		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 「福祉体験学習」 3年2学期 真寿苑訪問 * 新庄地区には、様々な公共施設があることを知り、体験を中心とした活動を通して自分たちの住む地区を理解する。 4年2学期 運動会敬老種目 * 運動会の敬老種目に参加するおじいちゃんおばあちゃんのサポートをする。 4年2学期 視覚聴覚障害者理解 * アイマスク体験や無音体験、福祉の話などを通して、障害者の気持ちを理解し、バリアフリーな社会に向けて自分たちにできることを話し合う。 5年3学期 肢体不自由者理解 * 障害者の方の気持ちや思いを理解し、バリアフリーな社会が大切であることに気付く。 6年2学期 高齢者・障害者理解 社会福祉施設訪問 * 高齢者が今までの社会に貢献してきたことに対し尊敬や感謝の気持ちを持ち、温かい心で接する態度を養う。また、知的障害者に対する理解を深め、温かい心で接する態度を養う。 * 福祉施設を訪問し、利用している人、介護している人のことを理解し、「ともに生きる」について考える。		
「公民館・地域・サークル活動などと連携した各学年の取組」 ○むかしあそび 1年生(3学期) * 地域の高齢者の方に教えてもらい素朴な道具での遊びのよさと、ふれ合う楽しさを知る。 ○コーラス 2年生(1学期) * サークルの方に歌などをきかせてもらい、音楽の楽しさや共に活動する喜びを知る。 ○ぎおんさん 3年生(1学期) * 地域の方に「ぎおんさん」のいわれや作品の作り方を教えてもらう。 ○グランドゴルフ 4年生(3学期) * サークルの方と一緒に運動し、体を動かす楽しさと共に活動することの喜びを知る。 ○箏・尺八 5年生(3学期) * サークルの方に演奏を聞かせてもらい、伝統文化のよさを学ぶ。 ○地震津波の話 6年生(2学期) * 地域の方から地震や津波の体験談を聞かせてもらい、命を守る方法と心構えを学ぶ。		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な技術や知識をもっておられるの方々をお招きすることで教室だけでは教えられないことを学ばせることができた。 ・地域の方々に学校や子供たちの様子を知ってもらうことができた。 ・地域の方の様々な活動を知る機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に学校の取り組みを発信する機会を増やしていきたい。 ・学習ボランティアの活用を工夫し、地域の方に関わっていただく活動内容を広げていきたい。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加したり、地域の方々とともに活動したりすることで、地域がより身近となり、地域への関心が増した。 ・専門的な知識等にふれ、学習を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで挨拶をしたり、関わったりできるよう、コミュニケーション力を高める。 ・子供たちが地域の一員として主体的に活動できるような取組を工夫する。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちと地域の方々が交流することで新たな地域の繋がりができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たにできたつながりを絶やさないように今後もふれあいが必要。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が学校や地域の取組を通じて、子供たちと触れ合うことで楽しみが生まれた。 ・地域の良さや大切に思う心を子供たちに伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことをよく知っている方、さまざまな取組に協力していただける方を発掘し、学校と地域の連携を深めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習に位置づけ、活動を継続していることから、系統立った取組ができている。 ・地域伝統の祭り「ぎおんさん」の作品作りを参観日に実施し、いわれや作り方を児童だけでなく、保護者の方にも知っていただくことができた。 ・多くの児童が興味をもって積極的に活動することができた。地域の方々とのふれ合う機会が増え、地域を想う心も育ってきている。 次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・学習ボランティアとして地域の方に関わっていただける活動を考え取り入れていきたい。 		
  		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立三栖小学校		公民館名 三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は風光明媚な環境にあり、梅を中心とする農村地帯である。しかしながら、専業農家数は年々減少傾向にある。また、宅地造成が進み、他の地域から転入してくる人も多くなってきている。子供たちは、温厚で誠実な性格の子が多い。本校PTA組織も「育宝会」という名が示すように、子供は地域の宝という意識が地域全体にあり、地域・保護者の学校教育に対する関心が高く、学社融合の活動もとても協力的に行っている。		
活動名 三栖の史跡めぐり		学年・教科・領域等 5・6年総合的な学習
目 標	学校・園	・地域を実際に歩き、そこにある史跡を見たり、それにまつわる説明を聞いたりすることで三栖地域の歴史への理解を深め、今後の学びに生かすことができるようにする。 ・地域の方から直接お話を聞く中で、交流を深め、地域の方々の見識にふれることで、地域に対する愛着と誇りを持たせる。
	地域（公民館）	・地域の歴史、文化を知ることで、地域への愛着、誇りを育む。 ・地域の方々と触れ合うことで、地域の一員であるという意識を高める。 ・地域の人材を生かしながら、地域ぐるみで子供たちを育てるという意識の向上を図る。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 三栖公民館文化委員		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)		
<p>公民館文化委員学習会 10月 4日(水) 19時～21時 ◎史跡巡りのための学習会及び打合わせ 参加者・・公民館長、公民館主事、公民館文化委員(約10名) 教頭、学社融合担当、5・6年担任(4名)</p>		
<p>5年史跡巡り 10月12日(木) 9時～15時 中三栖、上三栖方面 尋声寺・三栖村方文書庫・妙見宮・珠簾神社・伝場所跡・長尾坂・稻荷神社・大剰寺跡</p>		
<p>6年史跡巡り 10月20日(金) 9時～15時 下三栖方面 一里塚・高坊遺跡・三栖廃寺・五郎地蔵寺・善光寺・三栖王子 ◎三栖の史跡を見たり、それにまつわる説明を聞いたりすることで、三栖地域の歴史への理解を深める。文化委員の方々と交流し、地域への愛着を持たせる。</p>		
<p>5年・6年 史跡巡り発表会 12月15日(金) 14時～15時 ◎グループでのまとめの発表を文化委員の方にも聞いて頂き、講評をして頂く。 史跡巡りで分かったこと、その後、グループで深めた内容を発表し、聞くことで理解を深める。</p>		
<p>公民館主催の文化展 2月24日(土) ◎史跡巡り語り部発表予定</p>		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の文化委員の方々から説明を聞きながら史跡を巡ることで、三栖風土記には載っていないエピソードなど詳細について知ることができた。 ・地域の方と一緒に史跡を巡り、お弁当を食べたり質問をしたりする中で交流することができた。 ・発表会に文化委員の皆さん等を招待し、発表にむけての取組への意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡巡りをするまでの事前学習及び事後学習においても、より多くの場面で地域の様々な方々と交流できるような活動計画を立てていければと考えている。 ・文化委員の方々に他の学年の学習にも参加して頂き、広く交流できれば、史跡巡りにおいてもより深く交流できると考える。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の活動を知って、地域への関心が増した。 ・専門的な知識等にふれ、学習を深めることができた。 ・発表にむけての取組への意識が高まり、子供たちの「発表する力」の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめの発表を学年や文化委員さんにだけではなく、学校全体の集会などで行うことで、低学年の子供たちにも地域のことを知らせることができると考える。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史、文化を知ることで、地域への愛着や誇りを持つことができた。また、地域の方々とふれあうことにより、地域の一員としての意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を通じ、地域の一員として、地域に貢献していくという心を育むとともに、学習内容を自らより深めていくなど、学習意欲の向上につなげていく。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じ、改めて地域を知る機会となった。また、児童の成果発表を聞くことで、活動の成果や改善点を知ることができ、今後の活動への意欲につながった。 ・公民館文化展にて、児童の学習発表を行うことで、地域の多くの方々に成果を知ってもらい、活動を広げるきっかけとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域として、子供たちの育ちについて意識を共有し、積極的に学習活動に関わっていける体制をつくっていきたい。また、様々な機会を捉え、協力いただける地域の人材を発掘し、さらに充実した活動を展開していきたい。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校には熊野古道が通り、史跡なども多く残っている。児童は登校途中など目にはしているが、それがどういうものなのか知っている児童は少なかった。今回の学習を通して、それぞれの史跡がいつ頃のもので、どうして建てられたものかという歴史を学ぶことができた。また公民館文化委員の方が10名程度、また住職さんの協力などを得ながら説明していただいたり、一緒に弁当を食べるなどの交流ができた。 史跡巡り後は、グループに分かれて壁新聞をつくりまとめをした。今後も「三栖の史跡巡り」を通して、児童が校区の歴史について学べる機会として取り組んでいきたい。 ・今後は、この史跡巡りだけでなく、様々な機会を見つけて、地域の方々の力をお借りし、子供たちが地域の方々とつながっていく力を育てたいと考える。 そのためにも、まず教師が地域を知り、地域の方々と交流できる場所へ出かけていく必要があると考える。 ・この史跡巡りの学習を、5・6年だけではなく、系統的に全学年で少しずつ進めていく方法もあるのではないかと考える。 		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立長野小学校		公民館名 長野公民館	
学社融合における学校・地域の様子 長野地区では、学校と公民館活動(地域の各種団体などの活動をはじめとした社会教育)との連携を密にし、様々な教育活動に対して、公民館活動のご協力(ゲストティーチャーとして、合同地区内ハイキングの計画と実施等)をいただきながら、子供たちの教育に取り組んでいる。 今年度は旧伏菟野小学校との統合を迎え、児童と地域が共に学ぶためにまずは互いの地域について知ることを中心に活動を進めた。両地域の方々は、地域が広がっても子供たちの活動に対して常に気にかけてくださっている。子供たちへの励ましのお声がけ等の日常的な御協力はもとより、様々な行事を通して物心両面から学校を支えてくださっている。			
活動名 「ふるさと長野のみかん」「長尾坂と八幡神社について」「防災学習」 「地区内ハイキング」「凧づくり&凧揚げ」		学年・教科・領域等 全学年・総合的な学習の時間・生活科	
目 標	学校・園	・地域の各種団体との交流を重ねる事で、学校と地域の信頼関係を深め、教育力を育てる。 ・地域の方々との交流により、コミュニケーション能力を深め、地域を愛する心を育てる。 ・地域に貢献している人々やその生き方を知ることで、今後の生き方や進路を考える力を育てる。	
	地域(公民館)	・各種行事や地域の人とのふれあいを通じ、地域への関心、愛着、誇りを育む。 ・児童の学習活動や成果を知ることで、地域の良さを再認識し、これからの地域について考える機会とする。 ・地域と学校が意識の共有を図りながら、より一層地域の教育力の向上に努める。	
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 長野公民館 田辺市役所長野連絡所 JA紀南長野店 JA紀南総合選果場 光福寺 長野小学校育友会をはじめ伏菟野区・長野区両地域の方々			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 本年度の学社融合の取組として、公民館の協力のもと、地域学習を中心とした活動内容を展開してきた。旧伏菟野小学校との統合もあり、長野と伏菟野、両地域についての学習や体験活動を通して、まずは両地域を知ることから始めた。 地域の魅力、地域の人々の足跡や大切に守り伝えてきたものを学ぶだけでなく、さらに、地域の課題についても気づかせる機会とする。将来、地域の担い手となる子供たちに、これからの自分達にできることについて考える機会とする。 【2・3・4年生の取組】「ふるさと長野のみかん」(2学期) (内容) 地域の主な産業である「みかんづくり」について学習した。JA紀南長野店を訪問し、みかんづくりの仕事、みかんの種類や栄養等についてお話をいただいた。地域の農家の工夫や苦労について学ぶよい機会となった。また、JA紀南総合選果場では、みかんが大きさや糖度によって機械で選果される様子や出荷される様子などを見学した。これらの内容をまとめ、学習発表会で多くの地域の方々に向けて発表した。 【5・6年生の取組】「長尾坂と八幡神社について」(2学期) (内容) 地元の田辺市文化財愛護協力員である奥芝さんに、長尾坂を実際に歩きながら、熊野古道「長尾坂～捻木峠」についてのお話をいただいた。古道沿いに残る旧跡や伝説、古道を守り伝えてきた先人たちの苦労について学んだ。また、八幡神社に奉納される田辺市指定無形文化財「住吉踊り」について現役の踊り手でもある芝崎さんに教えていただいた。長い間、口承のみで大切に受け継がれてきていることに児童は誇りを感じる事ができた。学んだことをまとめ、学習発表会で多くの方々に向けて発表することができた。 【全校】「防災学習」(6月)「地区内ハイキングin伏菟野」(11月)「凧づくり&凧揚げ」(12月) (内容) 旧伏菟野小学校との統合で、伏菟野地区へもできるだけ出かける機会をもった。防災学習では、伏菟野の災害現場跡を見学し、谷口町内会長さんから6年前の大水害での被害の様子や伏菟野地域の人々の復興にかける思いについてお話いただいた。命を守る大切さや自分達にできることについて考える機会となった。公民館と合同で実施した地区内ハイキングでは、伏菟野地区を地域の方々と共に歩いた。旧伏菟野小学校の6年生2人が名所旧跡の語りを聞かせてくれた。地元の歴史に詳しい玉置さんからもお話をうかがうことができた。公民館共催の凧づくりでは元中学校長の井瀬さんに和凧づくりを教えていただいた。60mもの連凧や2m四方の大凧も作り、旧長野中学校グラウンドで全員で力を合わせて揚げる事ができた。			

	成 果	課 題		
学校・園	・小学校の統合で地域が広がることにより、まずは地域を知ろうと本年度は伏菟野区へ足を運ぶ機会を多くもった。長野区だけではなく、伏菟野区の方々とも交流でき、さらに両地域の歴史や産業、地域の課題を学び、地域の方々のご協力を得ながら体験活動を行うことができた。 ・地域の方々のふるさとを愛する思いや絆を大切に考える気持ちにふれることができ、子供たちに伏菟野や長野を愛する心を育てるよい機会となった。	・統合後一年目として今年は両地域を知ることにより主眼を置いたが、今後も公民館の御協力をいただきながら、地域の方々との交流や信頼関係を深め、地域学習や体験活動の内容を広げていきたい。 ・伏菟野・長野の地域の一員として、地域の課題に対して、自分たちにできることを考えるだけでなく、実践できるように進めていきたい。		
*子供にとって	・長野区、伏菟野区、両地域の人たちの仕事や生き方を学ぶことにより、地域の人々の苦労や地域の課題を知ることができた。 ・両地域の特色や歴史を学ぶことにより、地域への関心を深め、地域を大切にしようとする意識をもつことができた。	・統合によって広がった地域についての理解をさらに進めていきたい。 ・ここに暮らす人々の願いを知り、地域の一員として課題をとらえ、主体的に行動できるように学習を展開していきたい。		
*子供にとって	・地域の歴史や文化、産業を学習することで、地域を愛し誇りに思う心を育むことができた。 ・各種地域行事に参加し、地域の方々との交流することで、自分たちも地域の一員であることを強く認識することができた。	・学習や地域行事を通じて、地域の一員として、地域の現状や将来について考え、自分たちが地域の後継者であるとの意識を強く持つような活動を展開していきたい。		
地域(公民館)	・児童の学習活動やその成果を知ることができ、児童とともに地域について学ぶことができた。また、改めて地域の課題を見つめ直すとともに、今後の活動への意欲にもつながった。	・地域全体が子供・学校への関心が高く、現状では取組は充実している。今後もこうした活動、環境を引き継いでいけるよう、更なる地域人材の発掘、育成が必要である。		
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 ○学校の活動(生活科・総合的な学習・行事など)では、公民館を通じて地域の方々にお世話になり、ご指導いただいた。児童は、広くなった校区やそこに住む人々の願いを知ることができ、内容の濃い体験を行うことができた。 ○発表会では、地域学習のまとめを工夫して発表し、参観いただいた多くの地域の方々から高評をいただいた。 次年度に向けての取組の方向 ○公民館と連携し、広くなった地域の方々のご協力を得ながら、交流や体験活動を深めていく。 ○地域の課題等に児童なりに問題意識をもたせ、地域と共に学ぶ活動を今後も大切にすすめていく。				
				
	2・3・4年生 みかんづくりについて	5・6年生 長尾坂について	全校 伏菟野災害跡の見	全校 地区内ハイキングin伏菟野

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立上秋津小学校		公民館名 上秋津公民館	
学社融合における学校・地域の様子 高尾山の麓に広がる上秋津地区は、田辺市でも屈指の梅・柑橘類を中心とした農業の盛んな地域である。そこで本校では、長年にわたり、地域の方々の協力を得て、体験学習に取り組んで来た。1年生から4年生までは、老人会の方々の指導の下、野菜や花作りを体験し、交流を深めてきた。また、5年生、6年生については、みかん、梅作りを地元の園主の協力をいただきながら年間を通して活動した。特に収穫体験では、農繁期の忙しい中、収穫の仕方を指導してくれたり、話を聞かせてくれたりしている。子供たちは、年間を通して体験学習に取り組むことにより、収穫の喜びを味わったり、栽培の難しさにも気づいたりしている。			
活動名 農事体験学習		学年・教科・領域等 全学年・特活・総合的な学習	
目 標	学校・園	・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、体験活動を通して地域を知り、地域を愛する心を育むことを目標とする。 ・幼・小・中・公民館が連携して、文化活動や防災教育に取組を進めていく。	
	地域（公民館）	・地場産業である農業を子供たちに学んでもらうことで、地域に関心を持ち、郷土愛を育むことを目標とする。 ・身近な地域文化に接したり体験することで、上秋津の「草の根文化」を継承しながら、豊かな地域文化を育む。	
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 共育コミュニティコーディネーター 農業体験支援委員会（JA紀南、JA紀南青年部、上秋津公民館、老人会、西牟婁振興局農業振興課）			
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等） 事例①【農業体験学習 6年生梅学習】 6年生では、年間を通して上秋津の農業の中心の1つである梅栽培を体験する。とくに、青梅収穫、落ち梅拾いでは、農繁期の忙しい中にもかかわらず、収穫の仕方を指導してくれたり、選別の様子を見せてくれたりと多大な協力をいただいている。そして、参観日に収穫した梅で、保護者の方々と梅を漬ける。子供たちは、地元の方々が一生懸命働く姿に感銘を受け、自分の住む上秋津を誇りに思う心を育む。			
   			
事例②身近な地域の文化に接する 上秋津は、地域の文化的な活動も多彩である。子供たちに地域の方々の文化的な活動を紹介したり、体験したりする機会を設けている。ロビー展では、「和歌山の妖怪展」や「ピンボケクラブ写真展」、校内絵画展と共に「ひまわり絵画サークル作品展」を催す。作品を鑑賞して感想を届けることにより、作者の励みや喜びにもなり、交流を深めている。また、11月に開催される「上秋津ふれあい音楽会」は、幼・小・中・地域の方々が音楽を通して交流を深める場として定着している。			
   			

	成 果	課 題
学校・園	・農事体験学習を通して、指導者自身も地域で働く方々の努力や工夫を直に知り、上秋津のよさについてより詳しく知るよい機会となった。また、幼・小・中が連携して「みかん学習」に取り組み、共育コミュニティの研究を深める1つの核となった。 ・教師も上秋津の「草の根文化」にふれることにより、絵画や音楽などの指導のヒントにもなっている。	・幼・小・中が連携して取り組むには、担任が細かな点まで打合わせをする必要がある。そのための時間をどう捻出させるか工夫が必要となる。 ・学校の担当者が替わったときも、公民館を通じて各種団体と連絡を取れるネットワークを構築していく。
*子供にとつて	・農事体験学習を通して、地域で働く方々の日々の努力や工夫に気づき、自分たちが暮らす上秋津について誇りを持つよい機会となった。 ・「みかん学習」に取り組み、伝え方を工夫し、表現力を高める学習のよい機会となった。	・農業体験のほとんどない児童が増える中で、農事体験学習を今後も大切にしていきたい。そのための6年間のカリキュラムの見直しと、効率的な時間確保を考えていく。
*子供にとつて	・地域の風景が絵画や写真となることにより、絵画や写真に興味を持つとともに、その場所に出かけるなど地域をより詳しく知ろうとするきっかけにもなっている。 ・お礼や感想の手紙を書くことにより、地域の方々と文章を通じて、より深く接する機会となっている。	・絵画や写真、音楽等地域の文化を提供してくれる方が、固定化しつつある。公民館と連携しながら、新たな地域の文化活動を見つけ、紹介していきたい。
地域（公民館）	・農業体験学習に協力いただける方が例年比べて多くなった。また、30代前後の協力者が増え、地域住民の学校に対する関心が高まってきているように感じる。 ・地域の文化を子供たちに伝えていくことで、地域住民の生きがいづくりにも貢献している。	・支援者の固定化や高齢化といった課題がある中で、新たな人材を育てていくことも必要である。 ・幼小中が円滑に連携していくためにも、コーディネーターの役割が重要となってくる。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・長年にわたり農業体験学習を実践し、地域と学校が連携した活動が行われている。その中で、老人会や園主の方々との交流が深まり、いろいろな行事にもよい影響をもたらしている。小学校として、地域に向けてのより工夫した発信に取り組んでいる。収穫した作物でパーティーを開き、お世話になっている老人会の方々を招待したり、JA青年部の方々に自分たちの学習成果を聞いてもらったが、今後も、地域から学んだことを地域に向けて発信し、子供たちの表現力を高めると共に、学校の取組を広めていきたい。 ・みかん学習や梅学習を通して地域で働く方々に指導を受けることによって、地域の方々への敬愛の念や働くことを大切にする気持ちが育まれ、子供たちが生き方を考えるよい機会となっている。 ・「上秋津ふれあい音楽会」は、5年を経過し、楽しみにしてくれる地域の方も多く、地域と学校の恒例行事となりつつある。保護者アンケートにおいても好評である。今後、学級数が減る中においてもやり方を考えながら、幼・小・中が連携した取組を継続していきたい。 ・幼・小・中が連携して「みかん学習」に取り組むことを試みた。幼稚園児からの質問を受け、5年生の子供たちが調べたことをカルタにして、幼稚園児に遊びを通して発信した。次年度に迫った共育コミュニティの取組の1つとして成果があったが、初めての試みでもあり今後改善していく点もいくつか見つかった。 ・様々な地域の文化にふれる機会を持つことは、子供たちが多様な物の見方を養うよい機会になっている。子供たちの書いた感想が作品の提供者の方にも励みになっていることを聞き、見るだけでなく、発信することにより交流がより深まることを体感した。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立秋津川小学校		公民館名 秋津川公民館					
学社融合における学校・地域の様子 本校は年々児童数が減少しており、今年度から完全複式となったが、地域の方々は協力的で子供たちと関わることを楽しみにしてくださっている。公民館や秋津川振興会等の諸団体、地域の方々の協力を得ることで、地域の産業や伝統などを学ぶことができた。また、それを通して、地域の良さを知り、地域を大切に育っている。 また、本校は秋津川中学校に隣設しており、運動場や体育館、トイレ等を共用していることもあって、日々児童・生徒及び職員の交流がある。そのため、運動会や避難訓練をはじめ、さまざまな行事や活動で小中連携を図っている。							
活動名 地域との交流		学年・教科・領域等 全学年・学校行事、学活、生活科、総合					
目 標	学校・園	・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にする心を育てる。 ・地域の方との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。					
	地域（公民館）	・子供たちに、地域の人たちとの交流の中で伝統文化等の様々な知識を教えて貰い、地域への愛郷心を養う。 ・普段子供たちと接する機会の少ない保護者以外の人たちに、公民館主催のイベントを通して交流を持って貰うことで、地域の活性化に繋げていく。					
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 秋津川公民館 秋津川町内会 秋津川振興会 秋津川春秋会（老人会） JA紀南秋津川店 JA女性会 秋津川婦人会 秋津川中学校 秋津川保育所							
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等） <全校で> <table border="0" style="width:100%;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【秋津川町民運動会】9月24日（日） 地域の方々に、ダンスや組体操、南中ソーランなどを披露した。運動会の最後には、地域の方々と一緒に公民館長から指導を受けた（9/14・20）『秋津川音頭』を踊り交流した。 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <学級で> 【地域清掃活動】11月7日（火） （高学年）中学生や春秋会の方々と一緒に、いくつかの地区に分かれてごみ拾いを行った。 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 【敬老会】10月8日（日） 4～6年生は、発表に向け公民館長から『おるり音頭』の指導を受けた（10/4・6）。敬老会では、地域の方の太鼓と唄に合わせて踊った。1～3年生は、ダンスを披露した。 </td> <td style="vertical-align: top;"> 【むかしあそび】12月4日（月） （低学年）地域のお年寄りに昔の遊びを教わった。お礼に、手作りのお菓子を振る舞い、和やかに交流した。 </td> </tr> </table>				【秋津川町民運動会】9月24日（日） 地域の方々に、ダンスや組体操、南中ソーランなどを披露した。運動会の最後には、地域の方々と一緒に公民館長から指導を受けた（9/14・20）『秋津川音頭』を踊り交流した。	<学級で> 【地域清掃活動】11月7日（火） （高学年）中学生や春秋会の方々と一緒に、いくつかの地区に分かれてごみ拾いを行った。	【敬老会】10月8日（日） 4～6年生は、発表に向け公民館長から『おるり音頭』の指導を受けた（10/4・6）。敬老会では、地域の方の太鼓と唄に合わせて踊った。1～3年生は、ダンスを披露した。	【むかしあそび】12月4日（月） （低学年）地域のお年寄りに昔の遊びを教わった。お礼に、手作りのお菓子を振る舞い、和やかに交流した。
【秋津川町民運動会】9月24日（日） 地域の方々に、ダンスや組体操、南中ソーランなどを披露した。運動会の最後には、地域の方々と一緒に公民館長から指導を受けた（9/14・20）『秋津川音頭』を踊り交流した。	<学級で> 【地域清掃活動】11月7日（火） （高学年）中学生や春秋会の方々と一緒に、いくつかの地区に分かれてごみ拾いを行った。						
【敬老会】10月8日（日） 4～6年生は、発表に向け公民館長から『おるり音頭』の指導を受けた（10/4・6）。敬老会では、地域の方の太鼓と唄に合わせて踊った。1～3年生は、ダンスを披露した。	【むかしあそび】12月4日（月） （低学年）地域のお年寄りに昔の遊びを教わった。お礼に、手作りのお菓子を振る舞い、和やかに交流した。						
【ふるさとまつり】11月19日（日） この日は、地域の方にも自由に参観してもらえるように授業を公開した。3・4限は、地域の方が開いているバザーで買い物をしたり、ゲームに参加したりした。また、合唱や合奏（炭琴を含む）の演奏を来場された方々に披露した。昼には、秋津川婦人会の方々が用意して下さった炊き込みご飯をいただいた。		 <p style="text-align: center;">餅つき</p>					
【餅つき・秋小発表会】11月29日（水） 高学年が収穫した餅米で餅を作った。地域の方にお手伝いいただきながら全児童が餅つきを体験した。また、高学年が地域や保護者の方と一緒に餅を丸め、バック詰めをした。 発表会では、校歌や児童会の歌、学習発表を披露した。その後、会場にいる全員が一体となり「ふるさと」を歌った。最後に、午前中に作った餅を振る舞った。たくさんの方にお越しいただき、嬉しい感想を聞かせていただいた。		 <p style="text-align: center;">餅丸め</p>					
 <p style="text-align: center;">秋小発表会</p>		 <p style="text-align: center;">町内運動会</p>					

	成 果	課 題
学校・園	・地域の行事に参加することで、多くの地域の方と楽しく交流することができた。 ・昨年度まで全校で行っていたむかしあそびを、学習発表会に変更することで、より多くの方に学校に来ていただき、子供たちのことや教育活動について知ってもらえるよい機会となった。	・児童数減少に伴い、今まで通り活動するのが難しい場面も出てきた。見直しや精選など、取り組み方について検討する必要が出てきている。 ・地域の行事で来校された方が、学校の活動にもご協力いただけるような手立てを考えていきたい。
* 子供にとって	・地域の方々から教わったり、共に活動したりすることで、秋津川の文化を知ることができ、自分たちも地域の一員であることを実感することができた。 ・地域の方々との交流を通して、場に応じた言葉遣いやマナーについて考えることができた。	・保護者や地域の方など、関わって下さっている方々に対する感謝の気持ちを大切にしたい。また、その気持ちを伝えるようにしていきたい。 ・日常生活においても、地域の方々との交流を大切にしていきたい。
* 子供にとって	・地域の方々が大勢いる前で発表を行うことで、自信をつけることができた。 ・地域の方々から伝統文化等様々な知識を教わる機会を設けることで、地域への愛郷心を養うことができた。	・今後も地域の伝統文化を子供たちに継承していきたい。
地域（公民館）	・地域事業に子供たちが参加してくれることで、事業が盛り上がり、地域の活性化に繋がった。	・少子高齢化・過疎化が進む中で、地域と子供が交流する機会が、ますます重要視されると思われる。各種団体と連携しながら、交流事業の継続・発展を行っていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・秋小発表会では、保護者だけでなく秋津川の全家庭に案内を配布し、さらに、お世話になっている方には招待状も届けた。その甲斐もあり、多くの方に来ていただくことができた。今後も、まず地域の方に学校や子供たちの様子を知っていただくために、積極的に働きかけをしていきたい。 ・人前に出るのが苦手な児童が多いため、学習発表や音楽発表など大勢の前に出る発表は、良い経験となった。今後もそういう機会を確保していきたい。 ・子供たちが、地域を大切に思い、社会に貢献できる人材に育つよう、公民館はじめ各種団体と連携しながら、学社融合を進めていきたい。		
 <p style="text-align: center;">地域清掃活動</p>		 <p style="text-align: center;">むかしあそび</p>
 <p style="text-align: center;">ふるさとまつり</p>		 <p style="text-align: center;">敬老会</p>

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立上芳養小学校		公民館名 上芳養公民館	
学社融合における学校・地域の様子 本校区では、年齢層の高い世代はもちろん、保護者層の若い世代においても昔からこの地域に住んでいる世帯が多く、子どもたちが落ち着いて学習に取り組める環境が整っている。さらに、学校、公民館、地域が協力して取り組んでいこうという素地があり、学校行事などには保護者だけでなく、多くの地域の方が参加してくれる。特に運動会や作品展などでは、地域全体の盛り上がりも大きく、学社融合の大きな力となっている。また、地域の子供は地域が育てるという意識が、住民の方々にも共有されていて、常に子供たちの様子を見守ってくれている。			
活動名 上芳養秋季運動会		学年・教科・領域等 全学年・体育・特別活動	
目 標	学校・園	・体育の授業を中心に組み込んだ練習の成果を地域の方々にも見てもらうことで達成感を味わい、自尊感情を高める。 ・地域の方々との交流を通して、ふるさとを愛する気持ちを育むきっかけとする。	
	地域（公民館）	・地域同士、また地域と学校・児童との繋がりを深め、日常的な交流を円滑にする。 ・地域の方々为学校や子供たちの様子を知ること、今後の地域づくりに生かす。	
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 上芳養小学校育友会・上芳養中学校育友会・公民館・町内会・消防団・梅寿会			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)			
5月12日	育友会合同委員総会 ・運動会に向けての活動計画		
7月31日	運動会準備作業 ・バザー用手作り石鹸の準備を始める		
8月28日	育友会本部役員会 ・運動会実施に向けての組織づくりと役員確認		
9月6日	各種団体長会議・地区委員合同会議 ※各種団体長組織～小学校職員・小学校育友会・中学校育友会・町内会長 各区長・公民館長・公民館主事・梅寿会会長・消防団長		
	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式、閉会式について……挨拶を町内会長に依頼 ・種目内容と役割分担の協議 ・参加賞、前日準備及び当日の役割確認 ・バザー準備について ・ご長寿招待について 		
9月7日	中学校・日向保育所・上芳養少年野球クラブ・第二のぞみ園に参加を依頼するご長寿の方を招待するための手紙を全児童が分担して書く プログラム決定		
9月12日～	参加賞購入及び包装作業開始(育友会・公民館・消防団) ・参加賞350個程度を購入し、熨斗掛けをする		
9月13日	ご長寿招待状(敬老の手紙)配布 ・手紙とプログラム407名分を高学年児童が分担し、一軒一軒届ける		
9月14日	各種目出場者決定		
9月21日	運動会総練習		
9月23日	運動会準備(小学校職員・児童・育友会本部・地区委員・母の部)		
9月24日	上芳養秋季運動会 ・ご長寿(敬老席)の方々の接待は保護者の学年部員と児童で行う ・町内会種目、地域種目には保護者や児童も積極的に参加する		

	成 果	課 題
学校・園	・合同会議を開催することで、準備や出発、召集等、学校と地域、大人と子供、それぞれが協力しながら運動会を運営することができた。さらに、合同開催ということで、より一体感が生まれ、「地域の学校」という意識を改めて強くすることができた。 ・運動会を盛り上げようとする保護者や地域の方の熱い思いを感じ、学校も同じ思いで取り組むことができた。	・保護者、地域の方の協力は大きいですが、準備や地域種目への参加等、どうしても高学年児童への負担が大きくなる。 ・合同開催する運動会の意義をさらに深めるため、児童を交えての話し合いの機会を、もう少し早い段階で計画していきたい。
*子供にとって	・自分たちが書いた招待状(敬老の手紙)に対する返事から、地域の方の思いを知り、当日はより張り切って演技しようとする子供たちの姿が見られた。 ・自分の身内だけでなく、地域の方が楽しんでいる様子を見て、子供たちも楽しいと思う、地域を愛するための一歩が感じられた。	・子供たちから受け取る手紙を楽しみにしている高齢者の方は多いが、児童数の減少に対して対象となる高齢者の方が増加し、一人当たりが担当する手紙の数が年々多くなってきている。いかに心のこもった手紙を書くか時間の確保が難しい。
*子供にとって	・多くの地域の方が参加する行事を通して、みんなでひとつのものを作り上げる喜びや、自分たちが大切にされているという喜びを実感することができた。	・地域をつなぐ子供たちが、公民館活動や地域行事に興味、関心が持てるように各行事を工夫していく。
地域（公民館）	・普段学校に足を運びにくい地域の方々も学校や子供たちの様子を間近に見ることができ、楽しい時間を共有することができた。 ・ここ上芳養は梅産業が盛んとは言え、最近の若い世代の方々には地域外での仕事に携わる方が多い。しかし、この運動会の開催により、世代を超えた地域住民同士のつながりを強めることができた。	・児童と各種団体が合同で行う種目は、参加する年齢層や人数によって大きく結果が違うため、毎年同じルールではなく、臨機応変に多少のルール変更を考えることも必要である。 ・来年度から始まる学校運営協議会との連携を図り、世代を超えたつながりを他の活動にも発展させていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

○評価

地域・保護者の中には本校の卒業生も多い。また、平成13年に現校舎が建築されたときに関わった方々は、今は児童の祖父母であったり、地域の中心的存在であったり、陰ながら学校を支え、見守ってくれている。その分、学校への思い入れも強い。

そう考えたとき、地域の方々と一緒に集まり、児童やその保護者と触れ合い、学校の様子を直接感じていただく上芳養秋季運動会の意義は大きい。



○次年度に向けて

地域全体の盛り上がりは感じるものの、保護者世代の若返りや今後の児童数の減少を考えてみると、種目をどのようにするのか。準備をどのようにしていくか。

また、学社融合の視点をさらに生かしていくための体制作りについても考えていかなければならない。

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立中芳養小学校		公民館名 中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、田辺市街地周辺の農村地帯に立地している。児童は明るく、上位学年が下位学年の世話をするなど優しい雰囲気がある。地域住民は学校教育活動に協力的で、地域で子育てをしようとする意識がある。本校における学社融合の取組は、昨年度までの「共育コミュニティ本部事業」の活動からも、地域に根差したものになってきているといえる。住民間の交流や融和を図るうえでも重要な役割を果たしており、児童が地域社会で認められ、地域の子供としてつながりを深められるようにしていきたい。 教育活動において、地域の教育資源(人的・物的)を有効に活かし、地域を愛する子供を育て、学力の定着・向上に努めていきたいと考えている。		
活動名 中芳養共育コミュニティ運動会 中芳養合同作品展		学年・教科・領域等 特別活動【学校行事】
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と地域住民の交流を進める。 ・故郷を愛する心を育む。 ・地域住民に児童のことを知ってもらうことで安心して暮らせる町づくりに取り組む。
	地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々が学校の行事に参加することで、子供たちとの交流を深める。 ・地域全体で子供たちの成長を見守り、育てようとする意識を高める。 ・学校の行事や取組に対して、地域全体で協力し、作り上げる。
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 中芳養公民館 校区町内会 芳寿会 消防団 中芳養幼稚園 中芳養中学校 小学校PTA		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 中芳養共育コミュニティ運動会 平成29年9月24日(日) 本年度で4回目を迎える「中芳養共育コミュニティ運動会」であるが、地域に在籍する児童数の減少から、地域対抗競技について、複数の地区を合同でチーム編成を行い各種目を得点制にして取り組んだ。また、中学生や高校生も参加できるように種目を編成した。 事前の打合わせ会をもち、地区対抗の競技や老人会などの敬老種目についても公民館や地域の役員などに運営に関わっていただくことで、より地域の運動会として位置づけされてきた。		
		
中芳養合同作品展 (平成29年12月9日(土)10日(日)) 運動会とともに本年度で4回目となる合同作品展は、地域の文化力の向上と交流の推進を図るためには欠かせない取組となっている。地域の方々と一緒に行ってきた幼稚園の「生け花」、小学校では地域の方と共に取ってきた材料をもとにした「リース」、中学校の「和の心」の取組である「陶芸」や「書」の作品を展示した。これらの作品展示は小学生にとっても良い刺激となっている。 本年度は、来場者数が309人になった。 また、作品展の運営に携わった地域の方々や幼稚園、小学校、そして中学校の子どもたちが参加することで中芳養合同作品展のねらいを達成することができた。		
		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会では地域対抗競技において、複数の地区を合同でチーム編成したことで、他の地域の方との交流が図れた。また、運営においても公民館や地域の方に関わっていただくことで地域の運動会として位置づけされてきた。 ・会場の設営や役割分担なども手際よく行えるようになった。学校の取組や児童の活動の様子を地域に見てもらえたことと地域の方々の作品を見る機会があることで地域の教育力について児童が知ることができたことといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共育コミュニティ運動会に地域の方や公民館がさらに関わって地域の運動会として運営するが、学習発表の場としての運動会の位置づけも確保しておかなければならない。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会に保護者だけでなく地域の方が参加することで交流を深めることができた。 ・地域の方の作品を観ることは、小学生にとっても良い刺激となり、地域の方をより身近に感じることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習など合同作品展の広がりを利用して地域に発信できるものを掲示することも意義のあることだと考える。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とともに活動し、接する機会が増えることで、子供たちは見守られているという安心感を持つことができた。 ・子供たちは、自分たちの活動や取組の成果を地域の方々に見てもらうことにより、自信を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生まれ育った地域に対しての愛着や関心をさらに持ち、深めてほしい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の学習や取組に関心を持ち、子供たちと触れ合うことによって、地域の方々も楽しみが生まれた。 ・様々な行事を通して、子供たちとの交流が深まり、地域の大人同士の交流も深まった。 ・地域が一体となって、行事を作り上げようと参画することで、より充実した取組の内容になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や公民館の取組に参加し、協力していただける地域の方々を発掘することで、さらに充実した取組の内容となるように学校、地域との連携を深めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 本年度の「中芳養共育コミュニティ運動会」や「合同作品展」については、地域住民がお互いに触れ合える機会として有意義であった。毎年、恒例となっている事業として慣習的に行うのではなく、反省を生かして次年度にさらに教育的効果が上がるように取り組んでいく必要がある。そうした意味でも、本年度の取組は良かったといえる。作品展では昨年度の取組を生かしてDVDの視聴ができるように設営していたところ、興味深く観ている老人の方々の姿が印象的であった。 次年度に向けて、運動会の運営について全PTAにアンケートをとったり、反省会で色々な意見が出されたりしたことを生かしてさらに地域の運動会としての役割が果たせるように学校も考えていく必要がある。また、授業に教育資源を生かせるよう今までの取組を踏襲するだけでなく、反省の上に検討していきたいと考えている。 人とのつながりを深めていくことは安心して暮らせる町づくりに大きくかかわっている。また、人とのつながりはコミュニケーション能力を育成する上では欠かせないものと考えられる。そこで、さらに地域とのかかわりが深められるような教育活動を展開していきたい。また、学力向上のために、地域の教育資源をさらに有効活用できないかを考えていかなければならない。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立田辺東部小学校		公民館名 ひがし公民館
学社融合における学校・地域の様子 平成7年に「ひがしコミュニティーセンター」が建設されてから、学校と地域公民館が連携した取組も充実してきた。ゲストティーチャーを招いての授業や、語り部学習などがその代表的なものである。とりわけ、今年で10回目を迎えた「ひがしふれあい秋祭り」は、4町内会・地域の各種団体・学校・公民館が協力して、幅広い世代の人々がふれあうきっかけを作り、地域住民の交流を図る催しとなっており、本校の学社融合の中心的な行事になっている。		
活動名 ひがしふれあい秋祭り		学年・教科・領域等 全学年・特別活動・生活科・総合的な学習等
目 標	学校・園	児童と地域住民との交流を通して、地域とのつながりを深め、自分の住むふるさとを愛する心を育む。
	地域（公民館）	4つの町内会と地域の各種団体・学校・公民館が合同で、年に一度、地域の人々が集う催しを開催することで、幅広い世代の方たちが知り合い触れ合うきっかけを作り、近隣住民の交流の促進を図るとともに地域の連帯感を深める。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 田辺東部小学校・育友会・子どもクラブ・ひがし公民館・町内会・とうぶおやじの会		
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等） 9月13日 職員会議「日曜参観・ひがしふれあい秋祭り」について ・昨年の実施内容・反省について ・今年度の学校側の準備について 9月21日 第1回ひがしふれあい秋祭り 実行委員会 ・実行委員長あいさつ ・委員自己紹介 ・内容の検討（今年度実施内容について） 10月18日 職員会議「ひがしふれあい秋祭り」について ・実行委員会での内容報告 ・晴天時、雨天時の会場配置（テントの配置）について 10月18日 第2回ひがしふれあい秋祭り 実行委員会 ・オープニングイベント・ステージイベントについて ・予算について ・内容等の検討 ・次回の日程設定とそれまでの課題確認 11月1日 第3回ひがしふれあい秋祭り 実行委員会 ・予算について ・催し物の確認 ・準備・当日の運営等の検討（人員・準備物の確認） 11月初旬 2年生がポスター作成・地域に広報活動を行う 11月6日 職員会議「日曜参観・ひがしふれあい秋祭り」について ・当日の役割分担の最終確認 11月12日 第10回 ひがしふれあい秋祭り 午前 日曜参観（1・2年あきまつり 3・4年授業参観 5年防災学習 6年語り部発表） 午後 ひがしふれあい秋祭り （ふれあいスペースでのゲーム・コミセンでのステージイベント・バザー・抽選会・もちまき等）		



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 多くの保護者や地域の方に、子供たちが楽しく活動する姿を参観してもらうことができた。 学校と地域が連携した行事として定着してきつつあり、児童と地域住民との貴重な交流の場となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単に楽しむ行事としてではなく、そこに込められた願いや意義を大切にしていきたい。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習等で時間をかけて取り組んできた成果を大勢の地域の人々に発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 語り部学習は、マンネリ化しないように今後も内容を工夫しながら継続していく必要がある。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域をテーマとする学習や、地域の人々とのふれあいを通して、自分たちの住むふるさとのよさを再認識することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが地域の人々に支えられていることや、地域で学ぶことの大切さを今後もしっかりと伝えていきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> 新興住宅地である当地域にとって、学校と公民館が連携して行事を実施することにより、住民同士が交流を深める良い機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もさらに多くの人に参加してもらえるように呼びかけていく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 記念すべき10回目を迎えた「ひがしふれあい秋祭り」であったが、好天にも恵まれ、多くの方の参加を得ることができた。午前中に行われた低学年秋まつりでは、児童が踊りやみこし、ししまいを演じ、見る人を喜ばせた。5年生は、今年初の試みとして、市防災まちづくり課の協力のもと、防災学習を行った。保護者とともに、ダンボールを使った避難所設置体験や、災害に備えるための心構えなどを学ぶよい機会となった。6年生は今年度も語り部学習の発表会を行った。今年はテーマを「PRIDE」とし、東部校区の誇り（自慢できるもの）を調べ、地域住民に発表した。運動会で取り組んだ組体操での表現と合わせて、年間を通したふるさと学習の総決算と呼べる発表であり、参観した方からも多くの賞賛の声をいただいた。 午後のひがしふれあい秋祭りでは、育友会・子どもクラブ・町内会・おやじの会が準備した各ブースや、公民館でのステージ発表・お茶席等で、様々な活動を楽しむ児童の笑顔が印象的であった。新興住宅地のため、伝統的な秋祭りがない当地域にとって、学校と公民館・地域が一体となった行事を催すことは大変意義深いことと思われる。今後も多くの方に参加してもらえるような行事にしていけることが大切である。		



学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立龍神小学校		公民館名 龍神公民館 龍神分館
学社融合における学校・地域の様子 本年度も龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することにより、龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組みました。「ダイヤモンドを磨くのはダイヤモンドである。人を磨くのもまた人である」という共通認識の下、児童が地域で生活する様々な方々と触れ合い、ともに活動することで、児童も地域の方々も元気になっています。 保護者や地域の方々は、学校の教育活動に大変協力的です。運動会はもとより、様々な学校行事や授業参観に地域の方々が学校を訪れてくれています。		
活動名 防災キャンプ		学年・教科・領域等 3・4・5・6年 学校行事
目 標	学校・園	・災害時の避難所として指定されている学校での宿泊体験を通して、集団の中で自分の役割を自覚し主体的に行動する態度を身につけるとともに、地域の方々と協力しながら避難生活を送ることができる。 ・保存食や防災用品の活用体験を通して、防災意識の向上を図る。
	地域（公民館）	・児童と地域が一体となった防災学習のあり方を考える。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 田辺市役所総務部防災まちづくり課 田辺市役所龍神行政局 田辺市立龍神小学校PTA 田辺市龍神公民館龍神分館		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 本校は地域の避難所に指定されていることから、一昨年度より「地域の方と協力しながら主体的に避難生活を送ることができる児童を育てる」ことを目的として、3年生以上で1泊2日の防災キャンプを実施している。3回目となる本年度は、例年1月に開催していた学校・PTA・龍神公民館龍神分館共催の防災学習会を組み入れ、7月19日・20日に実施した。防災学習会は東日本大震災・熊本地震における避難所等でのボランティア活動をされた経験をもつ田辺市役所保健福祉部福祉課職員の方を講師にお迎えし、「『震災時の避難所から学んだこと』～家庭・地域が一つになる防災～」を演題として講演会を開いた。学校・保護者・地域と一緒に避難所について学習する場となり、「自分たちでできることは自分たちです」「お互いのプライバシーを守る」などの避難所のルールを共有することができた。 また、今年度は保護者と夕食を一緒にとることにした。保護者に教育活動を理解してもらうと共に保護者も保存食を体験することで家庭で子供と共通の話題ができ、保護者の防災意識の向上をも図ることができると考えたからである。 昨年度は「配給」をキーワードとしてキャンプを実施し、食料・飲料水や寝るためのシートなどを配給したが、本年度は「自立」をテーマに実施した。参加する児童一人一人が自分のできることを自分で見つけて行動するように指導した。 食事は、アルファ米や缶詰の他、乾パンと500mLのペットボトルとお茶も1本ずつ配給し、1泊2日を見通して計画的に消費するように指導した。3回目ということで、食事はスムーズに行うことができた。昨年度同様、児童が学校園で育てた野菜も食事に加えた。2日目の朝は、昨年度とは違うコースを散歩し、学校の周りの自然に触れると共に防災の視点から危険箇所の確認を行った。		
 		

	成 果	課 題
学校・園	・児童の防災意識の向上を図ることができた。 ・保護者や地域の方に龍神小学校の教育活動を知ってもらうことができた。 ・防災まちづくり課の方に「避難所でボランティア経験のある方」を紹介してもらうなど、防災まちづくり課との連携をより深めることができた。	・地域の防災組織との連携を深めていく取組を考えていく必要がある。
* 子供にとつて	・アルファ米などの保存食を手際よく作ることができるようになり、高学年児童が下級生に作り方を教える場面も見受けられるようになった。 ・避難所生活になったとき、自分たちがどのような行動をとればよいかを知ることができた。	・子どもの防災意識の変容について実態を把握する必要がある。
* 子供にとつて	・避難所生活になったときの行動の仕方、「自分たちでできることは自分たちです」「お互いのプライバシーを守る」等を地域や保護者の方々と共有することができた。	・昨年度からの課題である実際に地域の方と触れ合いながらの防災学習は行うことができなかった。
地域（公民館）	・例年1月に開催していた防災学習会を学校主催の「防災意識の向上を図る」取組と一緒に行うことにより、地域住民を巻き込んだ公民館としての防災教育のあり方を考えることができた。	・公民館として、学校主催の「防災キャンプ」にどのように関わっていくかを検討していく必要がある。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・例年1月に開催している防災学習会（学校・PTA・龍神公民館龍神分館共催）を防災キャンプと一緒に開催することで、学校が行う防災への取組を地域の方々に知ってもらうことができた。次年度も、防災キャンプと防災学習会を同時に開催していきたい。 ・防災学習会の内容であるが、今年度は避難所でのボランティア経験をされた方の講演会であったが、次年度は児童と保護者・地域の方々がともに活動し、交流できるプログラムを考えていきたい。 ・龍神公民館龍神分館長と事前に話をする機会を持ったが、防災学習会終了後話し合うことができなかった。次年度は、実施したいと考えている。 ・今年度は保護者と一緒に保存食を食べたことで、保護者の防災教育への取組への理解が深まった。次年度も参加を呼びかけていく。 ・田辺市役所総務部防災まちづくり課との連携が密になった。今後、避難所運営に直接関わる龍神行政局と関係を深めていく必要がある。		
 		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立上山路小学校		公民館名 龍神公民館 殿原分館 東西分館 宮代分館	
学社融合における学校・地域の様子 本校は平成21年に殿原小・宮代小・東小の3校が統合し、それまで学校を大切にしてきた地域の想いを受け継ぐべく学校地域連絡協議会を立ち上げた。平成24年度から3年間、田辺市学社融合の研究指定を受け、平成26年には研究発表会をもった。研究指定を受けている3年間には、学校地域連絡協議会を中心に地域の方々の協力のもと、龍神上山路出身でない職員がほとんどの中、地域教材の開発をしたり、ゲストティーチャーを捜して何度も打合わせをしたりしながら、地域と学校が一つになる取組を進めてきた。しかし、職員の入れ替わりやゲストティーチャーの高齢化が進む中、学社融合の取組をいかに続けていくかが課題となった。誰もが取り組みやすい学社融合、持続可能な研究について年に3回開く学校地域連絡協議会を中心に学校と地域、保護者が連携して進めているところである。			
活動名 ①地域巡り遠足 ②丹生ノ川交流授業等		学年・教科・領域等 ①全校・特別活動 ②5年・体育・総合	
目 標	学校・園	地域を知り、昔からの知恵に学び、ふるさとを大切に思う子供を育成する。	
	地域（公民館）	地域と保護者児童の交流の場を設け、お互いを知ることで地域の活性化をはかる。	
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 学校地域連絡協議会 ①殿原老人クラブ ビンコロ会 ②龍神公民館 丹生ノ川はてなしクラブ 元丹生ノ川小学校職員 上山路小学校PTA			
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等） 平成29年4月25日学校地域連絡協議会で年間計画の了承を得る。			
①地域巡り遠足 日時…平成29年5月1日（月） ※当日までに老人会長宅に打合わせに行ったり電話で連絡をとりあったりした。 ねらい…普段歩くことのない旧殿原学校（ささやか館）まで全校で春を感じながら歩き、地域の方と囲碁ボール等で交流する。 活動内容 ・自己紹介 ・囲碁ボール ・感想・記念撮影			
②丹生ノ川交流授業（三世代交流） 日時…平成29年6月26日 ※丹生ノ川振興館にて5月30日打合せ ねらい…徒歩遠足ではいけない旧丹生ノ川小学校に児童が出向き、児童発表や地域の方から「昔の林業」について教えていただき交流する。 活動内容 1時間目…体育（大縄・マット運動・組体操） 2時間目…群読発表「うらの自慢や 上山路」～昔の林業バージョン～ 3時間目…深瀬文宏氏の授業「昔の林業 木の名前」交流会 記念撮影			



	成 果	課 題
学校・園	①・全校で地域巡り遠足に行くことにより縦割り班で地域の方と交流ができた。 ・地域の方の名前と顔が一致したり、新しい老人会長さんの声かけで今までお会いしたことのない方が参加してくれた。 ②高齢化により「昔の林業」について教えてくださる方が少なくなっている中、直接お話を聞き学習できた。	・高齢化が進む中、持続可能な学社融合のあり方を考える。 ・英語の時数増加や道徳の教科化、新学習指導要領実施に当たり、学社融合計画の見直しをする必要がある。
*子供にとって	・コミュニケーション能力を高める機会が持てた。 ・自分たちの発表を見ていただく機会が持てた。 ・大きな鋸など実物を見せてもらい、「昔の林業」について生の話を聞くことができ質問もできた。 ・学校に帰って、いただいた木の名前を他学年の児童に教えてあげることができた。	・取り組んだことを学力や生きる力に結びつけていくための手立てを考える。
*子供にとって	・交流活動を通して地域の方の名前を覚えることができた。 ・交流の回を重ねるごと会話がはずむようになった。	・地域の一員としてふるさとについて誇りを持ち、いろいろな世代の人と交流することで、よりよい人間関係を築くことができるようにするために今後もいろんな交流を続けていく。
地域（公民館）	・学校と地域、地域の人と人の結びつきを深めることができた。 ・取組を行うために事前に公民館・学校・高齢者学級と話し合いを持ち、公民館活動が充実できた。	・持続可能な交流のあり方を考える。
評価及び次年度に向けての取組の方向 【評価】 ここに取り上げた学社融合の取組は、ほんの一部である。全校や各学年で取り組んでいる地域学習や交流学習はたくさんあり、ゲストティーチャーにも恵まれ他校ではできないであろう学習も行えている。中学年が行った串柿づくりでは、老人クラブの方が前日柿をとりに行ってくださったり、車から降りた児童を「これが一年で一番の楽しみ。よう来てくれた。」と満面の笑みで迎えてくださったりした。それを見ていた保護者が、「今後も続けていかなければ。」と感想を寄せてくれた。交流活動だけで終わるのではなく、事前事後学習まで計画を立て、新聞やパワーポイントなどに学習したことをまとめて発信していくことが学力を付けるために必要であると考え、2月にある学習発表会では、各学年学習したこと発表をする予定である。 【次年度の方向】 本校は、地域素材にも恵まれ新たな教材開発をしようと思えばまだまだその余地はある。その一方今まで教材開発してきたことも多くある。今までの学習を見直し、児童の発達段階に即した学習カリキュラムを考え、地域の人と共に学社融合を続けていきたい。また、低中高と分かれて行った平日の三世代交流は、保護者世代の参加が多くなるような内容を考えていく必要がある。コミュニケーション能力の向上についても課題としてあげているが、引き続き全ての学校生活の中で育てていくものであるということを全職員で共通認識し、取り組んでいきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立中山路小学校		公民館名 龍神公民館中山路分館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、平成11年より龍人学を中心に地域教材・地域人材・地域の施設・地域の活動への参加を通して、地域に根ざした教育活動を広く行い、その基盤を生かしてキャリア教育・食育等の実践とともに「地域の学校」としての活動を展開してきた。これらの取組により学校への協力や支援体制も確立してきた。今後お互いの専門性を生かしつつ、学校・家庭・地域が協力して児童の健全育成を図るよう連携を深めたいと考える。		
活動名 学習発表会		学年・教科・領域等 全校児童・総合的な学習の時間・生活科
目 標	学校・園	地域学習や地域の方から学んだ「見つけた春・夏・秋」「昔の暮らし学習」「松煙づくり」「築根・索道学習」を発表することで、地域に発信する機会とする。
	地域（公民館）	学校と地域をつなぐ役割として、広く人材の発掘や地域行事などの情報提供、連絡調整の協力を仰ぎ、地域の教育力を学校の教育活動に生かすとともに地域住民の生き甲斐づくりを支援する。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 龍神公民館 龍神公民館中山路分館		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 今年度の学社融合の取組としては、昨年度の反省を生かして、各学年で発達段階に応じた地域学習に取り組み、学んだことを発表することで、地域に発信することを目標に取り組んだ。 11月26日(日) 1学期から取組を進めてきた地域学習(1年生「見つけた春・夏・秋」、2・3年生「昔の暮らし」、4・5年生「松煙づくり」、6年生「索道と築根」)について、プレゼンテーションや劇化を取り入れて、地域の方へ発表した。当日は保護者44名、地域住民31名が来校し、好評であった。 また、11月1日に実施した31年目のせんだん餅つき交流会、昔学習での「親子リース作り体験」「グラウンドゴルフ体験」「平和学習」やミシンボランティア、合唱・合奏指導、パステル画体験等、地域の教育力を学力につなげる取組も行う事ができた。		
   		

	成 果	課 題
学校・園	数年来、本校の学社融合の課題であった、「教わるだけの学習ではなく、学んだことをもとに学習を深め、発表会を通して地域の方に発信する」ことができた。	限られた時間で学力につながる学社融合を進めるためには、人材の確保(発掘)と精選が必要となる。
*子供にとって	発表することで、地域の方からのお褒めの言葉をいただき、自信と喜び、地域を誇れる心が育った。	学んだ事を発表し、地域の方から評価されたことで芽生えた自信と学習意欲を継続する取組を展開する。
*子供にとって	地域の方との交流や学習を通して、自己の地域を誇れる気持ちが強くなり、地域の一員としての自覚も増した。	日頃のあいさつや学校行事での交流など、児童自らが進んで地域の方との学習を進め、地域の良さを発見する取組を進める。
地域（公民館）	学習発表会でのアンケートから「地域と保護者、学校がいっしょに取組を継続することに意義がある」「地域も積極的に学校に目を向ける必要がある」等の意見をいただくことができた。	地域住民の高齢化が進み、校区内だけでは講師を招聘することが困難になってきている。また、地域学習に必要な資料も少ない。
評価及び次年度に向けての取組の方向 (評価) 昨年度の課題であった「学んだ事を発信する」ことに取り組み、実践することができたことが大きな成果である。それぞれの学年が、1学期から地域学習に取り組み、地域探索や講師を招いての学習を行い、学んだ事を発表することができた。保護者や地域の方から好評をいただき自信を持つことができ、自己の地域を誇れる児童が増えるなど、大きな成果を得ることができた。今年度は昨年度まで取り組んできた「音楽指導」「パステル画体験」「和楽器体験」等に加え、「ミシンボランティア」や「リース作り体験」など、より学力につながる学社融合を行う事ができた。 (次年度へ向けての取組の方向) 今年度の取組を継続し、学習したことを児童自らがまとめ発表するような、児童による児童からの地域への発信を目標とした学社融合に取り組みたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立咲楽小学校		公民館名 龍神公民館福井分館 甲斐ノ川分館	
学社融合における学校・地域の様子 地域の学校や教育に対する関心は高い。ほとんどの家庭がPTA準会員として協力してくれており、運動会や学習発表会等にも大勢の参加がある。また、学校便りを楽しみにしてくださっている方もいるので毎月発行し全戸配布に心がけている。また、各地区長、老人会長、女性会代表や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしている。地域の祭礼では、児童も事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い、祭りに積極的に参加するとともに、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなど、学校と地域との結びつきは強く、地域ぐるみで子供を育てていこうという土壌がある。			
活動名 学校開放月間(・学校開放週間・学校に行こう！)		学年・教科・領域等 全学年・生活科・社会科・総合的な学習の時間等	
目 標	学校・園	・授業を参観してもらったり一緒に活動することで、地域の方々と知り地域とのつながりを深める。 ・地域の方の協力を得て、学校だけではできない学びや活動を行う。	
	地域(公民館)	・授業を参観したりともに活動したりすることで、学校や児童の様子を知る。 ・地域の方々の交流や活躍の場をつくることで、地域の活性化を図る。	
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 公民館 老人会 学校地域連携推進委員会 保護者 和歌山森林管理署 熊野百間溪谷自然学校 後藤昇			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ◇11月7日～10日「学校に行こう(学校開放週間)」 学校の様子を知ってもらい、地域の方から学んだり地域の方と共に学んだりする活動を通して地域住民との交流を深めるため、「学校に行こう！(学校開放週間)」を設定した。校区全戸に「学校開放月間全体行事予定案内」を、さらに保護者には各行事前に案内チラシをそれぞれ配布すると共に、保護者と学校地域連携推進委員会、老人会には重ねて出席を呼びかけた。当日は、多数の保護者や地域住民の参加があった。 ①収穫祭 7日(火) 全校で育てたさつまいもを10月26日(木)に収穫した。7日当日、1～4年生が、学級ごとに、(収穫した)芋を使って調理し、5・6年生は自分たちで育てたもち米でお餅を作り、保護者や地域の方に来ていただいてみんなで収穫を祝う食事会を行った。 ②給食試食会 8日(水) 前もって希望者を募り、4名が普段児童が食べている給食を試食し、担当者と意見交流を行った。 ③公開授業 9日(木) 各学級で、国語、算数、理科、社会、生活科、体育、音楽等の授業を公開し、保護者や地域の方々に参観していただいた。 ④花の苗植え 9日(木) 地域の方の指導により全校児童で学校の花壇やプランターに苗の植え替え作業を行った。 ⑤親子木工教室 10日(金) 熊野百間溪谷自然学校伊藤幸子さんと森林管理署大谷美穂さんを講師に木工教室を開催した。木材や森林、林業について学んだ後、木を材料に3～6年生の児童に1つずつ木製台を作製した。保護者や地域の方も作業を手伝ったり教えたりしてくださった。 ⑥昔の遊び体験 10日(金) 地域にお住まいの後藤昇さんに、1・2年生が竹とんぼの製作と遊び方(使い方)について教えていただいた。 ◇観劇(人形劇) 17日(金) 文化庁委託事業「全国地方・離島・へき地『児童青少年舞台芸術』巡回公演」で人形劇団京芸による人形劇を保護者や地域の方にも来ていただき全校鑑賞した。 ◇学習発表会 26日(日) 各学級の発表(劇や生活科の学習成果)を保護者や地域の方々に観ていただいた。本年度は保護者有志による合奏の発表もあり会場は大いに盛り上がった。			

	成 果	課 題
学校・園	・大勢の方に学校に来てもらい、学校や児童の様子を知っていただくことができた。地域との一体感が得られた。 ・木工、昔の遊び、苗植え等、地域の方の技術があつてこそその学習や、大勢の大人の助けなしにはできない学習・活動を行うことができた。	・昨年度に引き続き公開授業を参観して下さる方が少なかった。やはり学校は授業こそが本分なので、その授業を観て下さる方を増やす工夫をより考えていかなければならない。 ・人形劇に来てくださった保護者や地域の方の数が少なかった。呼びかけの方法をもっと工夫すべきであった。 ・学習発表会では、保護者有志による合奏もしていただき大いに盛り上がった。児童の学習発表会という目的の範囲内でこのような出し物があつてもいいと思う。
*子供にとって	・専門家から木工を教わり質の高い学習ができた。また、保護者や地域の方々の助けやアドバイスを得ながら作品を完成することができた。 ・地域のお年寄りに竹とんぼの製作に携わっていただき完成後はみんなで楽しく遊ぶことができた。 ・観劇(人形劇)は、普段間近で観る機会があまりないのでとてもよい経験となった。	・子供から地域に発信したり働きかけたりするような、子供が主体となる活動も考えていきたい。
*子供にとって	・ともに活動してくれる大人がいることで、地域に見守られ支えられているという安心感が得られた。	・大人と子供が触れ合うことができたが、子供の方からもっと主体的に働きかけるような工夫が必要である。
地域(公民館)	・学校や児童の様子を知ることができた。また、木工技術や遊びなど、微々たるものではあるが「文化の継承」につながる活動ができた。 ・教えたりともに活動したりすることが、大人の側にとっても楽しみであり、学校と地域がつながるきっかけにもなっている。	・参加者に偏りがみられる。いかにして参加者の幅を広げられるか、呼びかける方法等改善策を講じたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 「学校開放週間」は学校や地域の年間行事として定着した。しかし、参加者が固定化しつつあるので、より多くの方に参加していただき学校の様子を知ってもらうために、日程やお知らせの方法等を再度考える必要性を感じている。特に授業参観については、公開授業の時はもちろんのことその日以外でも参観していただけるような工夫が必要である。 今後も学校と地域双方にとって無理のない形で、互いのプラスになるような「学校開放月間(学校開放週間)」の取組を続け、さらに学校と地域の結びつきを強めていきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立中辺路小学校		公民館名 中辺路拠点公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、豊かな自然に囲まれ、地域の方々や保護者に見守られ子供たちは明るくのびのびした学校生活を送っています。統合を繰り返してきた学校であるため、広い地域の中から「ふるさと学習」として、児童と地域が連携した学びができる内容を検討しながら学習を深める取組を行っています。開かれた学校を心がけ、地域の方々に訪れていただける様々な行事を計画し、子供たちが頑張っている姿を見ていただいたり共に活動したりすること、また、現地に出むいて指導していただく中で、ふれあいや協働の機会を持つように努めています。町内会・公民館・社会福祉協議会・女性会等の関係機関にも協力いただきながら取組を進めています。		
活動名 ふるさと遠足		学年・教科・領域等 生活科・総合的な学習の時間・学校行事
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと中辺路の良さを知り、ふるさとに誇りを持ち、その良さを継承しようとする児童を育てる。 ・地域の方との交流を通して、地域の方々のふるさとに対する思いや自分たちにこめられた期待を知る。 ・地域の方々に協力・参加していただくことにより、学校と地域との関係を密にしていく。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統や文化・自然環境などを大切にし、学校と地域の各種団体や協力者と連携しながら子供たちと地域住民の交流を深め地域の活性化を図る。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 地域の語り部の方々 北郡地区の方々 白百合ホームの方々 公民館 地域の協力者の方々		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)		
<p>○ねらい 「ふるさと遠足」を通して、校区(校区を通っている熊野古道を含む)の良さを知ると共に地域の様々な人々と交流する。</p> <p>○各学年のねらい ・1. 2年 「旧二川小学校までの校区を歩き、白百合ホームの方々と楽しく交流する。」 ・3～6年 「校区を通る熊野古道を語り部さんと学習しながら歩き、古道の歴史や良さを知る。」 3年……大塔～北郡越え～一願寺～旧西谷小学校跡 4年……滝尻王寺～高原熊野神社～高原池～高原熊野神社 5年……高原熊野神社～十丈王寺～牛馬童子口バス停 6年……学校～小皆～潮見峠～長野～岩口池(自然公園センター) (公民館主催……中辺路こども環境探偵団「潮見峠越えウォーク」と共催)</p> <p>○活動内容 ・各学年それぞれに、当日までの事前準備 ・「ふるさと遠足」当日 1. 2年生 校区探検をかね旧二川小学校まで歩く。体育館に白百合ホームのお年寄りの方に来ていただき、自己紹介や握手の後、ダンスや歌を聴いていただき交流した。 3～6年生 それぞれ上記のコースを地域の語り部さんに説明していただき、クイズなどで交流しながら歩く。地域の方に交通指導していただいたり、協力者の方に地域の自然について教えていただいたりした。 ・遠足後、それぞれの学年で、まとめをしたり、お礼の手紙を書いたりするなどの活動を行った。</p>		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年は、5年前に統合した二川小学校の校舎に行き、学校の歴史に触れることができた。 ・今年度からは、校区にある熊野古道を4年間で完歩することを計画し、地域の方々と共に歩くことで、歴史や自然について学習することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合を繰り返している学校で、校区が広くたくさん地域があるので、地域学習を各学年の計画にきちんと位置づけ6年間で学習できるようにしていくこと。 ・地域の人材や協力者を明確にし、次年度にきちんと残していくこと。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと遠足を通して、地域の良さを知ることができた。 ・地域の方々と共に活動することで、自然と、コミュニケーションがとれるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が課題を持ち、主体的に学習できるようにしていく。 ・地域の方々と交流や発表では、大きな声でしっかり自分の考えを話せるようにする。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流の場を持つことができ、地域の方々の教えにより、自分たちの住んでいる地域のことを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校外での地域の方との日常的な交流が少なくなっている。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産に追加登録されたところを地域の協力者と歩くことを企画すること(中辺路こども探偵団)で、学校と地域をつなぐことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力者の高齢化により、今後の事業継続のための新たな支援者を必要としている。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・年間を通して「ふるさと学習」を計画し、農作業体験、現地学習、体育祭、学習発表会への参加、福祉学習、家庭科の調理・ミシンへの支援など様々な形で地域の方々に関わってもらうことができ、地域の方々のふるさとに対する思いや自分たちにこめられた期待に気づくことができた。 ・「ふるさと遠足」では、廃校になった学校に行ったり、地域にある「世界遺産熊野古道」を4年間で完歩することを計画し実行したりできたことで、地域の歴史や素晴らしさを再発見することができた。		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立近野小学校		公民館名 中辺路公民館近野分館	
学社融合における学校・地域の様子 近野地域は、歴史遺跡や伝統文化、自然環境に恵まれており、また、地域社会の学校教育への協力体制も手厚い。 本校では、学社融合を通して地域の豊かな文化・伝統・自然に学び、郷土への誇りと愛情をもつ子供を育てることをねらい、取組を進めている。基盤の一つである「実行委員会」は、公民館、地域の諸団体、保育園、小中学校の代表者で構成されており、諸行事(近野区民体育祭、近野まるかじり体験、近野フェスティバル・文化祭、近野山間マラソン等)の運営の柱となっている。また、学校行事やクラブ活動、各教科の授業場面など、さまざまな教育活動において、地域の方々積極的に参画してくださっていることが、多くの教育的効果につながっている。			
活動名 地域の方々へ学ぶ～近野の水学習～		学年・教科・領域等 3・4年生 総合的な学習・社会科	
目 標	学校・園	・地域の発展に尽くした先人の働きについて学習し、郷土への誇りと愛情の心をもつこと。 ・生活に必要な水の量を常に確保し安定供給を図るための対策や事業が、かなり以前から広く人々の協力を得ながら進められていることなどについて調べ、現在の生活を築いてくれた人々、また維持してくれている人々に感謝の気持ちをもつこと。 ・地域の方々や伝え合う活動を通して、地域に支えられていることを理解し、地域の一員として貢献しようという意識をもつこと。	
	地域(公民館)	・地域の方々から郷土の歴史や文化について学ぶことで、地域への愛情や誇りを育む。 ・地域の方々や子供たちが相互に交流、連携しながら各種活動を展開することにより、地域力を高める。	
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 地域の方々、日置川漁業協同組合、田辺市水道部、公民館近野分館			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)			
近野の水はどこから『日置川を知る』 (5月) 日置川の地理的なこと、河川と農作物とのつながりのこと、生息する生き物(鮎やこさめなど)のこと等について、体験を通して学んだ。その中で、日置川が地域に様々な恵みをもたらしていることに気づき、暮ら			
近野の水の歴史『大畑の水不足』『井戸の歴史』『川崎水路』 (5月・6月・10月・11月)			
【大畑の水不足】大畑地区では、地理的条件により昔から水が不足し苦勞をしてきたが、先人の努力や工夫、協力によって、水道や井戸が築かれ、人々の生活に安定をもたらしたことを教わった。		大畑地区の方のお話から学ぶ	
【井戸の歴史】近露では、およそ41の井戸が先人により築かれ、人々への水の供給が安定してなされてきたことを知ることができた。また、防災の視点からも、地域の井戸が現在も水の貴重な供給源であることを学んだ。		実際に体験しながら水にまつわる歴史を学ぶ(ここでは井戸の水くみを体験)	
【川崎水路】およそ百年前、水田に水を送るのに苦勞をしていた地域の人々の願いを受け、久保円五郎さんと息子の善助さんが、金づちとのみで苦心して農業用水路を築いたことを教わ		手作業で築かれたという川崎水路を見学	
近野の今の水は『近野簡易水道について』 (6月) 飲料水を供給する市水道部の事業は、人々が安心して使うことができるよう様々な面で安全確保に努めていること、人々が必要とする量をいつでも使えるよう水の確保に努めていることを学んだ			
		近野簡易水道の施設を見学し、市水道部の方のお話から学ぶ	

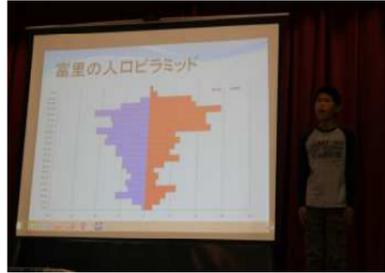
	成 果	課 題
学校・園	・地域の方々からのお話を聞き取ったり、実物や記録等の具体的な資料を見せていただいたりすることによって、子供たちの学習への意欲や関心がたいへん高まった。また、集めた情報を学級全体で一つの作品にまとめあげ、校外に発信(近野フェスティバル・文化祭・社会科生活科学学習資料作品展示会等に出品)し、高い評価をいただいたのも、子供たちの達成感や自信の高まりにつながった。	・職員がかわっても継続していけるよう、教職員間でねらい等を引き継いでいくとともに、地域の方々とのつながりも継承していくことが大切である。
*子供にとって	・現地に足を運び、地域の方々から実際にお話をうかがったり、体験的な学習を積んだりすることによって、より身近に地域の歴史や文化、自然を感じ、学習を深めることができた。 ・「水に関わる地域の歴史」を、様々な角度から教わることによって、自分たちの暮らしが地域に支えられているということを実感できたようである。	・地域の歴史や伝統文化、自然環境についてさらに学習を深め、今後の学習につなげていく。 ・子供たちは、地域の願いに耳を傾けることの大切さを学習の中で感じ取っている。今後は、子供たちが地域社会の願いを地域の方々と共に共有し、具現化する活動を取り入れていく。
*子供にとって	・郷土の歴史・文化等を地域の方々やふれあいながら学ぶことによって、現在の生活を築いてくれた方々に尊敬と感謝の気持ちをもつことができ、また、地域の一員としての自覚が高まったと考えられる。	・本地域の恵まれた環境の中で、地域の方々との交流の継続を図ることで、地域への思いをさらに深めていってほしい。
地域(公民館)	・地域と学校が一体となった様々な取組が、世代を超えた心の交流、ひいては地域の活性化にもつながっている。	・本地域においても、以前から人口減少や高齢化の状況がみられる。今後とも学社融合の取組が継続、発展していけるよう、今あるつながりや組織の継承を大切にしたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
【評価】 ・本校の学社融合の取組は、今回の報告の他にも多岐にわたる。地域の方々には、それぞれの専門性や知識、経験を熱意をもって伝えてくださっている。地域の方々の積極的な教育活動への参画により、子供たちの主体性が促され、学習活動が深まったと考えられる。		学んだことを学級で一つの作品にまとめ、校外に発信(近野フェスティバル・文化祭・社会科生活科学学習資料作品展示会等に出品)
【次年度に向けての取組の方向】 ・地域の方々の専門性をいかす場を学校教育活動の中に今後も組み込み、子供たちの教育の充実を図るとともに、地域にも貢献できる学校となるよう取組を進めていく。 ・子供たちは、地域の願いに耳を傾けることの大切さを学習の中で感じ取っている。今後は、発展的な学習として、子供たちが地域社会の願いを地域の方々と共に共有し、具現化する活動を取り入れていく。		地域の発展に尽くした先人の功績が記された碑を見学

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立鮎川小学校		公民館名 大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、平成27年4月に三川小学校と統合したことにより、校区が富田川両岸に広がる鮎川地区と日置川上流の山間部に12集落が点在する三川地区の広範囲となっている。昨年度は、多くの方の協力を得て大塔地域共育コミュニティ本部事業成果発表会を開催することができた。本年度はその成果を生かしつつ、更なる活動の充実をめざして学社融合の取組をすすめている。地域の方々は、学社融合事業であるふれあいスクールや出前授業において、ふれあいボランティアを組織して下さったり、さまざまな授業支援に関わって下さったりと大変協力的である。		
活動名 地域の方と学ぶ「ふるさと学習」		学年・教科・領域等 3年 4年 6年(総合的な学習の時間)
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習に取り組むことで、その地域の素晴らしさを知り、ふるさとを愛する心を育てる。 ・地域のゲストティーチャーの方と接することで、コミュニケーション能力を高める。 ・多くの地域の方に学校に来て頂くことで、「開かれた学校」の充実を図る。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちに地域の歴史や伝統文化、偉人の功績等を伝えることで、ふるさとの良さを認識させる。 ・地域住民と学校・子供たちを繋ぎ、交流を図ることで、地域の活性化に繋げていく。 ・学校との連携を密にし、ひとりでも多くの住民に学校の取組に関心を持ってもらえるよう、地域ぐるみでの共育の輪を広げていく。
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 大塔公民館 地域の方々		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【3年生】 「鮎川の民話・伝説を知ろう」 1学期は鮎川の民話について学習し、「もちつかぬ里」の『ぼうり』という郷土料理に気づく。 * 9月10日 打合わせ・今後の日程について協議する。 * 11月中旬 里芋ほりの時期や学習内容について最終調整を行う。 * 12月 4日 ぼうりの材料である里芋ほりを小川地区で行う。 * 12月11日 ぼうりの作り方を教えていただき、地域の方と一緒に調理する。 * 12月14日 ぼうりの試食をしながら伝統を守る方たちの思いを学ぶ。		
【4年生】 「地域の発展に尽くした先人を調べよう」 * 10月23日 打合わせ・現地下見 * 11月 1日 打合わせ・見学の日程調整と学習内容の確認 * 11月14日 最終打合わせ・撫養重太夫が作った用水路を見学する際の道順、話して頂く内容を確認。 * 11月27日 撫養重太夫が作った用水路を見学しながら、当時の作業や様子について学習する。 * 12月 4日 撫養重太夫の用水路づくりについてお話を伺ったり、道具や当時の測量方法を学習する。		
【6年生】 「調べよう 大塔の歴史」 * 6月14日 打合わせ・現地下見 * 7月 4日 鮎川から北郡地区の熊野古道を歩くとともに、沿道の歴史について教わる。 * 9月 6日 打合わせ・今後の学習計画を伝え、学習内容の検討を行う。 * 11月 2日 三川地域の史跡についての歴史を、現地を歩きながら教わる。		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の授業では、実際に『ぼうり』を作り、試食することで、授業内容がより身近なものとなった。 ・6年生の授業では、現地で学習することにより説得力のある学習をすることができた。また、参観日に発表の場があることも児童の意欲につながった。 ・用水路づくりに関わる古い道具や測量技術などの専門的な内容も分かりやすく、有意義だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『ぼうり』の伝統を守ってきた生活研究グループが活動を休止されている。そのため、個人の方への負担が大きくなっていく可能性がある。 ・地域と子供はつながっているが、GTを招いた授業を参観してもらうなど、地域と保護者がつながりを持てるような場を取り入れていく必要がある。 ・用水路見学をするために、手入れなどで大変な労力をかけて協力していただいた。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から教わることで地域への愛着が育った。 ・地域の食を味わうことができた。 ・重機などない時代に、故郷のことを思っって用水路を作り上げた地域の偉人に対して尊敬の念を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをできるだけ自分の生活にいかしたり、生き方に反映してほしい。 ・多くの方々に協力していただいている分、日頃からコミュニケーション能力や聞く力を高め、より充実した学習としていってほしい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流が深まっている。 ・地域の歴史、伝統文化や偉人の生き方などを学ぶことで、ふるさとへの愛着が湧き、関心を持つようになってきている。 ・地域に知り合いの大人が増えてきて、日常的な交流にもつながってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の方とのつながりを大切に、ふるさとを大切にすることを育んでいってほしい。 ・今回、授業で学習した内容以外の地域資源にも興味を持ち、広く目を向けていってほしい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習に関わることで、学校の取組や子供たちの様子を知ることができた。 ・学校へ顔を出す機会が増えていることから、子供たちとの距離も近くなっている。 ・授業への協力を通して、住民自身も地域の新たな魅力に気付いたり、地域について学び直す良い機会となっている。 ・昨年度まで協力してくれていた住民(故人)が多くの資料(映像や書類等)を残してくれていたため、本年度の授業支援に大変役立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力者の固定化・高齢化が進んでいる。今後も活動を継続していくための人材の確保、育成が課題である。長年、協力してくれていた住民(故人)が、ふるさとに関する多くの資料を残してくれており、これらを活用した後継者づくりも検討していきたい。 ・地域行事等を通して、子供たちが地域の方と学んだ学習内容を多くの住民に広報していきたい。 ・次年度以降、鮎川小と富里小が統合し、新たに富里地区が校区に加わるので、地域的にバランスの取れた学習内容にしていければと思う。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <今年度の評価> ・地域の方と学ぶ「ふるさと学習」を展開してきたことで、「熊野古道」「撫養重太夫の偉業」「もちつかぬ里」など、郷土独自の素材を教材として学習することができた。また、これまでの積み重ねにより学習内容が整理され、安定した実践となってきている。子供たちは、改めて自分のふるさとの歴史や、人々の思い、また、それらのよさに気づけたことと思う。そして何より、多くの方の協力を得られていることは、自分たちが大切にされ、大塔地区の一員として引き継いでいくべきものがあるという気づきにつながったのではないのだろうか。 <次年度に向けての取組の方向> ・これまでの実践を生かしつつ、常に新しい視点をもって学びを深化させていけるようにしていく。 ・教えてくださる地域の方への負担を考慮し、無理なく続けていけるような方法を考えていく。		
  		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立富里小学校		公民館名 大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 少子高齢化の波が激しく、今年度の児童数は9人の3学級編制で、年度末をもって閉校する。富里小学校最終年ということで、子供たちの行事への思い入れは例年以上に強く、地域や保護者の方々の思いも同様であった。学校行事には、大勢の来場者があり、好評を博した。また、地域の「富里まつり」や「平瀬の郷 冬まつり」には、「とみさとソーラン」、「一輪車」、「音楽劇」等の発表の機会をいただき、交流を深めることができた。 本校の教育方針は、「ふるさとを愛し ともに伸びゆく 子供の育成」である。ふるさとを知り、ふるさとの良さに気づく子供を育てるために、地域の方々や、諸施設・関係機関に積極的に協力を求めたり、地域の方を講師として招待したりすることで、ふるさと富里の自然や文化についての学習や、地域の人々との繋がりが図れた。		
活動名 ふるさと学習		学年・教科・領域等 全校児童・生活科・総合・特別活動
目 標	学校・園	地域の方々との交流を通して、地域の人・自然・歴史について理解を深め、地域の特徴や良さを見つめ直す。また、学習の成果を地域に発信することで、地域の人々との交流を深める。
	地域（公民館）	学校のふるさと学習や行事に積極的に関わり、ふるさと富里地域の良さを子供たちに教え伝えていくとともに、子供たちとの交流を深める。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 大塔公民館 富里連絡所 JA富里 平瀬郵便局 青少年旅行村 あすなろ平瀬の郷 とみさと句会 JA女性会富里支部 大正琴サークル		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【2年生】 ○6月：連絡所・JA・郵便局で仕事内容等をインタビューする。 ○10月：まとめていく上でわからないところを再度インタビューし、発表会に向けて写真を撮る。 ○11月：学習したことを発表する。		
		
【4年生】 ○5月：富里校区内を探検する。 ○10月：地域の方々をインタビューする。 ○11月：学習したことを発表する。		
		
【5・6年生】 ○10月：地域の現状を調べ、知る。 ○11月：自分たちが考えた課題について、地域の人たちの意見・思いを聞く。 ○11月：地域の現状と課題について、調べたことや考えたことを発表する。		
【全校】(6月・10月) ○俳句の作り方を教わったり、句会を開いたりして、俳句作りを楽しんだ。また、作った俳句を「ふるさと富里祭り」に出品・展示し、地域の方々に見ていただいた。		
		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の学習の一つとして、自分たちの地域で働く人のことを学ぶことができ、自分たちが周りの人に支えられて生活していることを学習することができた。 「ふれあい学習発表会」でまとめたことを報告することにより、学校側の取組を伝えることができた。 地域の現状や課題、地域の人たちの思いを知ることができたことはよかった。また、地域の課題に対して自分たちができることを考えたことで、児童に地域の一員であることを意識づけられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 協力してくれる方々に、質問を予め伝えておき、どのように答えてもらうかなどの細かな打ち合わせをする必要があった。一生懸命説明してくれたが、2年生には難しい言葉も多くあった。 地域住民の高齢化に伴い、外部講師の人材を確保していく必要がある。 地域の課題である過疎や限界集落という問題は、明確な解決策があるものではなく、子供たちに考えさせるには大きすぎる課題であった。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> インタビューするときの言葉づかいや礼儀を学ぶことができた。 地域の人たちの温かさになれることができた。 自分たちが住むふるさとに自慢できる施設や景観があることを認識することができた。 働く方の工夫や努力について学ぶことができた。また、地域の現状や課題から、自分たちにできることを考え、発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの人にインタビューしたが、一人で様々な仕事をまとめていくことは負担であり、難しかった。 インタビュー等では、臨機応変に対応できる力を育てたい。 地域の一員として、自分たちの思いや考えを発信したり、実践したりする活動を継続させたい。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> 地域で懸命に働いている人がいること、また、人々のふるさとに対する思いを知ることができた。 地域の歴史やすばらしい自然についても学習することができた。 地域の人々の協力により、地域の現状を知ることができ、課題を確認することができた。 アンケートや学習したことを基に、地域の未来のために自分たちにできることをまとめ、発表することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校閉校後は、地域の人とのふれあいの場が少なくなると思われるが、地域に住む一員として、今まで同様、繋がりを大切にしていきたい。 統合先の学校生活においても、これまで学んできたふるさとの良さを発信していったほしい。 これからもふるさとを大切に思う心を持ち続けてほしい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな職場の方が子供たちと交流することができた。また、地域での暮らしや活動を子供たちに見せることもできた。 学校行事に参加し、また活動に協力することで、学校の取組がよく分かり、また、子供たちの頑張りが成長を見ることができた。 地域の現状と課題を踏まえ、子供たちが「富里を愛し、富里の名を大切に」、「伝統文化をみんなで協力して守る」、「行事をみんなで盛り上げる」等、地域のための思いを発表してくれたことは、多くの住民が深く受け止めていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の各活動への協力者の固定化、高齢化が進んでおり、今後、歴史・文化等、地域のことを子供たちに伝えていくため、ふるさと資料集のようなものを整理しておく必要がある。 学校閉校後も、地域住民と子供たちとの繋がりが弱くならないよう、公民館行事等を通じた交流にも努めていきたい。 次年度以降、統合先の学校とも協力し、富里地域に関するふるさと学習が途絶えないようにしていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 【評価】 <ul style="list-style-type: none"> 地域にある仕事について学ぶことができ、地域の人々の優しさに触れることができたのはよかった。 普段は何気なく生活しているが、生活できているのは様々な人が仕事をしていてくれるからだとすることを児童は感じる事ができた。 児童数が一人ということで、様々な仕事について調べ、まとめていくのは時間がかかり大変であった。 「富里じまん」にふさわしい内容を学習することができた。 富里小学校が閉校になるということもあり、今年度高学年は、富里の「今と昔」をテーマに取り組んだ。インタビューやアンケートを通して、地域の方の思いに触れることができた。また、地域の現状や課題を調べ、「自分たちにできることは何か」を考え、それらを模造紙にまとめたり、発表したりすることで、保護者や地域の方に伝えることができた。 		
【次年度に向けて】 <ul style="list-style-type: none"> 様々な仕事に触れることはできないが、富里地区ならではの仕事に焦点を絞って学習を行う方が深まりがあったのではないかと考える。 今後はお世話になっている人たちにお礼の気持ちを伝えるような活動を行っていきたい。 次年度からは鮎川小学校と統合となるが、富里小学校区との連携のあり方を検討する必要がある。 考え、発表した「自分たちにできること」を実践できるように取組を進めたい。また、それらの取組が、閉校後も何らかの形で生かされ、繋がっていくようなものになればと考えている。 		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立三里小学校		公民館名 本宮公民館三里分館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、世界遺産である熊野古道が通り、また熊野川の支流である三越川に面した緑豊かな地域にある。しかし、三里小学校周辺の畝地区などは、かつての熊野川の氾濫で度重なる水害に遭っており、平成23年度の台風12号の水害も大きなものであった。また、この地区は少子高齢化に伴い児童数は平成31年度までは45名前後の児童数であるが、32年度からは35名前後に減少する。今後は完全複式を視野に入れた教育課程の編成が必要になってくるであろう。このような小規模の学校ではあるが、地元住民の学校への期待感は大きく、普段より学校行事に大変協力的でいつも子供たちを温かく見守ってくれている。また、平成30年度末までに、旧三里中学校跡に新校舎が完成予定であることで、学校関係者のみならず、地域の大きな楽しみになっている。		
活動名 ①読み聞かせ会 ②鮎のつかみ取り体験 ③クラブ活動		学年・教科・領域等 総合的な学習の時間・生活科・特活・道徳・クラブ活動
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に生きる学校として、地域をいかした学びを深める。 ・学校を中核とした社会教育団体との融合を図る。 ・共育コミュニティ事業に積極的に取り組み、学校・家庭・地域が一体となった活動の充実を目指す。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業と学校の教育活動が一体となった学社融合の取組を行う。 ・地域人材の知識や技能を活かしたボランティア活動を推進し、参加した地域住民が児童との交流を通して教育活動への参加意欲を高める。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 共育コミュニティ音無本部 本宮公民館三里分館 地域の皆様 保護者 熊野川漁協の皆様		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ①「 縛るル読み聞かせ隊 」による読み聞かせ会 <日時>4月14日(金) 6月2日(金) 10月11日(水) 12月7日(木) 1月30日(火) 13:30~14:15 <対象学年>全学年 <ねらい>読書に親しみ、本に興味関心をもつ子を育成する。地元の方と本を通して触れ合う。 <活動内容>偶数月のやまびこ号来校時に合わせて、地元の読み聞かせグループの皆さんが、低・中・高学年に分かれて読み聞かせを実施している。この取組が始まったのは、十年以上前になる。また年一回は大掛かりな読み聞かせ会を計画していただき、音楽や寸劇などを取り入れ、さらに楽しい読み聞かせ会を実施してくれている。この時は保護者や地域の方にもお知らせし、多くの参観者が来校してくれる。		
② 鮎のつかみ取り体験 <日時>8月4日(金)9:30~11:00 <対象学年>全学年 <ねらい>熊野川の生態系を学び、川の水質を守るためにどんなことに気を付けたらいいか、また鮎の成長についての学習を実施する。 <活動内容>熊野川漁協組合のみなさんから、川の水質保全の大切さや、鮎の成長過程などについてのお話をいただいた。また、当日設置したいけすに鮎を放流し、つかみ取りを実施しその後炭火で焼いて試食をした。この取組は、5年前から始まり子供たちの楽しみの一つになっている。また地元漁協組合の方々も子供との触れ合いを楽しみにしてくれている。		
③ クラブ活動 <日時>5月29日(月) 6月26日(月) 11月27日(月) 12月11日(月) 1月29日(月) 14:15~15:10 <対象学年>4~6年生 <活動内容>体育クラブ(グラウンドゴルフ・バドミントン) 工作クラブ(ペーパークラフトかご作り) 家庭科クラブ(手芸・おやつ作り)に、地域の方が支援者として来校してください、子供と一緒に活動をしてください。特にグラウンドゴルフ同好会の皆さんは、毎年クラブ活動を楽しみにしてくださっている。		

	成 果	課 題
学校・園	<読み聞かせ会>子供たちが毎回楽しみにしている取組で、特に年一回の読み聞かせ大会は、保護者や地域の方も参観に来校してくれる。小学校時代に読み聞かせの楽しさを体験した子供たちが、将来自分の子供に本の読み聞かせができる大人になれることを願っている。 <鮎のつかみ取り体験>身近な熊野川の生態系を学ぶ機会は貴重である。子供たちは、鮎の成長過程を学び、その鮎を食すことで命の大切さを学ぶことができた。 <クラブ活動>各分野で活躍している地域の方の支援をお借りして、楽しくクラブ活動を実施することができた。	・読み聞かせ会は、今年度より偶数月に減らし授業時間の確保を図った。読み聞かせのボランティアの皆さんには学校の教育活動の課題等も理解していただいた上での決定であったので、今後も互いに無理のない活動として継続していけるようにしていきたい。 ・鮎のつかみ取りは、毎年夏休みの登校日に設定しているので、今後もこの日程で実施していきたい。 ・クラブ活動は一昨年度より地元の人材を探し、より専門的な支援が得られるよう公民館や行政の協力を得て、徐々に深まりつつある。
*子供にとって	<読み聞かせ会>読書が苦手でも、読み聞かせは熱心に聞き浸る児童の姿が見られる。言葉のシャワーをたくさん浴び、言語感覚を磨いたり、お話の世界を楽しんだりする体験を継続し、ことばの力を育んでいる。 <鮎のつかみ取り体験>川の生態系を守ることの大切さを学ぶことができた。また、鮎のつかみ取りや塩焼きの試食を楽しめた。 <クラブ活動>地元の方を講師に招き、より専門的な支援を受けることでクラブ活動が深まった。	・読み聞かせをきっかけに同じ本を手にとってみたりする子も増えている。家庭での読書活動が深まるようにしたい。 ・鮎のつかみ取り体験は単に鮎のつかみ取りを体験し、塩焼きにして食べる活動ではなく、命の尊さを実感できる取組になるようにしていきたい。 ・クラブ活動での地域の方の活躍の場は今後もさらに広がるので、児童にとっていろいろな体験ができるクラブ活動にしていきたい。
*子供にとって	・さまざまな学習を通して地域の方との交流の機会を設けることにより、児童の学習意欲が高まった。 ・体験を通して学んだことが、その後の学習(例えば作文・詩の創作・話し合い活動等)にいかすことができた。	・地域の方との交流を通してあいさつや礼儀を学ぶ機会をさらに増やしていきたい。 ・体験学習のままに終わらず、継続した学びになるような次への学びを計画し、児童の学習意欲を持続させていく工夫が必要である。
地域（公民館）	・今年度のクラブ活動支援者を探すことで、学校と地域のつながりを深めることができた。 ・本宮行政局のロビーに、学社融合の取組を掲示することで、学校と地域の具体的なつながりを発信することができた。 ・定期的に学校を訪れて、学校の様子を知るように努めた。また学校の課題や必要とすることなどを把握し、できることを支援してきた。	・毎月月末に本宮町内三校が集まり、学社融合打合せ会を実施し三校の取組を交流することで、本宮町内の「共育コミュニティ音無」をさらに充実させていきたい。 ・今後もさらに学校と地域をつなぐパイプ役として活動していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・三里小学校での学社融合の取組は多岐にわたっているため、毎回紹介はその一部になっている。来年度は、学校行事の精選に加え新しい教科が増えるため、本校の教育課程を十分練り直し、子供たちにとってよりよい学社融合の取組をめざしていきたい。また、地域を活性化するための力にもなるよう育友会活動や公民館活動の充実を図れるよう連携を深めていきたい。 <読み聞かせ会:低学年> <漁協組合の方から鮎の一生についての説明>		
<クラブ活動> ~ペーパークラフトかご作り~ ~グラウンドゴルフ~		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立本宮小学校		公民館名 本宮公民館(本宮分館・四村川分館・請川分館)
学社融合における学校・地域の様子 本宮小・請川小・四村川小の三校の統合から12年が経過した。校区が広範囲になり、全児童がバス通学となった。児童数も統合時の3分の1の40名前後で推移している。広範囲な校区ではあるが地域学習をする上で、校区の特色を生かした内容の工夫・改善を続けてきた。教科だけでなく、クラブ等各領域においても学社融合を図り、公民館や家庭、地域、専門家の方々の支援とご協力をいただき、専門性を生かした効率の良い授業につなげている。保護者・地域の方々には子供たちへの関心が高く、参観日や運動会など学校行事への参加率が高い。地域のサークルの方々は、授業支援に積極的に参加していただいております、地域ぐるみで子供たちを育てていこうという意識が高い。		
活動名 学びを深める学習支援		学年・教科・領域等 1・2年国語科・生活科・特別活動 3～6年社会科・理科・総合的な学習の時間・特別活動
目	学校・園	「まちと向き合い、まちを知る」=本宮の文化や産業等に関する学びを深める。 「地域の伝統芸能を知る」=本宮の伝統を知り、主体的に学習に取り組む。 「地域の方々と交流する」=コミュニケーション能力を高める。
	地域(公民館)	「本宮町の歴史や文化、自然に親しむ子供を育成する」 ・地域の教育力及び専門的な知識を持つ方々を学校教育に生かす。 ・地域ぐるみで子育てをするという意識を高める。
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 共育コミュニティ「音無」本部 保護者 地域の方々 熊野本宮語り部の会 奥熊野太鼓 熊野本宮伝統芸能子ども教室 熊野川漁業協同組合 老人会		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ねらい・地域の支援による学びを深める学習活動 3年:音無茶の学習(5月) ・地域の名産である音無茶の茶摘み体験をさせてもらう。その後番茶作りを体験する。 ・後日、つくったお茶をいただきながら、栽培方法や苦労・工夫について学習パートナーにお話を伺う。 ・地域の名産である音無茶について、体験を通して自分の考えを持つ。 1・2年:請川 まち探検(6月) ・請川地区にある郵便局や駐在所、理容店など各商店を見学させていただき、地域の特徴を知る。 6年:熊野古道語り部ジュニア活動(6月) ・熊野本宮語り部の会 関さんを学習パートナーとして、熊野古道について学ぶ。 ・三里小学校と本校区の熊野古道について語り部活動を行い、地域の熊野古道について交流する。 ・田辺第一小学校5年生に熊野古道語り部ジュニアとして、大日越えにおいて語り部活動を行う。 3年:地域の産業についての見学(6月) ・本宮での特徴ある産業について知る。 ・飲料加工工場、和牛生産牧場、紙漉工房を見学し、地域の特産を生かした産業を見学する。 ・各工場での苦労・工夫について学習パートナーにお話を伺う。 4・5年:宿泊体験(7月) ・地域の自然の豊かさを知る。(ウナギの仕掛け、川遊び等) ・地域の家庭でお風呂に入らせていただき、地域の方と交流する。 ・熊野川漁協等の協力を得て、鮎のつかみ取り体験をする。 ・学習パートナーと共に、学校周りでバードウォッチングを行い、豊かな自然を知る。 4・5・6年:キッズ本小太鼓(6月・7月・9月) ・奥熊野太鼓の関さんに奥熊野太鼓の歴史や太鼓のたたき方、所作等を教わる。 ・運動会で、保護者・地域の方々にキッズ本小太鼓を披露する。 6年:鮎の友釣り体験(8月) ・鮎の友釣り体験を通して、豊かな自然を知り、鮎の友釣りの普及を目指す。 ・熊野川漁業協同組合の方々の指導のもと、鮎の友釣り体験を行う。 全校児童:防災教育(11月) ・元校長先生、行政職員の方から、6年前の台風12号による地域や本校の被害状況や災害時に大切なことについて話を伺う。 ・学習したことを、防災担当者や保護者・地域の方々に発表する。 3・4年:老人会との花植え(11月) ・老人会との交流を通して、高齢者の方々は伝える喜びを、子供たちは、学ぶ楽しさと優しさに触れる。		



	成 果	課 題
学校・園	・自然豊かな本宮町について各学年の活動を通して理解し、地域に住むものとしてどうしていくべきかを発達段階に応じて考えさせることができた。 ・過去の洪水被害をふり返り、これからの防災について自分たちがしなければならないことを全校児童に考えさせることができた。また、保護者・地域にも防災で大切なことについて知らせることができた。 ・地域、保護者等専門性をもった学習パートナーが学習に参加していただいたことで、学習効率が上がり、興味関心を持ちながら主体的な学びにつながった。	・児童数の減少によって複式学級になったため、学習効率を図るために、さらに学習パートナーとの連携が重要となってくる。 ・授業でのよりよい支援のために、学習パートナーとの打合せでは、授業内容、時間設定について細かく打合せておく必要がある。 ・本校の特色や地域の方々の専門性をいかし効率化を図るため共育コミュニティや公民館の協力を得ながら、新たな学習パートナーを見つける必要がある。
*子供にとって	・本宮町の特色を知ることで、郷土愛や郷土への誇りを持たせる手だてのひとつとなった。 ・地域、関係機関の協力のもと、体験や見学をさせてもらったことで、本宮町の文化や産業の特色について知り、意欲的に学習に取り組むことができた。 ・見学やもらい風呂を通して礼儀やマナーを身につける機会となった。 ・防災教育では、自分事としてとらえることができた。	・地域の方々と交流する際には、自分の思いを生き生きと表現できるよう機会を増やしながらいち力を高めていく。 ・さらに、地域の文化・歴史的資源や人的資源を活用し、郷土愛や郷土への誇り、郷土に貢献する人材の育成を目指していく。
*子供にとって	・自分たちのふるさとの自然について学習することで、自然への感謝とその反面の恐ろしさや、災害時に助け合う人々の温かさを理解しており、子供たちが積極的に地域に関わりたいという気持ちを持ったことで、地域とのつながりが一層深まっている。	・学校内での活動のみならず、自分の住んでいる地域の行事にも参加することで、それぞれの地域に溶けこんだ子供になってもらう必要がある。
地域(公民館)	・学校と地域の方々が共同で活動することで、地域が一体となって子供たちを育てるという意識が育まれた。 ・子供たちが地域の特産物や伝統芸能の継承活動等を行うことにより、指導する高齢者の心の励みになっている。	・年々学習パートナーの高齢化が進む中で、人材確保が困難になる恐れがあることから、今後は保護者の方々の参画も視野に入れていく。 ・活動が継承できるよう各種団体と連携しながら取り組んでいく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 ・学校教育目標「生き生きとした子供の育成」を周知し、学校・保護者・地域全体で子供たちを育てていこうという思いで取り組むことができた。 ・学校開放月間である11月には、校内人権お話を始め、防災教育の公開授業やクラブ活動など、学校教育活動を保護者・地域の方々に参観していただくことができた。また、クラブ活動等では、地域の方々に参画していただいていることを知っていただく良い機会となった。 ・学習パートナーの方々には、知識や経験を子供たちに伝える喜びを感じるとともに生涯学習の充実となり、学びでつながるまち作りの機会となった。 ・子供たちは、たくさんの地域・関係機関の方々に関わることで優しさや学ぶ楽しさを感じる事ができた。 次年度に向けての取り組みの方向 ・今年度の活動に修正を重ね、子供たちのさらに深い学びにつなげていく。 ・公民館を中心として共育コミュニティとの連携をさらに強化し、学校教育の充実と地域コミュニティの活性化に努めていく。(キッズ本小太鼓) (水中生物調査) (老人会と花植え) (語り部活動)		



学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立東陽中学校	公民館名 東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館
学社融合における学校・地域の様子 公民館施設を併設した近畿唯一の中学校として、公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組の実施を目指してきた。地域の方々も公民館長、公民館主事の働きかけに協力的で、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができています。公民館の掲示板には生徒の行事への取組の様子や教科の作品等を掲示し、公民館を訪れる地域の方々にも広く紹介している。東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集し、学校の教育活動に協力をいただいている。また、地域にある田辺第一小、田辺第二小、田辺東部小との連携を深めた学社融合の取組を推進してきた。「東融会」(東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館の4館と連携を図り、東陽中学校区の学社融合を推進するための会)と、「学社融合推進本部会議」(学校・保護者・地域・生徒の四者で意見交流をする会)の取組も軌道に乗り、研究発表や防災クロスロードの授業を行うにあたって、大変有益であった。	

活動名 公民館・地域・小学校と連携した取組	学年・教科・領域等 社会・理科・音楽科・家庭科・保健体育・英語科・総合的な学習の時間
---------------------------------	--

目 標	学 校 ・公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援サポーター等を活用した学社融合の取組を推進する。 ・校区の小学校と連携を深め、児童と生徒が交流できる企画を進める。 ・学校と地域が、共に取り組み、学び合う機会を増やし、「社会に開かれた教育課程」をめざす。
	地 域 (公 民 館) ・幅広く地域の方に学社融合活動に携わっていただく。 ・学社融合活動の企画段階から、地域の方々や生徒たちに参画いただき、自主的に取組を進められるよう心がける。 ・生徒たちと共に、当地域の課題である「防災」について学ぶ機会を持つ。

校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織
東部公民館 中部公民館 南部公民館 ひがし公民館 防災まちづくり課
東融会 学社融合推進本部会議

取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)
【バラ鑑賞と二胡の調べ】
○6月3日(土)
二胡奏者の瓦野早紀子さんとピアノ奏者の榎本由紀子さんを迎え、併設する公民館集会所で演奏会を行った。本校合唱部も共演した。演奏会の後には中庭のバラ園で生徒たちがお茶をふるまい、300名以上の方々楽しんでいただいた。



バラと二胡の調べ(お茶)

【調理実習】
○10月19日(木) 10月20日(金) 10月29日(日)
今年も調理実習で、本校の文芸部が地産地消を意識して考案した東陽バーガーを2年生が調理し、東部・南部公民館区婦人会の方々にご協力いただいた。研究発表会当日も授業を公開し、多くの方に参観いただいた。また、昨年に続き、生涯学習フェスティバル(11月25日(土))に「中学生カフェ」として出店させていただき、大変好評であった。



鮭の調理実習

【防災クロスロード授業】
○7月19日(水) 10月5日(木) 10月29日(日)
学社融合推進本部会議において、学校と地域が共に防災に関する取組ができないかという意見がだされ、生徒と地域の方々共に防災に関する課題について考える防災クロスロードの取組を3年生の各クラスで行った。3回目は研究発表の当日に行い、多くの方々に参観していただいた。授業は、教師主導ではなく、公民館主事が中心になって行った。準備については、東融会において、公民館主事と教員、教育委員会や防災まちづくり課の方々などにも協力いただきながら進めた。また、この取組については、12月12日(火)の田辺市防災教育担当者会において、当日の映像も合わせて報告をさせていただいた。



東陽バーガー販売(中学生力)

【研究発表会】
○10月29日(日)
本校は、平成27年度から3年間、田辺市教育委員会の研究指定を受け、公民館併設型の中学校における学社融合事業の推進を進めてきた。研究発表当日だけでなく、さまざまな場で、地域の方々、保護者の方々にも協力をいただき、無事に成果を発表することができた。全体会のアトラクションでは、地域の合唱サークルと本校の育友会の有志が美しい歌声を披露してくださり、発表に花を添えていただいた。



防災クロスロード授業

	成 果	課 題
学 校 ・ 園	学社融合推進本部会議での話し合いをもとにして、防災クロスロードの授業ができたことが、大きな成果である。準備の段階から、東融会で学校と公民館、教育委員会、防災まちづくり課と連携しながら進められたこと自体が、大きな成果であったと考える。	本年度は、これまでの取組を推し進め、防災クロスロードの授業で、地域と共に学ぶモデルを提示できた。今後も、よりよいものにするために、工夫を重ねながら続けていきたい。さらに、このような地域の課題に対する取組を増やすことで、地域とのつながりをより密にしていきたい。
* 子 供 に と っ て	地域の方々のサポートによって、よりよい環境の中で、力をつけることができた。また、地域の方々と共に取り組んだ経験は、「自分も地域の一員である」との自覚を促し、今後に生かすことができるであろうと考える。	学社融合推進本部会議は、本年度も生徒会担当教員が生徒の立場を代弁するというかたちで行われた(会議が夜のため)。今後は、四者が同時でなくとも、何らかの形で、生徒たちの生の声を地域や公民館に伝える場を設けていきたい。
* 子 供 に と っ て	世代の違う地域の異年齢の方々とはふれ合うことは、生徒たちにとってよい経験となっている。	さらに生徒の自主性、主体性を高めるために、今後どのように中学生が地域の取組に参画でき、積極的に関わっていくかが課題である。
地 域 (公 民 館)	各種事業を通じて、地域の方々や生徒による世代を越えた交流ができています。今年度実施した防災学習では、生徒と地域の方々、一つの課題について共に考えることで、相互の意見の違いも知り、お互いに考えを深め合うことができた。	防災学習については、今回の授業で終わりではなく、当地域における防災力の向上につながる第一歩として捉え、今後も継続していかねばならない。

評価及び次年度に向けての取組の方向
本年度は研究指定3年目となり、これまでの取組をまとめ、発表を行った。図書室やバラ園などの環境を整備していただいたり、各教科の授業に入っていたりすることで、地域の方々の力を学校の教育活動に取り入れ、一定の成果を上げられた。また、防災クロスロードのように、地域と共に取り組み、学び合う形も提示することができた。これからも、地域の方々からさまざまな形で学ばせていただくとともに、生徒が学んだことを地域に向けて表現や発信する機会を増やし、共に取り組み、学び合えるよう、学社融合をさらに推し進めていきたい。



二胡の調べと合唱



研究発表アトラクション

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立明洋中学校		公民館名 中部・西部・芳養公民館	
学社融合における学校・地域の様子 本校での学社融合の取組は、公民館主事と学社融合推進教員で作っている明融会を中心に取組を進めている。融合の取組は、学校に講師等を招いて行う授業や活動と、地域に本校の生徒が向いて行う活動の大きく分けて2パターンがある。地域から講師を招いて行う授業や活動には、生け花教室、郷土料理授業、浴衣の着付け教室、茶道教室、紀州てまり教室などがある。ここ数年は夏休み中に地域の方々の協力のもと補習授業なども行っている。地域に向いての活動には、吹奏楽部の芳養潮騒祭り演奏会(4月)、こいのぼりの会演奏会(5月)、保育所演奏会(9月)、天神児童館祭り演奏会、定期演奏会【プロムナードコンサート】(11月)などがある。その他にも、天神児童館が主催する道普請に、野球部・ソフト部・剣道部が参加したり、花植えボランティアにテニス部・吹奏楽部が参加したりと、地域の行事にクラブ単位で積極的に参加している。また、授業に関しても、1年生は地域の保育所での保育実習、2年生では地域の事業所での職場体験など、様々な機会をとらえ、地域に向いての取組を行っている。			
活動名 地域の方々との交流学习		学年・教科・領域等 全学年・家庭科・特別活動・クラブ活動	
目	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を深めることにより、自分たちも地域の一員であるということを実感し、故郷を愛する気持ちを育成する。 ・地域での活動を通して、多くの方々に関わることによりコミュニケーション能力を育成する。 ・地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる。 	
	地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との関わりを通して、子供たちのコミュニケーション能力の向上と、伝統文化や技術の習得を図る。 ・学校授業への適切な地域人材の提供により、子供たちの愛郷心を育みながら、健全な育成を目指す。 ・子供たちとの関わりの中で、地域住民に学校の取組を知ってもらい、子供たちに対する意識のさらなる向上を目指す。 	
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 芳養地域人材バンク登録者及び各地域の方々 各公民館			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p style="text-align: center;">明融会(学社融合推進教員と公民館主事の会議)</p> <p>第一回 4月19日(水) 内容 本年度のテーマ・今後の予定について</p> <p>第二回 6月14日(水) 内容 学校訪問について・今後の予定について</p> <p>第三回 8月25日(金) 内容 生涯学習フェスティバルについて・今後の予定について</p> <p>第四回 12月11日(月) 内容 学校・各公民館の取組と今後の予定について</p> <p>第五回 3月19日(月) 内容 今年度の取組の総括と反省</p>			
<p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">↓</p>			
<p style="text-align: center;">地域から学校へ</p> <p>◎鯨の三枚おろし(芳養公民館) 芳養婦人会の7名にご協力いただき、鯨の3枚おろしの授業を行った。安全面でも大変助かっている。</p> <p>◎紀州てまり教室(中部公民館) 9月に紀州てまりの会の方にご協力いただき紀州てまりを作成し、展示会に出品した。</p> <p>◎茶道教室(西部公民館) 月に一回程度、家庭科クラブが茶道のマナー等を教えてもらった。</p> <p>◎生け花教室(中部公民館) 家庭科クラブが講師先生の指導を受け生け花をいけた。その生け花を文化発表会で展示した。</p> <p>◎ミシンの使い方・裁縫(芳養公民館) 芳養婦人会のご協力のもと、ミシンの使い方等について指導して頂いた。個別指導ができスムーズに授業が行われた。</p>		<p style="text-align: center;">学校から地域へ</p> <p>◎プロムナードコンサート 吹奏楽部が定期演奏会を開き、700名以上の方に来場していただいた。多くの地域の方々が聴いてくれ、好評を得た。</p> <p>◎保育所との交流 家庭科の授業で1年生が、地域の保育所に行き、園児たちと交流を図った。お兄さん・お姉さんたちとの交流を園児たちは喜んでた。</p> <p>◎地域の作品展 美術作品や手芸作品を、公民館主催の作品展に出品した。</p> <p>◎職場体験 2年生(約100名)が3日間、地域の事業所(43か所)に2・3人ずつに分かれ、職場体験を行った。大変充実した取組になった。</p>	



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、吹奏楽部の定期コンサート(プロムナードコンサート)が20回目の節目をむかえるということで、公民館報にコンサートとのチラシを挟み、明洋中学校区の全世帯に配布した。この反響は大きく、例年以上の方が、来場してくれた。 ・鯨の3枚おろしの学習やミシンの使い方学習では、地域の方々各班に分かれて指導してくれた。安全かつ効果的に学習が行えた。 ・地域の保育所や幼稚園、小学校との交流は、生徒たちに「お兄さん・お姉さん」であるという自覚を持たせることが出来、生徒たちにとって良い経験になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽部の定期コンサートは、学校にとっても地域にとっても今年一大イベントになっている。このコンサートを企画運営するのは吹奏楽部の顧問が一手に担っている現状がある。このコンサートを継続していくには、学校・地域あげてのバックアップ体制が必要であると感じる。 ・本校は3つの小学校から進学してくる。また、校区には3つの公民館がある。9年間の視点を持って推進する場合、3つの小学校・公民館と、どのように連携し取り組むかが学社融合を推進する上で課題である。 ・家庭学習の定着や学力の向上を図っていくために、家庭との連携、地域との連携が必要になる。学校として地域の教育力を向上させるためにどのような取組が必要か検討しなければいけない。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な年齢・立場の方々との交流することで、コミュニケーション力の育成につながっている。 ・自分たちの日頃の取組を、地域の方々に見てもらい評価してもらうことで、自尊感情が高くなっている。 ・地域行事に参加することで、自分たちも地域の一員であるという自覚が芽生えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動等での交流はたくさんできているが、通常の授業での交流があまりできていない。通常の授業は平日になるため、地域の方々との交流が難しい面もある。 ・地域行事などに参加するクラブが限定されてしまう傾向があるので、できるだけ多くの生徒に、機会を与え、地域に貢献できることは何かないかを自ら考えさせたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々から、さまざまな専門的な技術を学ぶ機会を得ることができた。 ・地域の方々に来てもらうだけでなく、生徒自身が地域へ向くことで、自分たちも地域の一員である自覚ができ、地域を大切にすることが芽生えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が地域の方々から習得した知識や技術を日常生活に生かしていけるような取り組みを進めていきたい。 ・学社融合の取組で芽生えてきている、自分が住んでいる地域に対する愛着や誇りを、大人になって持ち続けることが出来るか。また、今後、一人一人の生徒が具体的な行動として表していけるかが課題である。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの講師と生徒との交流を通して、地域に伝わる伝統文化に親しむ機会を作ることや技術を伝えることができたことにより生徒たちの成長につながった。 ・地元の郷土料理を子供たちと地域住民と一緒に作ったり、ミシンの技術を伝えたりする中で、子供たちに地域への関心を持たせることが出来た。 ・地域行事の実施の際に生徒が参加してくれることにより、保護者以外の方々にも地域の子供たちの成長を知ることができ、また地域の活性化にも繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も取組を継続しながら内容の更なる充実を図ること。また、専門的な技術を伝えられる人材の確保に努め、生徒たちとの交流を続けていくこと。 ・既存の事業の充実を図りつつ、今後も地域と子供たちの関係をより深く繋いでいかなければならない。 ・現在の体制を維持しつつ、より一層地域と学校の繋がりを深めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<p>本年度は、郷土料理授業やミシンの使い方授業、浴衣着付け教室、紀州手まり教室、生け花教室に加え、茶道教室を行った。地域の婦人会などから多くの方々に講師として学校に来ていただき、充実した取組ができた。特に本年度は、西部公民館のご協力のもと茶道教室を行った。西部公民館との連携した取組(講師を招いて)が今までなかったが、3つの公民館と連携した取組(講師を招いて)が出来たのでよかった。また、3つの公民館報に吹奏楽部定期コンサートのチラシを挟み、校区の全世帯に配布した。そのため、中学生の子供がいない家の方にも演奏会に来てもらい、中学校での取組を見ていただけたことは大変良かった。</p>		
次年度の取組の方向		
<p>来年度は、新しい行事や取組を取り入れるのではなく、今まで行っている郷土料理授業やミシンの使い方授業、長期休業中の補習授業など、今までの取組を更に充実したものになるよう取り組んでいきたい。また、積極的に地域の行事にも参加し、「地域と共に」を合言葉に取組を進めていきたい。そのために定期的に開いている明融会を大切にしていきたい。</p>		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立高雄中学校		公民館名 秋津・万呂・稲成・ひがし・中部・南部公民館	
学社融合における学校・地域の様子 家庭科、社会科、保健体育科などの授業で、また文化部などの部活動指導、総合的な学習における防災学習や進路学習など、さまざまな形でゲストティーチャーを快く引き受けていただいている。 さらに吹奏楽部が地域のイベントに積極的にかかわったり、2年生の職場体験学習、殊に3年生の防災学習では公民館6か所に分かれて出かけて行き、地域の一員としての責任と必要とされる喜びを味わわせていただくなど、本校の教育活動を支えていただいている。			
活動名 授業・部活動の指導において		学年・教科・領域等 家庭・社会・保健体育・総合的な学習・部活動	
目 標	学校・園	授業や部活動での地域の方とのふれあいを通じて、地域を今まで以上に深く知り専門性の高い内容に興味関心を抱くことで学習意欲を高め、自分が生まれ育った地域に誇りと愛着を持たせる。	
	地域（公民館）	地域と交流する中で地域の一員としての自覚を高め、将来、この地域を支えるための人材育成を図る。	
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 公民館 たなべる 昭和幼稚園 いずみ保育所 市役所税務課 お魚ママさん 深見助産所 切目屋薬局 初山歯科			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 1学期・・・3年：租税教室(市役所税務課)、2年：職場体験学習(地域の事業所37か所)、 1年：防煙教室(初山歯科)、全学年：性学習(深見助産所助産師)、 吹奏楽部コンサート(Aコープ前にて)、クラブ単位での避難訓練 《鯨のさばき方》 2学期・・・2年：鯨のさばき方(お魚ママさん)、2年：食育講座(城山台給食センター栄養士)、3年：絵本読み聞かせと保育実習(たなべる・昭和幼稚園・いずみ保育所)、3年：防災学習、全学年：避難訓練(いずみ保育所・昭和幼稚園児をともなって)、生演奏と読み聞かせ(夕づくよ)、映画『クロスロード』鑑賞(国際交流協会の提案により) 3学期・・・3年：薬物乱用防止講座(切目屋薬局薬剤師)			
☆防災学習(3年、総合的な学習の時間で) ねらい・・・調べ学習や避難経路の確認などを通して防災実践力を高め、状況に応じて判断する重要性和自分に何ができるのかについて考えさせる、また、発表報告することで地域への啓発の一助となればと考えている。 1・2年・・・理科と総合学習の時間に防災学習を行ってきた。 3年7月・・・調べ学習スタート 防災の心得、避難場所、避難経路、簡易防災スリッパの作り方、防災グッズなど		 《防災学習》	
10月・・・公民館6か所に別れて出かけていき地域の方に集まってもらい学習内容を発表。避難経路のフィールドワーク、昔の状況、地形の特徴などの説明を受ける。 12月・・・会津小を会場にして田尻地区の方に集まってもらい、10月同様学習したことを発表する。			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に学校や生徒たちの様子を分かってもらうことができた。 ・地域の方とのかかわりを深め、学校に期待されていること、果たす役割が明確になってきた。殊に防災の面において、地域における中学生の役割が大きいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな分野のゲストティーチャーを継続的に招いて取組を進めること、新たな人材発掘が難しい。 ・防災訓練や防災学習などのとき、6つの公民館、地域、幼保と本校の日程調整に苦慮した。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の高い専門性、深い知識、熱い思いに触れることで、興味関心がわき学習意欲が高まった。 ・津波避難訓練において、園児を伴って行動することで地域の一員としての自覚はもちろんのこと、「自分に何ができるのか、何をせねばならないのか」を考えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーや地域とのかかわりの中で生まれてきたつながりを、生徒をパイプ役として家庭と地域との更なる連携に高めることはできないかと考えている。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が今の自分に何ができるのかを理解し少しずつではあるがつながりが生まれ、次代を担い地域を支える人材が育ちつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性を高め、学校の授業としてではなく地域を支える一員・個人としての関わり、参加の形へと高めていきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や防災学習を地域、学校とのかかわりの中で行うことで、人と人との結びつきが深まり、自助共助が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりを深めるため中学生が地域の行事に参加する機会を増やしたり、地域社会の中に参加しやすい居場所を作り、受け入れる態勢を整えたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 《評価》 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな取組を通して学校の様子や生徒の様子、作品展示を通して日々の学習態度や成果を地域の方に知ってもらうことができた。 ・地域の中の学校であること、学校や中学生が期待されていることを全職員が意識しながら、さまざまな取組を企画立案・実行できた。 ・専門性の高い知識や技術を学べたこと、地域の方とのつながりが生徒の学習意欲を高めた。 《次年度に向けての方向》 <ul style="list-style-type: none"> ・学社融合の必要性、重要性を再確認しながらさまざまな取組を企画立案し、実施する。 ・アンケート評価や学校評議員からの意見、地域や保護者の声を真摯に受け止め、それらを生かしながら今までの取組をさらに進化発展させていきたい。 ・授業や部活動で、新たなゲストティーチャーを招いて高い専門性に触れさせ、生徒の知的好奇心をくすぐることで、自ら学習を深めていく生徒の育成を図りたい。 		

学社融合活動実践報告

学校名 田辺市立新庄中学校		公民館名 新庄公民館	
学社融合における学校・地域の様子 新庄地域は過去に地震の被害を受けたが、豊かな自然の恵みと歴史ある文化と伝統によって、豊かな生活を育んできた。学校機関では、幼稚園・小学校・中学校・公民館が月1回集まって行事や取り組みを共有するなど、密な連携がとれている。また、中学生が小学校の行事に参加するなど、子供たちも地域に愛着を持っている。 本校では、地域住民や近隣校と連携しながら、子供たちが郷土への理解を深め、今できることを考え、それを地域に発信する形で防災を呼びかけるなど、主体的に行動する力を育てている。例年参加している「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」では、本校の取組を発表したり、阪神淡路大震災の教訓から、全国の中高生と共に自分たちにできる防災を考えた。			
活動名 未来へつなぐヒカリ		学年・教科・領域等 全学年 総合的な学習の時間 道徳 各教科	
目 標	学校・園	1年「地域学習」、2年「防災劇」、3年「新庄地震学」の3年間の系統立った学習を通して、地域の良さを知り、愛郷心を持ち、災害時に柔軟に対応し、地域へ貢献できる人を育成することを目指す。	
	地域（公民館）	新庄地域の良さ、特徴をよく知り発信できる方を学校に派遣する。それを継承するとともに地域の連携を深める。	
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 保護者 地域住民 幼稚園・保育所 小学校 高等学校 新庄公民館 新庄町防災対策委員会 新庄漁協 個人事業所 海上保安庁 田辺市役所 生涯学習課 他関係機関など			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)			
1年 地域学習 6つのグループに分かれ、自分たちの身近にある新庄地域の伝統文化や自然の恵みの良さなどを地域の方と協力しながら学習し、発表した。		 新庄地域の川を探索！	
2年 防災劇 広川町を訪れ学習したことを生かし、「稲むらの火」の実話をもとにした創作劇を行い、津波の怖さ、濱口梧陵の偉業、災害時に瞬時の「決断」をする大切さを伝えた。		 新庄中学生がタイムスリップして梧陵を手助けするストーリー	
3年 新庄地震学 「ファーストアクション(素早く・率先して)～escape～」をテーマに、8グループ9講座に分かれ、取組を様々な形で地域に発信した。美術班の防災アート、保健体育班の防災種目作成など新しい取組も増え、地域の方と共に新庄地震学を深めることができた。		 防災種目「防災担架！ルー」	
 小学生と防災アートを検討		 防災種目「防災担架！ルー」	
教科	テーマ	教科	テーマ
国語	防災標語	美術	防災BOUSAIアート
社会	過去の地震を調べ、現代の防災につなげる	技術	防災ラジオ番組の制作
理科 数学	ジオラマを作成して津波の被害を考える	家庭	避難用持ち出し袋
外国語	国境を越える	保健 体育	防災種目
音楽	音楽とダンスで防災を		

	成 果	課 題
学校・園	〈専門的な視点からの学習〉 地域の専門的な知識や経験を持つ方から話を聞き、教えていただくことで、新しい視点から学習することができ、生徒や教員にとって地域の方と関わるよい機会にもなった。 〈意識の向上〉 活動や学習内容を地域の方に発信することで、学校全体が地域への誇りや防災意識を向上することができた。	〈人の固定化〉 協力して活動する地域住民や機関が固定化してしまっているため、新しい視点から学習を進めるためにも工夫が必要である。 〈教員と地域の連携〉 取組の方針は毎年変わらず続いているため、内容の変化や工夫をつけるためにも、学校と地域がコミュニケーションを取り合いながら反省をもとに取組を向上させていきたい。
*子供にとって	〈学習を通じた成長〉 学習したことを地域に発信することで自分たちの取組に誇りと自信を持ち、達成感を味わうことができた。 〈郷土への愛着〉 地域学習や劇、地震学の取組を通して、生徒一人一人が新庄地域住民と関わることで、地域をよく知り、新庄地域に暮らす一員として地域を愛し、守っていく自覚を持った。	〈子どもの主体性〉 教員がある程度内容を組み立てて行っているため、可能な範囲で子供たちが取組を考え、主体的に活動していけるようにする。 〈関わり継続〉 文化祭以降地域との関わりが減ってしまうため、連携を保持していけるような取組を工夫する。
*子供にとって	・各分野で多くの方々と交流することで、新庄地域の文化や特徴を理解し、発信につなげることができたと思われる。	・取り組んだテーマの選択肢が十分であったか、学習の深さは十分であったかなどについて検証が必要と思われる。
地域（公民館）	・生徒と地域住民の方々のふれあいの場ができた。 ・防災学習では、生徒だけでなく地域住民の方自身も防災意識の向上につながったと思われる。	・学校、地域の活動に対しての協力者を積極的に発掘していく。 ・幅広い年代の方々に学校、地域の活動に関心を持ってもらえるように広報活動を工夫する。
評価及び次年度に向けての取組の方向 3年間で系統立てた地域学習、防災劇、新庄地震学を継続して行った。 1年生の地域学習では、6グループに分かれて、地域の方と協力しながら学習を進めた。本年度の新しい取組である「新庄の祭り」「新庄探検隊」では昔からある伝統的な祭りや、豊かな自然を調査し、発表した。 2年生では、広川町の「稲むらの火の館」「津波防災教育センター」を訪れ、濱口梧陵の偉業と精神、教訓を学んだ。また語り部の方に話を聞きながら、実際に作られた広川堤防についても知識を深めることができた。それをもとに、濱口梧陵が生きた時代の広川町へ新庄中学校の生徒がタイムスリップするというアレンジを加えた防災劇を創り文化祭で発表し、稲むらの火の物語を地域に伝えた。 3年生の「新庄地震学」では8グループ9講座に分かれて活動した。音楽班や美術班などは小学校とも連携しながら取組を進めたり、自分たちの学習した内容を発表したりした。保健体育班の体育大会で取り入れた防災種目は、地域の方が一緒に参加し、担架を使ってリレーを行うなど、地域住民を巻き込んで新庄地震学をより一層発展させることができた。 各学年において、今までの取組を継承しながらそれをより工夫し、より向上させていく意識が全体に見られた。		
【次年度に向けて】 系統立てた取組にはなっているが、内容が重なってくる部分もあるため、活動の変化や充実で精度を上げていきたい。また、毎年関わってくださる地域の方も固定化してきているため、より多くの方に取組を周知し、地域とより一層連携しながら地域学習・防災劇・新庄地震学を盛り上げていきたい。またその中で、地域の方と共に地域を愛し、地域のために主体的に動くことができる生徒を育成していきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立衣笠中学校		公民館名 三栖公民館	
学社融合における学校・地域の様子 三栖地域では、学校が抱えている教育活動を円滑有意義に実施するための課題を積極的に保護者や地域の方々に伝えることで、課題を共有化している。そして、学校と地域が共に力を合わせ、子供の成長にとって何が必要不可欠であるかを明確に示し、共に子育てを行うという関係が確立されている。また、「地域について学ぶことで地域への愛着心や、様々な人たちと交流を図る中で、好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる心など豊かな人間性を身につけさせる。」という目標実現に向け、学校・地域・公民館との連携ができており、お互いに協力できる体制も確立されている。生徒にとって有効な活動を企画・運営することをお互いに心がけて、実践している。さらに取組が単発的ではなく、生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が継続的な内容になるように考えている。生徒たちは地域の方々と体験活動を通して、挨拶や礼儀、将来に必要なコミュニケーション能力、中学校では体験することのできない事柄を学び、生まれ育った地域を愛し、地域に貢献しようとする意識や社会性、市民性が育まれている。			
活動名 みんなが輝こう みんなで輝こう		学年・教科・領域等 全学年・総合学習・英語・社会・家庭等	
目 標	学校・園	・自然や地域の人々との触れ合いを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、様々な面から地域に貢献する態度を育成する。 ・地域を知り、たくさんの人やものとの出会いから、豊かな心を育て、生き方を学ばせる。	
	地域（公民館）	・中学生が、地域の一員として、地域の現状や課題を把握し、自分たちにできることを学ぶ。 ・様々な活動を通じ、中学校の取組について理解を深め、地域ぐるみで取り組んでいく体制を作っていく。	
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 三栖幼稚園 三栖小学校 長野小学校 会津小学校 伏菟野小学校 田辺市梅振興室 JA三栖等地域団体 企業 保護者 育友会 地域住民 三栖公民館 万呂公民館 長野公民館			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 梅体験学習(1年) 地域の梅農家の方々のご協力で、梅の収穫と選果体験を実施した。1年生の生徒たちは一生懸命に梅を収穫し、収穫した梅を各教室に持ち帰り、選別の仕方を指導してもらい、A級、B級、C級と梅を選別した。梅農家の方々のお家に、6人ずつの班で訪問し、梅の天日干し体験や、干した梅をひっくり返す「コロコロ」という道具を使って様々な体験をさせていただいた。また、地元のJA紀南の協力を得て、梅の選果場見学を実施した。 職場体験学習(2年) 事前にオフィスメイ株式会社の坂本昇子様より、ビジネスマナー講習会を実施し、地域の事業所の協力を得て、職場体験学習を実施した。2年生は、それぞれの事業所で一生懸命に体験活動を実施した。 福祉学習(3年) 田辺市社会福祉協議会の鹿毛氏をお招きし、福祉学習を実施した。 幼稚園と連携した月見団子作り(3年) 3年生の家庭科で、三栖幼稚園の園児と一緒に月見団子作りを実施した。3年生のリーダーシップのもと、園児たちはとても楽しく月見団子を作り、作った月見団子は、全員で美味しくいただいた。 幼稚園と合同避難訓練(3年) 南海・東南海地震発生を想定し、隣接する三栖幼稚園の園児を本校3年生が誘導し、中学校の3階へ避難する訓練を実施した。生徒も園児も真剣に取組、この訓練を生かし、災害時は落ち着いて行動できるようにした。			
抜き打ち避難訓練と防災講演会(全校) 三栖地域の特性を考え、大雨洪水による河川の氾濫を設定して、生徒には事前に知らせることなく、抜き打ちで避難訓練を実施した。抜き打ちで防災訓練をするのは初めてだが、生徒一人一人が真剣にそれぞれの場所から体育館へ避難し、その後、田辺市役所の防災まちづくり課の谷口様より、防災講演会をしていただいた。 平成29年度「未来へつながる防災学校」に参加(生徒会) 平成29年度「未来へつながる防災学校」が開催され、田辺西牟婁の各中学校のリーダーが集まり、防災について交流を深めた。地震のメカニズムや地震体験車などを体験しながら有意義な交流会となった。この体験を生かして、防災の意識を高めていきたい。 社会科でゲストティーチャーを招聘(1年生) 1年生の社会科で、三栗一二先生を招聘し、「なぜ今、武士道なのか」というテーマで社会的、道徳的見地から楽しく授業をして頂きました。			
<p style="text-align: center;"> 抜き打ち避難訓練と防災講演会 平成29年度「未来へつながる防災学校」 社会科でゲストティーチャーを招聘 </p>			
			

	成 果	課 題
学校・園	・地域や公民館と連携した様々な取組を実施することで、生徒一人一人に自分の生まれ育った郷土を愛する心が生まれ、自分たちがこの地域で生きているということをしっかりと学習させることができた。 ・地域の方々から、生徒同士や教師との関係とはまた違った方向からアドバイスや指針を受けることで、人間関係構築能力に必要なコミュニケーション力や、他者の気持ちを思いやる温かい心を育むことができた。	・地域の方々との様々な体験活動の内容を充実させていく。そうすることで、生徒の相手を思いやる心、地域への愛着心、規範意識を今後さらに高めていきたい。 ・公民館と連携し、今後とも積極的に地域、講師とのつながりを深め、生徒や学校に関心を持ち、自らの体験等を語っていただける人をさらに増やし、有意義な体験活動を計画していきたい。 ・時代や地域、生徒、保護者のニーズに応じた教育講演会・共育ミニ集会の実施など、様々なアプローチを試み、地域との関わりを増やしていきたい。
* 子供にとって	・体験活動を通し、多くの地域の大人との関わりを持ち、多様な価値観を知り、社会性を身につける素晴らしい機会となり、子供たちの成長に大きな成果となった。 ・体験活動を通して多くの方に頑張りを評価してもらうことで、自己肯定感を持ち、自尊感情が生まれ、地域に愛着を持つ心が生まれてきた。	・今後は、たとえば防災活動等において、主体を生徒側に持ってきて、地域にとって今自分たちは何ができるか等を発信したり、働きかけたりする活動をさらに進展させていく。 ・地域の一員としての自覚を持たせ、継続して地域に貢献できるような活動を計画する。
* 子供にとって	・職場体験などを通し、地域の産業や歴史、文化を知り、地域に愛着を持つことができた。 ・防災学習を通し、自分たちに何ができるのかを考えることで、地域の一員としての自覚を持つことができた。	・地域との交流の機会を増やすことで、より地域のこと知り、愛着を持ってもらいたい。また、積極的に地域行事にも参加し、その中で自分たちが主体的に活動していけるように促していきたい。
地域（公民館）	・職場体験などを通し、中学生がどのようなことを学び、考えているのかを知ることができた。 ・学習活動を通し、改めて地域を知り愛着を深める機会になった。また、地域の未来を担う人材である中学生を地域ぐるみで育てていくという意識の向上につながった。	・学校、家庭、地域、それぞれの取組について、情報を共有し理解を深め、様々な活動を通し、地域ぐるみで自覚のある子供たちの育成に努めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・本校では、1年生が地域の特産物である「梅」についての学習、2年生が「職場体験学習」、3年生は「福祉学習」といったように、各学年で中心となる活動が確立されていて、今後はこれらの活動の中身の見直しを行い、良いところと改善点を明確にして、良いところは継続し、改善するところは改善しながら取組を進めていく。 ・全校で防災への取組として、生徒には予告しないで抜き打ちの避難訓練を実施し、その後田辺市防災まちづくり課の方に講演をしていただき、いざという時のためにどのようなことが必要なのかを真剣に考えさせることができた。 ・3学期は隣接する三栖幼稚園に不審者が侵入したという設定で不審者対応訓練も予定している。 ・防災については来年度はかまどベンチの製作を新たに計画し、クロスロードゲーム、避難所運営体験等も継続して実施する予定である。 ・三栖小学校6年生を対象にした、中学校授業体験とクラブ見学を実施する予定である。この企画は毎年実施しているが、体験の中身については、小学校と「しっかりと打合わせを行い、実施教科や内容について改善点を見つけて取り組んでいきたい」と考える。 ・学校の実態を考慮し、生徒にとって必要な地域の有識者の方々の人材をいかに発掘していくかを公民館主事と連携しながら取り組んでいく。 ・今後も、これらの取組を発展、改善させるために、学社融合活動の重要性を全職員が感じ、地域や公民館と協議・検討しながら、様々な取組をすること、月1回の学社融合会議(公民館、幼稚園、小学校、中学校)の充実を図り、協力体制のもとで様々な行事を企画、運営していく。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立上秋津中学校		公民館名 上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子 上秋津中学校区は「地域学習」、「職場体験」、「農事体験学習」、「文化祭への公民館芸術サークルの作品展示」、「郷土料理(高菜巻き)調理実習」、「保育実習」、「通学路の草刈りと夜間巡視」など教育活動に協力的な地域である。1994年に上秋津地域が一体となって立ち上げた「秋津野塾」も来年はいよいよ節目の25年目を迎えるが、地域の結束は年々高まっている。地域行事の「春の高尾山登山」には、生徒会が本部受付をし、全校生徒が参加し、「夏祭り」は会場設営から始まって、生徒が大勢参加するなどの賑わいを見せている。秋には、「ふれあい音楽祭」に全校をあげて参加し、公民館・幼稚園・小学校・中学校が一つとなつての取組ができています。		
活動名 A農事体験学習 B幼稚園・中学校かまどベンチ交流		学年・教科・領域等 全校・総合学習の時間
目 標	学校・園	学校と地域が一つになって教育活動に取り組み、郷土に誇りを持ち、自立した次世代の育成を目指している。
	地域(公民館)	地域住民の関心を学校に向けていき、お互いに支えあえる関係を構築していく。
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 秋津野塾 上秋津校区協議会 上秋津公民館 上秋津町内会 上秋津中学校PTA		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) A農事体験学習(11/1(水)) ねらい 農業を地域の基盤となる産業の一つととらえ理解し、農作業を実際に体験することで働くことの厳しさや喜びを知り、働くことについて考える。また、この学習は、得られたことから家族や地域の結びつきの重要性を考えさせるとともに、2年職場体験学習などの進路学習や他の学習につないでいく取組である。 活動内容 ミカンの袋かけ・収穫・梅の剪定枝拾い		
		
B幼稚園・中学校かまどベンチ交流 ねらい及び活動内容 幼稚園で収穫したサツマイモを、園児たちと一緒に中学校の防災かまどベンチで蒸しパンに調理する。このように、災害に備えてかまどベンチの運用訓練をすることで、生徒たちの災害に対する意識や自己の有用感を高める。		
		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 農事体験学習では、農業を地域の基盤となる産業、生活を支える身近な職業の一つであるととらえ、農作業を実際に体験させることができている。働くことの大切さや喜びを知り、働くことについて考える機会を与え、自己の適性を見つめ直し、学ぶ意欲を向上させることができている。 幼稚園・中学校かまどベンチ交流では、いつかは来ると言われる次の災害に向けての訓練ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産業を体験することで、自己の適性を見つめ直し、将来の自分を考えさせることで、より確かな進路選択ができる力を養うことである。 生徒や、地域住民の誰もが、かまどベンチを活用できるようにしていくことである。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 農事体験では上秋津の主産業である農業から働くことの尊さを学ぶことができる。また、地域に積極的に教育活動を支えてくれる方々がいることから、生徒は地域の温もりを感じている。 かまどベンチ交流では、共に活動することで、地域の教育活動の基盤づくりが進められていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 高い倫理観と深い郷土愛を兼ね備え、地域の産業を活発にし地域経済の担い手となる、地域に貢献できる社会人の育成である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地場産業である農業を知る事で、郷土愛を育むことができた。 かまどベンチの交流事業では、園児と生徒が双方で支えあう関係を構築できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と触れ合う体験を通して、これからの地域を担う人材に育ってほしい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> 上秋津の農業を体験することで、苦労ややりがいを知ってもらうことができた。 かまどベンチを利用した行事によって、身近に防災について学べる機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題として、農業をしている保護者も年々減少している中で、毎年農業体験学習に協力してくれる農家を探すのに苦慮している。 かまどベンチを利用した行事を積極的に開催して、地域住民に知ってもらいたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 【継続したい取組】 ★幼中交流 ①保育実習 ②かまどベンチ交流 ★小中交流 ③授業交流 (1学期:小学校の先生方が中学校へ、3学期:小学生が中学校授業体験・クラブ見学) ★秋津野塾(公民館、町内会、愛郷会)との交流 ④秋津野塾への参加 ⑤校区協議会への参加 ⑥上秋津公民館…春祭り高尾山登山、夏祭りへの協力 ⑦上秋津校区防災訓練 ⑧職場体験…2年生(5月) ⑨農事体験学習…1年生(10月事前学習～11月実施) ⑩中学校文化祭 ⑪ふれあい音楽祭…11月に幼小中・地域が一体となって音楽祭を開催 ⑫郷土料理(高菜巻き)の調理実習…2年生・3年生(2月)		
【評価】 ★公民館・幼稚園・小学校・中学校で、共通の目標である「未来につなぐ ふるさと上秋津」のもと、「故郷を誇りに思い、学力の向上を目指し、人を大切にする次世代の育成」に一体となって取り組み、素晴らしい郷土づくりに貢献している。		

学社融合活動実践報告

学校名		公民館名	
田辺市立秋津川中学校		秋津川公民館	
学社融合における学校・地域の様子			
<p>秋津川中学校は、秋津川小学校と同じ敷地内に隣接し廊下でつながり、運動場や体育館、プール等を共用しながら学校生活を送っている。児童・生徒間、教職員間でも交流が行われ、小中連携が進んでいる。ほとんどの生徒は、保育所から小、中学校と一緒に生活しているため、生徒同士の人間関係もよい。また、保護者も長い年月と一緒に活動しているため連帯意識が強く、地域の人々も子供たちを見守り育てていこうとする意識が強い。</p> <p>学社融合の取組から、子供たちが地域の方々と触れ合うことで、視野を自分のみから地域へと広げて考えられるようになるとともに、組体操や南中ソーランの取組を見ていただき、地域の高まりに貢献するとともに、地域の方々も学校行事や子供たちとの活動を仲介として、さらに交流が活発に行われていけるようにしたい。また、コミュニティーとしてのまとまりが保持され、各種お祭り行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。</p>			
活動名		学年・教科・領域等	
町民運動会		全学年・体育・総合	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした教育を推進することにより、学校、家庭、地域がお互いに連携した教育体制を確立し、学校の教育効果を高めるとともに、生徒の意欲向上と健全育成を図り、開かれた学校づくりを進める。 ・地域の人たちとのふれあいを深め、地域を知るとともに地域の良さを発見し、地域を愛し、地域を誇りに思い、大切に作る心を育てる。 ・組体操・南中ソーランを小中全員で行うことで、生徒各々が責任を自覚し、発表力を高める。 	
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と子供たちが交流を深めることで、郷土愛を育み、地域としての連帯感を高める。 ・地域住民、各種団体、学校が協力して一つの行事に取り組み、来場の方々に秋津川の教育活動の一端を知っていただくことで地域の活性化を図る。 ・地域住民に学校の取組に目を向けてもらい、子供たちの健全育成に関心を持っていただく。 	
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織			
秋津川公民館、秋津川町内会、秋津川保育所、秋津川小学校、秋津川中学校			
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等）			
<p>○ 8月29日（火） 第3回 公民館協力委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民運動会プログラム確認 ・大会役員・種目・準備物確認 <p>○ 9月24日（日） 平成29年度 秋津川町民運動会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加種目 小中合同 （3色リレー、組体操、南中ソーラン） ・中学生種目 （レク種目） ・地区対抗種目 （綱引き、地区対抗リレー） ・一般種目 （スプーン競争、パン食い競争、タイフーン、障害物競走） ・お化粧上手、タルころがし） ・当日朝、地域の方々々と準備を行うが、手際よく、短時間で準備が完了する。 ・開会式・閉会式は小学校教頭の進行で、生徒挨拶・体操等生徒の活動の場が多かった。（内容） 保育園児や小中学生の競技で盛り上がり、地区対抗種目が4種目と盛りだくさんの中味で盛大に開催された。地域からも大変多くの方々が集まっていただき、楽しい笑い声いっぱい運動会と暖かい雰囲気の中で行われた。 ・片付けも、地域の方々とおこない、短時間で修了し、地域が一つとなった行事であった。 <p>○ 10月30日（月） 第4回協力委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会について（感想・反省） ・準備片付け、運営等、地域の皆さんが手際よく動いてくれスムーズな進行であった。 ・ダンスや組体操、南中ソーランがとても良かった。 ・最後の種目で、全員で踊る秋津川音頭はとてもいいと思う。 ・中学生が景品渡しなどで、良く動いてくれた。 			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの方々に「町民運動会」に来ていただき、秋津川小・中学校を身近に感じ、児童生徒の様子を知ってもらうよい機会となった。さらに、組体操や南中ソーランを披露することで、地域の方々にも喜んでいただき、秋津川中学校の地域に根ざした教育活動の一端を知ってもらうよい機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は卒業生等、見学席でのマナーの悪さを地域から注意された。今年度は見学席への卒業生等の立ち入りを禁止するなど、見学席の在り方にも取り組んだ。公民館や役員さんに関わっていただいたお陰もあり、トラブルもなくスムーズにいけた。次年度も引き続き継続して取り組んでいきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学校生活は少人数で過ごしているため、大勢の人を前に発表するという、貴重な体験を積む機会であった。 ・地域の催しへ参加することで、地域の一員としての連帯感や自覚を促すきっかけとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が少ないということもあって、地域からは大切にされ過ぎるところがあり、自立心の芽生えが遅れがちになりやすい。それぞれに役割分担をし、責任感を高めるようにしたい。 ・地域に対して、自分たちは何ができ、何をすべきかを考える主体的な態度を育てたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・組体操や南中ソーランなどの披露を通して、自分たちの取組や地域行事に関わっている姿を多くの来場者に見ていただくことができた。 ・地域の皆さんが、一生懸命、この行事に取り組んでいる姿を通して、ふるさと秋津川の良さを再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・係や運営の仕事を積極的に取り組ませ、生徒の関わりも明確化される中で、組織の一員としての自覚をさらに育てたい。 ・これからも地域の行事や活動に積極的に関わって、多くの方々と交流し、人間性や社会性を高めていただきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が協力してこの行事を開催することで、地域の活性化にもつながっている。 ・少人数ながらも、子供たちがひたむきに行事に参加・協力してくれていることで、地域住民も元気と活力をもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢、過疎の進む地域にとって、このような交流行事が益々重要になってくると思われる。今後も継続して開催していけるよう、学校ほか各種団体とも連携しながら取り組んでいきたい。 ・時間的な制約があるが、行事をさらに盛り上げ、マンネリ化を避けるために、子供たちの声を取り入れたり、世代間で交流ができるような新たなイベント内容も検討してみたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<p>・町民運動会には地域の多くの方々に来ていただき、大いに盛り上がり、児童生徒も有意義な一日となった。また、小中合同の組体操や南中ソーランでは、多くの皆さんから温かい拍手をいただき、お褒めの言葉もいただいた。</p> <p>このことは、生徒たちにとって自分を肯定的に見る材料となり、自信につながったものと思われる。子供たちも、一生懸命頑張り、感想の中にもとても良かったという意見が多かった。</p> <p>今後もさらに磨きをかけて、町民運動会の楽しみな種目となるよう、取組を充実させていきたい。</p> <p>・このような地域の行事は、大勢の人前で発表できる数少ない機会であり、普段、少人数の間だけでしか生活していない生徒たちにとっては、たいへん貴重な体験の場となった。今後も小規模校の本校においては、大勢の場で発表する機会は大切にする必要がある。</p> <p>・生徒たちは、この町民運動会は公民館を中心に地域の方々に運営等していただけるため、与えられた受身の参加意識しか持っていないように思われる。今後は、企画のマンネリ化を避ける意味からも、生徒たちから主体的にこの運動会を盛り上げようとする機会が設けられないものかと思う。それを考えさせることは、生徒たちに秋津川地域の将来を考えさせることにつながり、郷土を思う気持ちをより一層強くすることにつながるように思う。</p>		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立上芳養中学校		公民館名 上芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は田辺市の中心地より約10km離れたところに位置し、芳養川の上流を校区とする山間地の学校である。周囲は緑に包まれ、梅・みかん等の果樹栽培を主とした農村地帯である。上芳養地域は、小学校1校と中学校1校であり、また、地域の多くの方が本校の卒業生である状況などから、地域の学校教育に対する関心が高く、協力的で育友会活動や公民館活動への参加は大変積極的である。体育大会やマラソン大会など地域で行われる行事には、たくさんの保護者や地域、敬老会の方々、卒業生等が参加して、たいへんな盛り上がりを見せている。 地域の中に、学校を地域で支える、子供を地域で育てるという意識が根付いている。		
活動名 「ころころ山」さん読み聞かせ		学年・教科・領域等 全学年・総合的な学習の時間
目 標	学校・園	地域の読み聞かせサークルである「ころころ山」の方々に、ゲストティーチャーとして毎月集会に来ていただくことにより、本に親しみをもち、読書することを通じて、思考力・表現力を育成する。
	地域（公民館）	地域の大人と子供との交流の機会を多く設け、地域の子供は地域で育てる気運を高め、地域全体の活性化につなげる。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 読み聞かせサークル「ころころ山」		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) この活動は平成21年度から継続している。年度当初に、「ころころ山」サークルさんと、取組の継続と日程の調整を確認。毎月1回の本の読み聞かせとブックトーク、「ころころ山文庫」を設置して、ブックトークで紹介した本の貸し出し等の活動を行っている。		
各教室での読み聞かせの様子   ころころ山文庫  		

	成 果	課 題
学校・園	・近年、中学生の読書不足が課題となっている中で、読み聞かせやブックトークをしてもらうことによって、生徒が本に触れる機会をつくる事ができた。また、読み聞かせを通して、地域の方々との交流することができた。	・ブックトークで紹介していただいた本を、「ころころ山文庫」として設置している。今後、さらに連携を進め、生徒の読書への関心を高めていきたい。
*子供にとって	・地域の方に本の読み聞かせやブックトークをしていただくことにより、本に触れる機会ができた。 ・読書に対する関心が高まった。	・ブックトークなどで紹介していただいた本を、積極的に読んでいくこと。
*子供にとって	・地域の方と触れあうことで、社会性を身につける機会となっている。 ・日常生活においても、地域の方々に見守られているという安心感が生まれる。	・地域との関わりを深め、主体的に交流を深められるよう進めていきたい。
地域（公民館）	・地域の子供と触れあうことで、地域の子供は地域で育てるという機運が高まる。 ・日常的に接する機会の少ない子供たちから、新鮮な発見や快活さを与えられている。	・今後も地域と学校との連携を深め、お互いが無理なく続けられるような取組を進めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 (評価) ・生徒たちにとって、本に触れる機会をつくる事ができた。この活動に継続的に取り組んでいくことにより、生徒の本に親しむ態度を育てていきたい。そしていろいろな本を読むことにより、思考力・表現力を養うことができると考えている。 ・「ころころ山」サークルさんのおかげで、より幅の広い種類の本が学校図書室に設置された。生徒も自分の目的に応じた本を選んでいるようである。 (次年度に向けての取組み) ・これまで通り、小学校・中学校・公民館・地域サークルと連携した取組を継続していきたい。 ・地域の連携をさらに深め、生徒たちにとって、地域にとって有意義な活動を模索し取り組んでいきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立中芳養中学校		公民館名 中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 平成26年度から3年間、「中芳養地域共育コミュニティ本部事業」の研究指定を受け、「地域と共にある学校 学校でつながる地域の”わ”」をテーマに、「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱として取組を進めてきた。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切に取組を公民館と連携して進めている。 本校では、地域の農家の協力を得た「梅勤労体験」、社会福祉協議会と連携した「福祉体験学習」、地域との交流を目的とした「中芳養夏祭り」「中芳養祭」、地域の人材を活用した「和の心の授業」など、地域との交流を通して、「豊かな心」「生きる力」の育成を目指した取組を進めている。		
活動名 地域と共にある学校 学校でつながる地域の”わ”		学年・教科・領域等 全学年・総合的な学習の時間
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々や幅広い世代の方との交流によって、豊かな心を育て、コミュニケーション能力を高める。 ・幼・小・中・公民館・家庭が一体となって、子供を育てる体制を整え、子供たちの健全育成と地域の交流の活性化を図る。 ・地域とつながり地域の教材を使うことにより故郷を愛する心を育てる。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちに対する理解を深め、地域で見守り、育てるという意識を高める。 ・様々な事業を通じて交流を深めることにより、お互いが顔見知りであるという関係を作る。 ・地域の伝統や文化を子供たちに伝えるとともに、地域住民自身も地域に対する愛着をもち、理解を深める。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 中芳養公民館 中芳養幼稚園 中芳養小学校 JA紀南中芳養支所 中芳養地区老人会「芳寿会」		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)		
梅・勤労体験 6月～8月	中芳養幼稚園の園児を招いて「校内梅採り体験」を実施。その後、JA中芳養支所の協力を得て事前学習を実施し、体験学習当日は、4つの班に分かれて梅農家で1日体験を行った。夏休みには、事後学習として「JA梅加工場見学」を実施した。	
2年生との交流 Human-chain 8月23日(水)	「元日に子か」をテーマに、2年生が夏休みに父帰省をもつに、ソイゲームで交流を深めた後、戦争や災害の苦難を乗り越えてきた体験談、仕事や生活の中で身につけた人生訓、伝えていきたい文化や伝統等について話をし、生徒たちの質問にも答えて頂いた。	
グランドゴルフ大会 10月9日(月)	・教員と生徒が混合チームを作り、公民館主催の中芳養地域グランドゴルフ大会に出場した。	
中芳養地区敬老会 9月10日(日)	・3年生有志10名が夏休みから練習をし、中芳養地域敬老会に参加。歌とダンスを披露した。	
和の心の授業 10月～11月	日本の伝統文化に親しむことを目的とした「和の心の授業」を実施、近隣の方に外部講師を依頼し、1年生は「書道」、2年生は「華道」、3年生は「茶道」をテーマにして取り組み、作品を中芳養祭と合同作品展に出品した。	
中芳養祭 11月12日(日)	・学習発表、作品展示、オペラコンサート、交流タイム等を通して地域の幅広い年齢層の方々と交流を深めた。	
中芳養合同作品展 12月9日(土) 12月10日(日)	・中芳養合同作品展で陶芸作品やモザイクアートの作品を展示し、地域の方々と作品を通して相互理解を深めた。	

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・「中芳養地域共育コミュニティ本部事業」の研究成果を生かす取組を継続できた。 ・敬老会やグランドゴルフ大会に参加し、地域の人たちとの交流を深められた。 ・PTAの活動が活発になり、学校行事への参加者も増えた。 ・幼・小・中・公民館の連携で学社融合の取組の幅が広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を学校に取り入れるために様々な場面での活用を考える。 ・学校行事の精選を行い、より効率的な取組を作り上げていきたい。 ・今後も幼・小・中・公民館の連携を深め子供を育てる一貫した取組に発展させていきたい。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの講師を招聘でき、授業を通したふれあいの中でコミュニケーション能力を高めることができた。 ・挨拶の声を大きくしようと考えるようになり、生徒会の取組も進み、定着してきている。このことにより発表力も高まってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が行う地域との交流行事を通して、日々の生活の中で挨拶や地域行事への参加ができるようにしていきたい。 ・地域の良さを知ることで愛着を育み、地域の将来について考えられるようにしていきたい。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加することで、生まれ育った地域に対する愛着が強くなった。 ・地域の方々との交流により、地域を知るとともに、地域の一員としての自覚を持つことにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に積極的に参加していこうという気持ちをさらに育てていきたい。 ・地域について学んだことを周りの方々と共有しながら、地域に対する理解をより深めてほしい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々や学校に足を踏み入れることで、学校や子供たちの様子を知ることができた。 ・作品展を通じて、中学生との関わりがなかった地域の方々も、中学生の取組を知ることができた。 ・地域の方々には、中学生の元気な姿を見ることで、活力を感じることもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もさらに幅広い年代の地域の方々や、子供たちと関わることをできるように取り組んでいきたい。 ・実施している行事が今後も継続して行うことができるように、各種団体が協力しながら、取り組んでいきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、学校への協力という形に終わらず、地域の行事にも積極的に参加し、「地域に学び、地域に返す」という、学校と地域との双方向性をもった取組とすることができた。 ・芳寿会との陶芸を通じた交流は、日程が合わず本年度は実施出来なかったが、夏休みの交流は実施出来た。また、PTAの陶芸教室も参加者が過去最多となり、保護者同士の交流が活発になってきている。また、学校行事への参加数も増えてきている。 ・本年度、学校の公式ブログを開設し、行事予定や行事の様子を積極的に公開してきた。このことで学校行事への参加者が増えたと考えられる。まだまだ技術的な問題も抱えているが、続けていきたい。 ・地域の教育力を学校に取り入れるために各教科で活用できる単元や実習等を洗い出し、具体的な取組につなげていけるようにしたい。 ・学校行事等の精選を進め、今後も持続可能で効率的な取組にしていく必要がある。幼・小・中・公民館の連携を今後も大切にし、相互理解を深め、中芳養地域コミュニティスクールへ発展させていきたい。 		



学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立龍神中学校		公民館名 龍神公民館
学社融合における学校・地域の様子 地域の人と接することで、地域を知り、地域に学ぶという「龍人学」を基本として、「自然・環境」「歴史・文化」「産業」「福祉」の4つの分野において、それぞれの発達段階に応じて特色ある実践活動を展開している。具体的な取組は ①「学校だより(翔龍)」の校区全戸(約1700戸)への配布 ②体育大会、文化発表会等の学校行事への参加の推進 ③ボランティア活動の推進 ④地域行事への中学生の積極的な参加 ⑤職業体験活動の実施 ⑥外部講師(ゲストティーチャー)の活用等を行っている。		
活動名 地域ボランティア		学年・教科・領域等 全学年、各学年・総合・特活・学校行事
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の中で、子供たちの豊かな人間性、社会性を養う。 ・活動を通して地域の方々との交流を図り、地域の文化や、地域を愛する心情を養う。さらに、地域の教育力を生かした様々な活動に発展させていく。 ・ボランティア活動やリサイクル活動を通して、地域の環境美化・保全の意識を高める。
	地域公民館(公)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を担う人材を育成する。 ・地域の人材からふるさとを学ぶ機会を提供する。 ・生徒との交流を通して、地域団体の活性化を図り、生きがいを見出す。
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 龍神地域各地区 龍神公民館 龍神中学校PTA 学校評議員 社会福祉協議会 等		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 経緯 昨年度まで「虎ヶ峰清掃」というボランティア活動を行っていたが事情により本年度は違う活動をする事となった。そこで、全校生徒が参加できて、村内全体にかかわれることで活動できないかを考えた結果、現在避難所として利用されている3つの小学校を清掃することにした。地域の方々や区長様方等にご協力いただき、甲斐ノ川小学校、殿原小学校、大熊小学校を清掃することに決定した。		
日時 平成29年12月21日(木)		
内容 自宅から行ける生徒は自宅から直接担当小学校に行き、その他の生徒はスクールバスを使って(スクールバスで学校から小学校へ)それぞれ配置した。事前に各小学校ではどのような清掃が必要か、必要な道具はあるのか、どんな道具をもっていくべきか等を計画した。朝の8時から11頃まで各小学校で約25名程度の生徒と教員が実に一斉懸命清掃を行った。終わってからはスクールバスや教員の自動車等を利用して学校に集合した。 この活動を地域の方々はとても喜んでくれた。		
成果 生徒たちは自分の地域の小学校の姿を見て、龍神村の小中学校の統合の歴史を感じた。またそこをきれいにすることで現在も避難所として利用されていることから、地域の一員としての自覚も持った。何より、清掃中に地域の方々がとても感謝して下さったことが生徒たちに達成感と充実感を抱かせた。		



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方に学校の様子や活動をより多く知ってもらうことができ、地域の学校としての意識をより高めることができた。 ・活動に対して大勢の方に協力していただくことができ、学校と地域の関係を密にすることができた。 ・講師(ゲストティーチャー)招聘により幅広い分野の学習をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取組を進めるために) ・地域の方々の協力により、自分たちの教育活動が成り立っていることを生徒に自覚させるとともに、地域の方々への感謝の気持ちを育成する。 ・出来るだけたくさんの体験活動を取り入れたいが活動時間、予算の関係で取捨選択しなければならないこともある。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大勢の方々の協力により、さまざまな活動ができ、より大きな達成感を味わうことができた。 ・環境美化・保全への意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に感謝する心や、これらの取組が貴重な体験であるということを感じてもらいたい。 ・地域の行事や活動に積極的に関わって、より多くの方と交流し社会性を高める。 ・地域の一員であることを自覚し、地域の方への挨拶や交通ルールやマナーを守る態度を向上させる。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある組織や団体がゲストティーチャーとして学校に入ることにより、地域で活躍している方から直接話を聞くことにより子供たちにとっても意義深い学習になっている。 ・地域の方と活動を通して交流を深められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学社融合活動で学んだことや経験を地域や今後の人生の中で生かしていけるよう大切にしてほしい。 ・地域で活躍できる生徒の育成。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が学校に出向くことにより、学校活動に対する関心が高まり、保護者以外の地域の皆さんにも「地域の学校」として、学校活動に協力いただいている。「学校だより」を手渡しで配布することにより、校区の住民がより中学校の取組に関心を持つようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合活動をスムーズに行うために、地域と学校をつなぐ人材の育成。 ・より幅広い地域との交流を図り、生徒、住民相互に学習できる場の提供。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより校区(約1700戸)への配布を、年間を通じて行うことができ、学校での活動を地域に発信することができた。 ・体育祭や文化発表会に、保護者だけではなく大勢の地域の方々に参加していただくことができた。 ・村民文化祭の午前中に本校の文化発表会を開催し、多くの方々に鑑賞していただくことが出来た。 ・村民文化祭の舞台発表や美術作品の出品において、大勢の地域の方に鑑賞していただくことができた。 ・祭礼の和太鼓や笛の演奏などに、積極的に参加することができ、決まりを守ることや安全確保もできた。 ・リサイクル活動には、保護者や地域の方々の協力で、たくさんの古紙、古着などの回収をしていただくことができ、その収益が様々な体験活動の原資になっている。 ・虎ヶ峰清掃作業の活動に替わる「地域ボランティア」として廃校の清掃作業を通して、地域の財産をきれいにし、地域に貢献できた達成感を学ぶことができた。 ・外部講師(ゲストティーチャー)の招聘により、幅広い分野の体験や学習をすることができた。また、毎年行っている活動でも外部講師が交替するなど、交流が広がっている。 ・米作り体験事業では、田んぼアート作業にも関わるとともに、農作業の体験を通して、働くことの意義を理解することができた。 取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・学校、公民館、各関係団体による組織作りを行う。この方向は益々広がりを見せている。 ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取組。時間の確保、場所、人材の確保等) ・環境美化・保全活動に対する住民意識を高めていくために、広報活動の工夫をする。 ・年3回のリサイクル活動の継続。(普段から古紙、古着をためておいてもらえるような活動としていく。)又それらをうまく広報活動して啓発する。 ・環境教育を充実させ、自分たちの住む地域に対する愛着を高めるとともに、主体的に活動を進めていけるようにする。 		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立中辺路中学校		公民館名 中辺路公民館
学社融合における学校・地域の様子		
<p>自然豊かな環境の中で、少人数ではあるが生徒たちは保護者や地域の方々に大切に温かく見守られながら学校生活を送っている。学校では、地域との交流を深める様々な取組を行っており、それらを継続的に行うことで年々活動に協力して下さる地域の方々が増えている。地域全体が「地域の子供を育てる」という意識を持っており、地域の方が取組を提案して下さることもある。女性会や老人会といった地域の中にある組織の方々との交流も積極的に行っている。</p>		
活動名 学校教育全体にわたって地域との連携をはかり、開かれた学校として、ともに地域の未来を担う生徒を育成すること。		学年・教科・領域等 全学年・総合・特活・学校行事
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ○自然や地域の人とのふれあいを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていかうとする生徒を育成する。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちが地域への理解を深める。 ○学校と地域の連携を密にして子供たちの健全育成を図る。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織		
田辺市女性会連絡協議会中辺路支部 清姫音頭保存会 花ボランティア（10名） 熊野の森ネットワークいちいがしの会 等		
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等）		
<p>●地域から受け継ぐ●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全校生徒が清姫音頭を教わる」…9/11 「清姫音頭保存会」の方々に来ていただき、全校生徒に踊りを教えていただいた。それを校内の体育祭で保護者や地域の方々にも参加していただき披露した。 ・「3年女性会との交流で調理実習」…10/19 地域の食材を使って調理法などを田辺市女性会連絡協議会中辺路支部の方々に教えていただいた。 <p>●地域に学ぶ●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1・2年が花ボランティアから教わる」…年6回程度 今年度は10名の地域の方々が、花ボランティアに登録して下さり、一緒に種まきやポットへの植え替えをしていただいた。 <p>●地域にかえす●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全校生徒が校内で育てた花の苗を配布」 生徒会活動の一つとして町内の事業所や地域の方々に苗を植えたポットを配り育ててもらっている。 ・「全校生徒が森林ボランティア」 「熊野の森ネットワーク・いちいがしの会」の協力によってどんぐりの実から苗を育て、2年後に山に植樹する。 ・「苗の水やり」* 10/27…どんぐりの実拾い * 12/8 …苗の牛乳パックへの植えかえ * 12/9 …植樹 <p>●地域との交流●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育てサークルとふれあい体験」1年… 6/15 3年… 7/6 中辺路保健センターにて地域の子育てサークルとふれあい体験を行った。 ・「1年グランドゴルフ」… 12/8 地域の老人会の方々と本校グランドにてグランドゴルフを行った。 <p>●地域のために●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サマーボランティアへの参加」…夏休み中 夏休み中、地域の施設にご協力いただき、ほぼ全員の生徒が自主的に参加した。 		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を深めることによって、学校と地域のつながりが深まっている。 ・様々な取組を通して、学校と地域とのつながりを深めていくことにより、地域の方々の学校教育や生徒に対するの関心や理解が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組をするので時間の確保が大変である。計画的に時間を確保していく必要がある。 ・今後も継続させることによって、地域の方々と学校との協力関係を深めていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わりによって、社会性やコミュニケーション能力の向上につながっている。 ・地域の伝統をはじめ、様々なことを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの活動においても生徒が主体的に取り組み、活動時だけでなく地域に対する思いを実行する手立てをしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が行っている花作り・花配布の地道な活動が子供たちの自信になり、中辺路地域の住民の誇りや自慢につながっていることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花ボランティア活動以外にも女性会や老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の生徒が花ボランティア活動で育てた花の苗配りは、地域の住民に大好評であり、こうした地域と中学生の交流が地域の環境美化意識を高めることにもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館として学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ったり、積極的に参加してもらえるよう能動的にサポートしていきたい。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化や伝統を知ることによって地域の方々にも認められ、自尊感情が育まれている。 ・「花ボランティア」は毎年、継続的に行うことにより年々協力して下さる方が増えてきた。生徒と同じ作業を行っていただき、生徒と地域の方々の交流を深めることができた。 ・生徒たちは花の苗を配ることで直接地域の方々の声を聞くことが出来て、達成感や地域に貢献している自覚を感じている。 ・子育てサークルやグランドゴルフは生徒とは他世代の方々とも交流する良い機会となり、コミュニケーションの向上につながっている。 ・今年度のサマーボランティアは、全校生徒がほぼ参加した。地域のために役立とうとする主体的な姿勢が育まれた。 ・どの取組も毎年継続的に行うことでより深められていくと考える。取組が多い中、しっかりと計画的に行っていく必要がある。 		
		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立近野中学校		公民館名 中辺路公民館近野分館
学社融合における学校・地域の様子 ・伝統的に学校と地域の連携が密である。 ・学校と地域が一体となって取り組む行事として、「近野区民体育祭」(9月)、「近野まるかじり体験」(11月)「近野フェスティバル・文化祭」(11月)、「近野山間マラソン」(3月)などがある。中学校も実行委員会に入り一翼を担っており、生徒・職員ともに主体的に参加している。 ・総合的な学習の時間に年間を通しての米作りは、多くの地域の方々の協力のもと行っている。また、収穫したうるち米や餅米は、餅つきなど、地域の各イベントの時に活用している。		
活動名 米作りと地域イベント「近野まるかじり体験」への参加		学年・教科・領域等 全学年・総合的な学習の時間
目 標	学校・園	・地域での活動を通して地域を知る。 ・共同作業をすることにより、助け合いや協調性を養うとともに、地域の方々に対する尊敬の気持ちを育てる。 ・地域の方々への感謝のしるしとして地域のイベントに参加し、達成感を味わうとともに郷土愛を培う。
	地域（公民館）	・生徒と地域住民との交流を深めることにより、生徒が地域への理解を深める。 ・学校と地域の連携を密にして生徒の健全育成を図る。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 久乗氏 前氏 久保氏 岡上氏 尾中氏 多禰氏 三栖氏 古久保氏 まるかじり体験実行委員会 JA女性会 近野振興会 公民館近野分館 等		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 4月24日(月) 九乗さんの自宅で地域の方の指導のもと、1・2年生が箱苗作り・糶まきを体験した。 5月 1日(月) 1年生で苗の水やりを行う。 5月 2日(月) 全校で、紹介して頂いた畑で、草餅用のよもぎを摘む。 5月12日(金) 1年生で苗の水やりを行う。 5月26日(金) 地域の方の指導のもと、全校でもち米とうるち米の田植えを体験した。 7月 5日(水) 奥ジャパンの協力で、アメリカンファミリーとの交流を行った。 10月10日(火) 地域の方の指導のもと、全校で稲刈り体験を行った。 11月 3日(金) 「近野まるかじり体験」に全校で参加。高田民宿さんに場所をお借りし地域の方々の指導のもと、草餅をつき、販売をした。 11月19日(日) 「近野フェスティバル・文化祭」において、総合的な学習の取組や音楽、ダンスの発表と各教科の作品展示を行う。 12月20日(水) 「近野クリーン作戦」と称して、日頃お世話になっている地域に感謝の気持ちで清掃活動を行った。		
 <p>(もみまき)</p>  <p>(田植え)</p>		

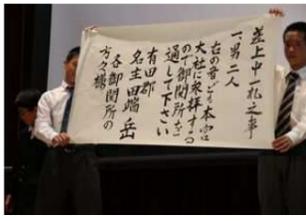
	成 果	課 題
学校・園	・米作りを箱苗から取り組み、収穫までを行い勤労の尊さを学ばせることができた。 ・収穫祭として餅つきを行い、日本の食文化の学習をさせることができた。 ・地域の方との交流が深まり、感謝の気持ちや先人を敬う気持ちが育った。 ・多くの共同作業を取り組む中で、協調性や思いやりの気持ちが育った。 ・集団としてのまとまりが育ち、学校行事等でもその力が発揮された。	・総合的な学習の時間が少なくなるなかで、米作りの時間を確保するのが難しくなっている。 ・天候に左右されることが多く、予定通りに実施できないことがある。 ・獣害対策が大変である。 ・生徒数・職員数が少ないなか、今のままでの実施は難しくなってくる。 ・行事の精選や中身の検討が必要になっている。
* 子供にとつて	・米作りを一通り体験することができた。 ・地域の方々を人生の先輩として敬うようになり、あいさつ等にあらわれてきた。 ・地域のイベントや学校行事に主体的に参加できる生徒が増えてきた。 ・国際交流を通して国際性を身に着ける契機になった。	・生徒同士の中で、先輩から後輩へと取組が伝授できていけるようなくみにしたい。 ・他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりを持ってできるようにしたい。
* 子供にとつて	・地域が抱える様々な課題に気づくとともに、地域の活性化のために自分たちも参加していくことで多くのことを学ぶことができた。	・地域の伝統に学び、地域の活動に今後とも継続して関わって行ってほしい。
地域（公民館）	・地域住民の皆さんの協力により、校区内の休耕田を借用して、米作り体験を行った。「区民体育祭」、「近野まるかじり体験」、「近野フェスティバル・文化祭」などに、地域一体となって取り組んでいる。こうした取組により、地域の方々との交流が深めることができていく。	・生徒数が少なくなってきた中、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子供を育てる学習を進めていくことが重要となっている。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・米作りを箱苗作り・もみまき・代掻き・田植え・雑草取り・稲刈り・脱穀までの農作業を体験し、日本の米作りの一連の作業を体験する事ができた。餅つき体験をすることで、生産活動の大切さを学び、収穫の喜びを味わうことができた。 ・地域の方々の協力なくして米作り体験はできない。今後とも地域の中で育つ近野中生として位置づけ、地域から多くのことを学び、また地域に感謝の気持ちを伝える活動を目指したい。 ・昔ながらの杵と臼で餅つき体験をし、日本の食文化の継承がはかれた。また、「近野まるかじり体験」での餅の販売や「近野フェスティバル・文化祭」の育友会主催のパパママランチの食材として米を提供できたことは、地域への恩返しとなり良かった。これも取組の成果であるといえる。来年度もできる範囲で、これらの取組を継続する方向で計画していきたい。		
 <p>(もちつき)</p>  <p>(よもぎ餅の販売)</p>		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立大塔中学校		公民館名 大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 大塔地域では、平成26年度に国・県・田辺市の研究指定を受けて、3年間の研究実践を進め、昨年度10月に発表を行った。その流れを引き継ぎつつ、「ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成」を小中一貫教育研究の目標に掲げて進めている。1年生は、小学7年生として指導的役割も担いつつ小学生とともに地域の方に学ぶ選択交流学习、2年生は地域での職場体験学習と防災訓練、3年生は、小学生や地域の方とともに地域の清掃をするリフレッシュ大作戦を企画、運営していくことを活動の中心として今年度も実施した。 その他、保育実習や合同避難訓練、福祉学習等の取組に加え、地域のイベントである大塔地球元気村にも有志生徒が実行委員として計画段階から参加したり、当日のボランティアに参加したりしている。		
活動名 大塔地域共育コミュニティ事業		学年・教科・領域等 全校生徒
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学習を通して、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する心を育む。 ・保育園や小学校、地域の方々との交流、消防署と連携した防災訓練を通して、地域の方の願いや自分たちへの期待を知り、地域のために貢献できる自分について考えさせる。 ・大塔地区の小学1年生から中学3年生までの9年間を見通し、地域の子供たちのリーダーとしての役割を担える生徒を育成する。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携を密にし、地域ぐるみで子供たちの健全育成活動に関わりながら、地域の活性化を図る。 ・地域住民が持つ知識・経験を子供たちに伝えとともに、相互の交流を図る。 ・地域住民と子供たちが活動を共にすることで、住民としての一体感や郷土愛を育てる。
支援者及び支援組織 大塔公民館 大塔地域共育コミュニティ本部会議 大塔自治連絡協議会 地域ボランティアの方々 田辺市消防署大塔分署 大塔地球元気村実行委員会 大塔行政局 社会福祉協議会 地域の各事業所		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【1年生：選択交流学习】 第1回選択交流学习(6/14) 第2回選択交流学习(10/11) 地域の方をゲストティーチャーに迎え、木工、おもしろ科学、ハンドメイド、音楽、体育、大塔探訪、生け花、茶道の8つの講座に分かれて、小学5、6年生、中学1年生(小学7年生)が交流しながら学習をした。中学生がリーダーシップを発揮できる場面を設定することで、小学生にも来年への自覚が芽生えることを目的としている。講座によって異なるが、第2回の前には中学生とゲストティーチャーとで事前打ち合わせを行い、1回目よりもリーダーシップを発揮し、よりよい交流ができるよう取り組んでいる。2回目は小学生に気を配りながら、リーダー性を発揮することができ、充実感や達成感を味わうことができた。 【2年生：職場体験学習】 事前キャリア学習(5/2) 事前電話連絡(5/1・2) 職場体験(5/10～12) 事前キャリア学習として、京都産業大学の井上先生の講演をお聞きし、将来や職業について考えるよい機会とすることができた。また、卒業後の進路や将来の職業について展望し、地域の公共施設や事業所等から各自が行きたい職場を選択し体験した。地域の人の働く姿を間近で見て、自分も体験することで、仕事の大変さややりがいを実感し、将来について考えることができた。 【防災学習】(10/27・11/7・12/18) 田辺市消防署大塔分署の協力を得て、例年災害時の救助訓練等に取り組んでいる。今年度は2年生が、将来の地域防災を担う人材になることを目的として、救急救命講習、避難所開設体験という、より実践的な防災学習に取り組んだ。また、助け合うことの大切さや、災害時に避難所でどのような支援ができるかを学び、それを1年生に伝達する取組も行った。寝床づくり、新聞紙を使った紙コップづくり等を体験し、クロスロード学習を行って、防災について考え、深める機会とすることができた。さらに、3年生は、これまでの防災学習のまとめとして、災害発生時を想定したクロスロード学習を行った。現中学生が、地域防災を守るための人材になっていくことを目標に、今後も取組を続けていく予定である。 【3年生：リフレッシュ大作戦】(11/15) 小中学生と地域の方がともに行う清掃活動である。自然豊かなふるさと大塔のよさを今後も守り続けていくため、大塔地区の最高学年である小学9年生として、中学3年生が企画、運営している。一昨年度より区長会への協力依頼等を行い、地域との連携をこれまで以上に強めて実施した。今年度も居住地を中心に縦割りで各地区に振り分け、地域の方とともにゴミを拾った。小学校から続けている活動ではあるが、初めてリーダーとして計画し、当日は運営だけでなく、安全面にも気を遣いながら進めていた。中学3年生が中心となって、各地区でゴミの分別まで丁寧に行っており、行政局での最終のゴミの仕分けは、年々スムーズに終わられるようになってきている。中学3年生は今年で終わりだが、自分たちが住むふるさと大塔の自然を守り続けたいという気持ちを強く感じるとともに、今後も活動を続けてもらいたいという思いを抱いたようである。現段階でも、2年生の中には、リーダーや副リーダーを務めている生徒がおり、1・2年生も、次は自分たちが計画するのだという自覚を持って3年生をサポートしている。1・2年生も、年齢段階に応じて、活動の意義や将来への思いを感じることができている。		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間の縦のつながりを考えながら連携することができた。 ・選択交流学习では、事前打ち合わせを行うことで、生徒もリーダーとしての役割を担えた。 ・リフレッシュ大作戦では、中学3年生が企画、運営し、小学校、地域の方々と連携して取り組むことができ、ふるさと大塔の美化に対する思いが強まった。 ・大塔地球元気村では、計画段階からボランティアとして参加し、地域の一員として、体験教室でのサポートや受付、ステージでのMCアシスタントに臨むことができた。 ・防災学習では、災害時における避難所での支援について学び、将来の地域防災の担い手としての意識付けが行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学习では、児童生徒の減少に伴う講座数の検討が必要である。 ・リフレッシュ大作戦では、児童生徒の減少、三川小学校に引き続き、来年度の富里小学校閉校に伴う清掃地域の検討が必要である。 ・ふるさと大塔を誇りに思っている生徒は多いが、地域の担い手を育てるために、改めてふるさとを見つめ直し、考える「ふるさと学習」等の取組も必要である。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・これらの活動は、ふるさとの文化や伝統を地域の中で体験する貴重な機会となっている。地域への関心や地域をよりよくしようという思いが高まり、ふるさとの良さを守り続けたいという思いを育むことができた。 ・地域の方々の苦労や自分たちへの期待、願いについて知ることができ、地域の担い手としての自覚が芽生えた。 ・地域の子供たちのリーダーとしての自覚を持ち、役割を担うことができた。また、それにより、充実感や達成感を味わえる生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を離れても、地域の行事に参加したり、自分たちから何か地域に発言したり、積極的に地域に参画していける生徒の育成が課題である。また、地域の担い手としての自覚を持った生徒が、将来も大塔で暮らしたいと願ったとき、それが実現できる条件が整備されていることが望まれる。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・住民や異年齢の子供たちとの活動を通して、コミュニケーション能力を高めることができ、交流を深めることができた。 ・職場体験学習を通して、働くことの意義や苦労、喜びを学ぶことができ、自分の進路や将来を考える良い機会となった。 ・防災学習やリフレッシュ大作戦では、地域に暮らす子供たちの代表として、自分たちにできることを考えたり、学んだりすることができた。 ・大塔地球元気村実行委員会への参画も良い経験となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、毎月、地域の話題や行事を掲載した公民館だよりを各教室に掲示している。子供たちには、日頃から自分の住んでいる地域に関心を持ち、機会があれば、地域の行事や活動に積極的に関わってもらいたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・共育コミュニティ事業の中には、地域行事として定着しているものもあり、子供たちと住民の良き交流の場、地域の活性化にもつながっている。 ・子育てを終えた方や普段、学校と接点がない方も、活動に参加することで、学校や子供たちの取組を知ることができた。 ・知識や経験を生かして子供たちの育成に関わることができ、喜びを感じている方もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりスムーズに、効果的に活動を進めるため、学校と地域(公民館)が連携を強くしていかなければならない。 ・防災学習やリフレッシュ大作戦で育まれた子供たちの自信や「地域の一員である」という意識を生かす場を考えていきたい。 ・今後も共育コミュニティ事業の取組を、地域へ広報しながら、一人でも多くの理解者や協力者を増やしていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 【評価】 それぞれの活動において、これまでの取組の良さを引き継ぎつつ、改善に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学习では、地域の方を指導者として、中学1年生が小学7年生として小学生のリーダー的な役割を果たすことができ、自己評価、地域の方からの評価ともに高まった。 ・職場体験学習では、京都産業大学の先生を招いて、お話を聞き、将来や職業について考えるよい機会となった。また、新たな職場を開拓し、できるだけ興味関心に近い職場に体験に行くことで、より興味を持って体験することができた。地域の方が働く姿を見ながら地域の職場で体験することで、将来への展望を持つことができた。 ・リフレッシュ大作戦は、これからもふるさとの良さを守り続けたいという思いを持って実施することができた。また、地域の最上級生である小学9年生として、リーダーとしての立場で取り組むことができ、地域の方々にも、中学生の様子を知ってもらう機会となった。 ・大塔地球元気村に企画段階から参加し、企画運営していく苦労を知るとともに、それに関わることのやりがいを実感することができた。 ・防災学習では、災害発生時の避難所での支援について学び、中学生に何ができるかということについて考えることができた。 【来年度に向けて】 <ul style="list-style-type: none"> ・大塔地域学社融合推進協議会、コミュニティスクールへと発展的に組織を改編する。富里小学校の鮎川小学校への統合を機会とし、地域学習や行事の見直しを行う。日常の学校生活、教科学習、図書館運営、不登校・別室登校対応への地域人材の活用や、新たな取組について、研究していきたい。 		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立本宮中学校		公民館名 本宮公民館(本宮分館・四村川分館・請川分館・三里分館)	
学社融合における学校・地域の様子 本校では、毎月、学社融合担当者会(教育事務所長、指導主事、公民館担当、各校担当者)を開催している。学校では、「学校教育で地域と連携することにより、地域と共に開かれた学校づくり」を目的とし活動に取り組んでいる。 学社融合における取組では、ただ体験のみで終わることなく生徒の学力向上につなげられるように、今年度も教科の面では国語科、保健体育科、技術家庭科、総合の時間に関連させ、昨年に引き続き活動を展開している。地域の方や保護者の方は学校教育に協力的であり、学校行事や育友会行事に多くの方が参加、協力して頂いている。			
活動名 地域学習・地域への花植え		学年・教科・領域等 地域学習(1年)・技術(全学年)生物育成に関する技術	
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を図り、ふるさとを愛する生徒を育てる。 ・地域での体験活動を通して、地域の文化や伝統、名所を知る機会を作る。 	
	地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した活動を推進し、地域を愛する生徒を育成する。 ・地域活性のために、学校との協働作業を行い行事の推進を図る。 	
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 学校支援ボランティア・公民館各分館・女性会・地域の方			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)		今年度の主な取り組み	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学社融合担当者会(毎月実施) 本宮教育事務所(所長・指導主事・公民館担当・各校学社融合担当者)</p> </div>			
地域を学ぶ学習		学校から地域への貢献	
<p>本校では郷土を愛する生徒を育成するために、郷土学習に取り組んでいる。1年生の取組として、世界遺産にも登録された地元の熊野古道学習を行う。 学習を深めるために、事前学習を行い、その後、実際に現地を歩いた際に地元の語り部の方のご協力を仰いだ。体験後、学んだことをまとめる作業を行い、文化祭で寸劇を入れながら全校及び地域の方に向けて発表した。</p> <p>今年度の実施状況 ○ 5月30日(火)9月20日(水)22日(金) 事前学習 ○ 9月29日(金) 現地学習 ○ 10月 2日(月) 地域学習(森林のしくみ) ○ 10月30日(月)～11月 2日(木) 事後学習 ○ 11月12日(日) 文化祭での発表</p>		<p>学社融合の取組を生かして、町内を美しくする活動を展開している。町内を美しくして温かく観光客を迎えるとともに、地元民には居心地の良い地域であることを実感していただけるように協働作業を展開している。大きくは花植への作業・プランターの配置作業・プランターの回収作業を実施している。</p> <p>今年度の実施状況及び実施計画 ○ 6月 1日(木) プランターの回収作業 町内より回収 120鉢 ○ 12月26日(火) 土づくり作業 ○ 1月23日(火) 土づくり・花植え～事業所等へプランターを配布</p>	
 		 	

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にご協力を頂けることで、学校のできる取組に幅が増え、生徒にとって大きな効果がある。今年度は、特に熊野古道学習のまとめを工夫でき、充実した時間を過ごしている。 ・今年度、新規に森林組合の方をお招きして森林学習を取り入れ、地元を見直す一つの機会とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の取組を踏襲するだけでなく、より充実した内容となるよう取組の見直しをしていく必要がある。さらに、事業を継続していく上で授業時間の確保について、今年度大きな編成の工夫を行えたが、担当者が異動していく中で編成の工夫を継続していくことと、担当者の育成が課題である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 学習を体感し、文化祭ではまとめの工夫を行い、地域の方を交えた大きな舞台で発表できたことは大きな自信につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事は、教師中心に進めているが、ゆくゆくは生徒がやり方を覚え、主体的に進めていけることができると考えている。授業をベースとして、生徒主体の取組を進めていく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方にご協力をいただけることで、多くの方に出会える機会が増え、成長のチャンスにつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方と触れ合う中で、地域活性を担う次世代の地元民であるという意識を持たせた。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や学校に関わりをもってくれることで、地域の状況をより把握する意識を持つことができる。 ・事業を行う際に、ボランティアの方が地域の方に声かけ等をしてくれ、動員しやすい状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力いただけるボランティアの方の固定化傾向が見られるとともに、多忙化や高齢化になっている。 ・地域の公民館を中心として、若い世代で活躍してくれる方の発掘が急務である。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
評価 今年度も、学社融合担当者会を月に一度開催し、地域や公民館、町内の小学校と連携して多くの活動を進めることができた。職員同士の交流が図れ、お互いに依頼する際、学校や教育事務所との垣根が低くなり活動を円滑に進めることができた。 熊野古道学習や花植え等の活動は、地域のボランティアの方のご協力を仰いで実施していくので、時期や天候面で左右されることがある。公民館担当とも連携を図りながら今後も丁寧に進めていきたいと考えている。 合気道では、次年度が開始より3年目となり、3年間の学習プログラムが完成する。地元の熊野本宮合気塾の方のご指導を受けながら、授業を進めていきたい。家庭科では、昨年より授業担当者が変わったが引き続きミシンボランティアを実施できた。 花植えでは、左記のように充実した活動ができた。学校が動いて地域を活性化していく面で一つ役割を果たせたと考えている。		
次年度に向けての取組の方向 次年度は新しい行事や取組を入れるのではなく、これをさらに充実したものになりたいと考えている。そのためにも、学社融合担当者会を大切に、公民館担当者と協力しながら活動に取り組んでいきたい。さらに生徒には次世代を担う人材であるという意識を持たせるために、生活面等の指導を今後もきちんとしていく。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立新庄幼稚園		公民館名 新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子 新庄地域はいろいろな団体の活動が充実し、教育への関心も高く物心面での協力もいただいている。新庄公民館はサークル活動が活発であり、その中の茶道・コーラスの先生方の協力をいただき、園児の体験も広がっている。また地域の夏まつりに幼稚園のPTAの参画や、グランドゴルフの方々との交流など、地域の人々とのつながりもできてきている。 少子高齢化が進む中、人とかかわりが薄くなりつつある今、園では普段の保育を地域につなげ、保育の公開や参加型の保育を展開し、園に来てくださる方々と共に充実した時間を過ごせるようにと取組を進めている。その中で人とかかわることが大好きなコミュニケーション力を育てていきたいと考えている。		
活動名 つながる喜び 広がる笑顔(グランドゴルフの方との交流)		学年・教科・領域等 全園児
目 標	学校・園	・人とかかわり、つながることの喜びや温かさを感じる。 ・子どもたちの経験や保育を交流につなげ、人とかかわりの中で主体性を発揮する楽しさを味わう。
	地域(公民館)	・地域の方々が子どもたちとふれあう事で、活動の活性化や生きがいを感じることに繋げていく。
校(園)区の推進組織・支援者及び支援組織 グランドゴルフのチームの方々との交流を中心に		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) <p>◆職員の意識改革・学社融合の視点からの交流の見直し ○幼稚園を地域に開く・気軽に挨拶、言葉、会話を交わし楽しめる関係作り、普段の保育につなげる ○保育の公開や参加型の保育を展開 ・園外保育、行事の日程への配慮(地域の方とたくさん出会える日)・交流前に子どもの意識を最大限に高めておく ・事前事後に子ども達の声が届けるアプローチ・余韻が残る交流への取組</p> <p>その為に</p> <p>グランドゴルフの方々との交流</p> <p>人とつながる (応答性のある関係の広がり)</p> <p>1学期交流会</p> <p>おまつりごっこ (112名来)</p> <p>おもちつき</p> <p>2学期交流会</p> <p>3学期交流会</p> <p>経験がつながる お茶教室でついた力を発揮 「お茶をどうぞ」「ありがとう」</p> <p>「よう来たな。応援してよ」「おっちゃん、上手やな。いい音鳴ってたな！」</p> <p>「おすそわけです。おもちをどうぞ」「ありがとう！美味しい(その場で頬張って下さり、お互い笑顔)」</p> <p>「新記録、出すぞ」「よし！がんばれ！！」</p> <p>「いらっしやませ！」 「素敵なおまつりごっこ」「幼稚園の子ども達の元気と力にはびっくりや！力をもらおうよ。ありがとう！」</p> <p>「今日はホールインワンするぞ」「前より上手に打ってるな！頑張れ」</p> <p>「おまつりごっこに来てください(チラシを手渡しお誘いする)」</p> <p>「からくり折紙作ったんや、みんなと遊んで」「うわっすごい！ありがとう」</p> <p>「グランドゴルフ 教えてください」「こうやって持つんやで」</p>		

	成 果	課 題
学校・園	・職員の意識改革や学社融合の視点からの交流の見直しをはかり、保育をつなげるように努めた。そのことで、応答性のある関係が広がった。地域の方は以前より子供たちの様子に関心をもち、幼稚園に目を向けてくださり、主体的なアプローチ等が出てきて、地域の方の意識も変わってきつつあるように感じる。	・お互いに充実した交流となるように、日々の保育をどう積み重ねていくか、交流や保育を見直しながら、取組を進める。また交流の1年間を見通した教育課程や指導計画を考えていく。
*子供にとって	・グランドゴルフの方との交流が日常から積み重ねることで、園児は人とかかわることが楽しくなり、自分たちから地域の方にアプローチをするようになった。また自分の力を発揮することができるようになり、人を招く喜びを感じたり、充実感を味わう。	・子供の育ちの何を願い、育ったところはどこで、今後の交流にどのように繋げていくかを考え、ねらいや内容を明確にもつ必要がある。また子供が自ら人とかかわる喜びを感じ、楽しめるような保育の展開を考える。
*子供にとって	・交流を通じて、グランドゴルフについて考えたり、それを相手に伝えたりすることで、ただふれあいを楽しむだけでなく、人とかかわり方も学ぶことができた。	・幼稚園の先生方の日々の積み重ねにより、園での生活は非常に充実したものになっているように感じる。地域としてできることを考え、支援をしていきたい。
地域(公民館)	・子供たちと交流することで活動の活性化につながったのではないかと。 ・子供たちと活動することでより一層楽しくできたのではないかと。	・公民館として後押しが十分であったか検証が必要。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ○評価 職員の意識改革・学社融合の視点からの交流の見直し ↓ 保育をつなげる人とつながる経験がつながる ↓ ◆子供が変わる ・人と出会い、ふれ合いを重ねることで、人とかかわることが楽しくなり、その中で自分の力を発揮することができるようになる。そして自分たちができること、喜んでもらえることを考え実行しようとする。(自分たちからのアプローチ…人を招く喜び「おまつりごっこに来てください」等) ↓ ◆地域の方の意識が変わる ・子供たちとのふれ合いや会話など、かかわりを楽しむことで、自分自身の存在感や人とつながる楽しさ・生きがいを感じ、子供の様子に関心をもち、目を向けてくださる。そして地域の方からの主体的なアプローチ(会話の広がり、手作りプレゼント)で心を届けてくださる。 ↓ ○次年度に向けての取組の方向 ・学社融合の取組を特別な活動と考えず、細部の計画・日程等の工夫をすることで、日常の自然な流れの中の、何気ない交流を積み重ねていけるということを意識し、教育課程・指導計画を考えていく。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立三栖幼稚園		公民館名 三栖公民館	
学社融合における学校・地域の様子 近年は、新興住宅地やマンションなども増え、年々景色や様子も変わりつつあり、核家族も増えてきている。しかし、元来からの梅、みかんなどの栽培物も盛んであり、また、歴史的な場所、建物も多く健在している地域である。 本園では、園内における友だちとのつながりを大切に保育を充実させてきたことでお互いを思いやり、認め合える子供たちに育ってきている。そのことが地域の様々な年齢層の方との交流にも循環され、人の優しさや温かさに触れ、「人が好き」「地域が好き」な子供たちになってほしいと願い、取組を進めている。また、園児数が減少しているため、日々の保育や行事などの運営などの見直しを図り、家庭や地域とのつながりを更に深めていけるよう、努めているところである。			
活動名 三栖公民館文化展への参加		学年・教科・領域等 全園児	
目 標	学校・園	・地域行事への参加を通して、満足感を味わったり、様々な方とのかかわりを深めたりして、より人や地域のことが好きになる。 ・幼稚園と地域、お互いにあたたかく結びつく関係作りを目指す。	
	地域（公民館）	・地域の方々とふれあうことで、地域の中で暮らし、見守られているという安心感を持つとともに、人と関わることで得られる喜びや楽しみを知る。 ・地域の方々が子供たちの様子を知ること、幼稚園教育への関心を高める。また、地域ぐるみで子供たちを見守り、育てるという意識を高める。	
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 公民館 教室・サークル 地域団体 小・中学校など			
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等） ～H27年度～ 年度初めに公民館の方より新たな公民館活動を企画していきたいという提案。 『サークル、各種団体、幼・小・中など地域の人の作品展示や発表の場、つながりができればいいな』 『三栖公民館文化展』をしよう！ ○学社融合担当者会議において打合わせを重ねる。（発表会、催し、展示会などについて） 幼稚園…年長児がオペレッタ「金のがちょう」の舞台発表、学社融合取組のパネル掲示。 ☆H28/2/28（2日目） 9時～婦人会、三栖小茶道クラブ、JA女性会の皆さんからのふるまい 10時～幼稚園オペレッタ発表 10時30～大正琴サークルさん発表 11時～小学生と文化委員さん語り部発表   ～H28年度～ 昨年度とはまた違った内容を取り入れた文化展を検討していく。（手作り体験コーナー、衣笠山登山など） 幼稚園…年長児がオペレッタ「ももたろう」の舞台発表。大正琴サークルとのコラボレーション発表。 衣笠中学校との交流で作った粘土作品展示。学社融合取組のパネル掲示。 当日までに…1/25 大正琴サークルの方が来園。子供たちが園歌を歌うのを聞いてもらい、楽譜を渡しておく。（大正琴用に楽譜を書き直すため） 2/2 サークルの方が大正琴と園歌、うれしいひなまつりの歌を録音したテープを持って来て下さる。実物の大正琴を見たり、音色を聞いたりして大正琴への興味が湧く子供たち。サークルの皆さんが園歌を練習して下さっていることを伝えたり、テープに合わせて歌を歌ったりして、当日に向けて楽しみな気持ちが膨らむ。    ☆H29/2/25（1日目） 10時～幼稚園オペレッタ発表 10時30～大正琴サークルさん発表 園児とコラボレーション。園歌、うれしいひなまつりなど ～H29年度～ H30/2/24、2/25に開催予定。			

	成 果	課 題
学校・園	・公民館主催の地域の文化展に参加することで、地域の様々な年齢層の方から温かい目を向けていただく機会となった。 ・これまで高齢者学級や文化委員さんとのつながりはあったが、新たに大正琴サークルの方とのコラボレーション発表が実現し、サークルの方々と幼稚園とのつながりが生まれたことを大変うれしく思っている。	・さまざまな教室・サークル、地域団体さんの展示や発表の場であるので、日程等調整がうまくとれるように検討していきたい。 ・今後もこの文化展でできたつながりを活かしていけるよう働きかけていきたい。
*子供にとって	・幼稚園の生活発表会で披露したオペレッタを地域の方々に見てもらえるということで、とても張り切って練習に励み、当日も堂々と発表できたことで満足感を味わえた。沢山の拍手をいただき、地域の方々の温かさにも触れ、貴重な経験となった。	・地域行事に参加させていただくことは、子供たちにとって自信と満足感を味わえるとてもいい機会である。舞台発表や作品展示など、地域の方々楽しく見てもらい、温かい目を向けて下さっていることを今後も大事にしていければと思う。
*子供にとって	・地域の方々に、自分たちの練習の成果を披露することができ、達成感や充実感を味わうことができた。 ・地域の方々に見守られているということを感じるとともに、人の優しさや温かさを感じることができた。	・人とのふれあいを通じ、心豊かで思いやりのある、また、自分自身で考え、表現できる子供に育つよう、地域ぐるみで取り組んでいきたい。
地域（公民館）	・地域の方々が、園児の様子を広く知ること、幼稚園教育の充実を感じるとともに、地域の子供たちへの関心が高まった。 ・地域の方々が持っている知識や特技などを生かして、積極的に幼稚園に関わっていただくことができた。	・より多くの方々に、園児たちの育ちに関心を持ってもらえるような機会をつくり、地域が地域でできることを考え、積極的に関わっていきける体制を構築していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ○園児数が減少しているが、子供たちにとって豊かな園生活が送れるよう、これまでの保育や行事などの見直しを図っている。例えば、保育参観だけでなく、子供と一緒に活動する保育参加の内容を充実させたり、運動会などの行事では競技の内容や方法を工夫して、地域の様々な人が参加できる『みんなでつくり、みんなで楽しめる運動会』を進めてきている。 このような保育や行事の改善を図る中の一つとして、公民館主体の文化展参加も2年前から始まり、幼稚園と地域がつながるいい機会となっている。子供たちは、「沢山の人の人に見てもらえる！」と練習に励み、当日、堂々と発表することができ、温かい拍手をもらって、自信となっている。また、私たち職員にも沢山の方から「かわいらしいなあ」「よく覚えててかしこいな」「見てて涙が出てきそうだったよ」と温かい言葉をかけていただいていることは、とてもうれしく、励みになっている。 ○昨年度には、大正琴サークルさんとのコラボレーションが実現。当日までにはサークルの方が園に足を運んで下さって、子供たちが歌う園歌を聞いてもらったり、園歌の楽譜を書き直して練習をして下さったりと大変ご協力をいただいた。『子供たちのために』の温かい気持ちが子供たちに伝わり、当日は一緒に発表できたことに感動し、サークルの方と熱く握手を交わしながら「ありがとう、うれしかったよ！」とお互いに声を掛け合う姿も見られた。 大正琴サークルさんとのコラボレーションの機会をいただいたことで、新たな地域とのつながりが生まれたことを、次にいかせていけるように考えていきたい。 ○文化展への参加は、園にとって、子供たちにとって、とても貴重な経験である。地域の人々と温かく接し合える場、子供たちに目を向けて下さる場、その機会だけにとまらず、文化展で生まれたつながりを広げたり、深められるよう学社融合の取組を進めていければと思う。園児数が減少している中で、保護者や地域とのつながりを深め、様々な方の力添えをいただきながら子供にとってより豊かな園生活が充実できるように努めていきたい。		

学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立上秋津幼稚園		公民館名 上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子 旧田辺市の北東部、市街より数キロ離れ、標高606メートルの高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地域は年間を通して色々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少していて、今年度当園における専業農家は4世帯である。昔から教育熱心な地域ではあるので、幼稚園教育にも理解があり、物心両面に協力的で、温かい支援をいただいている。地域には町内会をはじめ、あらゆる組織、団体を網羅する「秋津野塾」という地域作り団体が結成されていて、様々な活動を行っている。		
活動名 梅、みかんと関わり		学年・教科・領域等 年長児～全園児
目 標	学校・園	・地域の特産物である、梅やみかんに親しみを持つ。
	地域（公民館）	・地場産業を子供たちに知ってもらい、興味を持ってもらう。 ・地域住民との繋がりを深めていく。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 公民館 梅、みかん農家の方々 田辺市役所農業振興課 秋津野直売所きてら あきつのガルテン		
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等） ◇梅との関わり◇ 6月 8日 幼稚園前の梅畑で梅拾いの体験をさせていただく。 6月22日 幼稚園近くの農家の方に梅の選果を見せていただく。見せていただいている時に、「さしす梅干」の作り方を教えていただき、ご好意で青梅もいただく。 6月23日 年長児が梅シロップとさしす梅干作りを行う。 9月19日 梅干が出来ていく過程が分かるように、絵本「まだだよ まだだよ」を読む。さしす梅干を干す。 10月12日 さしす梅干完成。少しずつ味を見る。食べやすい味付けになっているので普段は苦手な子供も喜んで食べる。 ◇蜜柑との関わり◇ 5月 8日 絵本タイムで支援に来ていただいた方に「もったいないばあさん」の絵本を読んでもらう。その中に出てくる蜜柑の皮の入浴剤を作りたいという声が出る。 5月26日 あきつのガルテンを見学し、職員の方が上秋津の蜜柑について説明して下さる。年長児がケアセンター「おたっしや倶楽部」を訪問した際、「おじいちゃん、おばあちゃんに蜜柑の皮の入浴剤をプレゼントしたい」という声が出る。秋津野直売所きてら見学。 この時期に売られている蜜柑の種類を知り、種類別のジュースを買う。ジュースの飲み比べをし、甘さの順番に並べたり発見したことや疑問に思ったことを話し合う。興味関心が高まり、年長児が「みかん研究所」を作ることになる。 6月14日 打合わせを経て、小学校5年生との蜜柑交流をガルテンで行う。園児からの発見や疑問を小学生に聞いてもらい、後日答えてもらうことになる。その後、蜜柑資料室見学を一緒に行う。 11月 蜜柑の効能についての紙芝居を見る。 12月 7日 保護者で蜜柑農家をされている3名の方に園に来ていただき、子供たちの質問に答えていただいたり、蜜柑について教えていただく。職員がきてらに行き、ジュース作りで使わない蜜柑の皮をいただき、翌日から天日干しをする。 12月11日 職員が田辺市役所の農業振興課に行き、上秋津や田辺の蜜柑について教えてもらう。 12月12日 小学校5年生との蜜柑交流第2回目を幼稚園で行う。蜜柑学習で調べたことをパワーポイントを使って教えてくれる。また、蜜柑かるたを作ってくれ、5年生と園児で和氣藹々と楽しむことが出来た。 12月21日 あんしんネットワークで高齢者の方へのプレゼントの中に完成した入浴剤を入れてプレゼントする。		



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育に出かけた時など、普段の生活の中で地域の方に声をかけていただくことが多い。ご好意で見学させていただいたり、体験させていただいたり、幼稚園を身近に感じていただいていることを実感できた。 ・農家の方から直接教えていただいたことで、園だけでは知ることができないこと、体験できないことをさせていただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅との関わりについては、地域の方のご好意でいただいたことが多かったため、継続していくためには、園からの働きかけについて考えていく必要がある。 ・今年度は園児の家庭で農家の家庭があったが、継続していくための手立てを考えていく必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・梅やみかんの木は日常で見慣れているものであるが、実際に体験したり深く知ったりしたことで、地域の特産物により親しみをもつことができた。 ・生活に身近なもので、「知りたい」という思いが強くなり、自ら知ろうとする姿勢につながった。 ・地域の特産物を深く知ったことで、地域を大切に思う気持ちが高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の取組で、農業への関心が高まり、地域を誇りに思う気持ちも増している子供たち。その思いをこれからも持ち続けていけるように大切に育んでいきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・上秋津の特産物である梅やみかんについて、興味を持ち、知ってもらいたいきっかけとなった。 ・高齢者の方々に、園児たちが調べて作ったものをプレゼントすることができ、地域に対する郷土愛を育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に関する取組みの中で、地域住民と触れ合う機会が増えて、子供たちにとって地域を知る良い機会となっている。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・園児が園外に出て地域住民と触れ合える機会が多くなり、楽しみにしている住民が多い。 ・幼稚園の活動に快く協力していただける住民が多く、お互いに信頼関係ができていけるので、これからも継続してこのような活動を推進していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内で農業をしている住民が減少している中、支援していただける農家を探していくことが今後の課題となる。 ・地域と幼稚園の繋がりをこれからも大切にしていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・絵本タイム支援の方に読んでいただいた絵本から子供たちの興味関心が広がっていった。 ・地域の特産物である、梅やみかんについては今までも生活の中に取り入れてきたが、直接地域の方に働きかけていったことで、より深めていくことができた。また地域の方もこちらのお願いを快く聞いてくださり、またご好意でお願いしたこと以上の体験や経験をさせていただいた。日ごろから、地域の中の幼稚園という思いを持ってくださっていること、上秋津地域に住む子供たちを温かく見守ってくださっていることを改めて感じた。 ・「みかん研究所」を作り、蜜柑のことや皮のことを「もっと知りたい」という気持ちが高まっていったのは「おじいちゃん、おばあちゃんに蜜柑の皮の入浴剤をプレゼントしたい」という思いがあったからこそである。絵本タイムから高齢者との関わりへと1つの活動だけで終わってしまうのではなく、いくつもの活動とのつながりを大切にしながら取り組んできたつもりである。実際に高齢者の方にプレゼントすると、子供たちの思いが嬉しいというお話をいただいている。また、地域の方へも幼稚園が蜜柑の取組を行っていることを知らせるきっかけとなった。 ・農家の方や田辺市役所農業振興課の方から、上秋津は作っているみかんの種類がたいへん多く、日本一に近いという話をいただいた。地域の特産物について深く知っていったことで、「上秋津ってすごい！」「農家の人の仕事ってすごい！」という言葉が子供たちからも自然に出てきて、地域を誇りに思う姿へとつながってきていると感じている。 ・次年度に向けては、この貴重な体験を継続して行えるように計画を立てていくこと、また、地域への愛着を幼児期以降も持ち続けていけるように、小学校の地域学習とのつながりも考えていきたい。		



学社融合活動実践報告

学校・園名 田辺市立中芳養幼稚園		公民館名 中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 平成26年度から受けていた「共育コミュニティ事業」の指定研究は終わったが、体制や連携等については継続していくことが決まった。幼稚園と地域の繋がりも広がりつつあり、子供たちと園外保育に出かけると声をかけてくれることも増えてきている。本年度は地域とのつながりをどのように保育活動に生かしていくのか、また、行事と日々の保育の兼ね合いを考えて行事の在り方・内容について試行錯誤をしてきた。共育コミュニティを機に始まった『中芳養合同作品展』では、園児の作品を見て地域の方が声をかけてくれ、幼稚園のことを発信する場となっている。		
活動名 芳寿会との交流		学年・教科・領域等 全園児(地域の方と一緒に)
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者やいろいろな人とふれあい、人の温かさや優しさを感じる。 ・交流を通して人とかかわる喜びや楽しさを味わい、人とかかわる力を養う。 ・幼稚園を地域に開き、地域とのつながりや幼稚園教育への理解を深める。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・芳寿会の方々が、子供たちとの活動を通して、幼稚園への関心を高める。 ・幼稚園の行事に参加してもらうことで、関わりを持つ機会が増える。 ・芳寿会の方々と園児たちをつなぐ取組の中で、お互いに心豊かな気持ちになり、活力を感じる。
校（園）区の推進組織・支援者及び支援組織 芳寿会(中芳養高齢者の会) 公民館		
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 4月26日 芳寿会会長・公民館主事・園長・主任で会議を行う。 平成28年度の交流活動の反省と平成29年度の年間交流計画をたてる。		
5月30日 第1回交流会<ふれあい遊びを楽しもう> ◎芳寿会の方と一緒にふれあい遊びを楽しみ、親しみを覚える。 ・『ジャンケン列車』や『あくしゅでこんにちは』など園児が普段楽しんでいる遊びで交流を深める。 ・最初は緊張していたり話しかけられても黙ったりしてしまう園児もいたが、一緒に楽しむうちに心も和らぎ、お互いに笑顔が見られるようになってきた。		
7月 3日 第2回交流会<七夕飾りを作ろう> ◎芳寿会の方に作り方を伝えたり、話をしながら七夕制作を楽しむ。 ・二回目の交流会ということで子ども達も安心している表情が見られた。しかし、友達に話すのと同じ様に話しかけるので、お互いに気持ちよく過ごすために必要な話し方も知らせていく。 ・大きな笹3本分の飾りを作るのは大変であったが、綺麗に飾られていく笹を見て満足そうな様子が見られた。完成した笹飾りは芳寿会の方と一緒に公民館に届けに行く。		
8月 4日 中芳養夏まつりにむけて<盆踊りを教えてもらおう> ・毎年、夏まつりの前に幼稚園の遊戯室にて盆踊り講習会をしている。講師として芳寿会の方にお願いして、親子で踊りを教えてもらっている。祭り当日も親子で参加し、踊りの輪も広がりつつある。		
10月1日 運動会に招待する。 ・子供たちにたくさんの声援を送ってくれたり、玉入れの競技に参加して下さったりする。		
11月17日 第3回交流会<中芳養合同作品展に向けての共同制作> ◎芳寿会の方と協力して、一つの作品を作る楽しさを味わう。 ・12月頃に中芳養合同作品展が開かれており、園児の絵画や作品を展示している。芳寿会の方と秋の自然物を使った制作を行い、作品展に出品することで幼稚園と芳寿会の交流について地域に発信することにした。 ・6つのグループに分かれて作りたいものを考え、図案を描いておいた。芳寿会の方に手伝ってもらい、『まつぼっくりの虹』や『クリスマスツリー』、『木の家』などができた。		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・芳寿会の方たちとかかわることやふれあうことを純粋に楽しんだり、人とかかわり方を考えたりする機会になっている。 ・地域で出会ったときにも声をかけてくれるようになり、幼稚園教育について知ってくれている方たちが増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の内容について毎年話し合いを重ねているが、芳寿会でも高齢化が進んでおり、参加することが困難であると聞いている。なるべく負担が少なく、お互いに有意義な活動になるようにしているが園に来てもらうこと自体も難しい方もいる。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちと接する時はいつも温かく、子供たちが楽しいようにと話をしてくださる。普段は高齢の方とのふれあいが少ない園児にとっては新鮮で心も和み、落ち着いた時間を過ごせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から高齢者とかかわりが少なく、交流会の時にはどのように接したら良いのか分からなかったり、会話も友達に話しかけると同じように話してしまったりすることもしばしばである。また、恥ずかしがって返事ができないこともある。人とかかわる楽しさを心から感じて、積極性やコミュニケーション力をつけてほしい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・園児たちが芳寿会の方々と関わり、共同して取り組んだことによって、地域への親しみを感じ、喜びを感じる事ができた。 ・芳寿会の方々ははじめ、地域の多くの方々と関わる中で、話す力や聞く力などが身につけられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との様々な交流や体験を通して、話す力や聞く力をさらに高めてほしい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・園児たちとの交流を通じて、芳寿会の方々は元気や朗らかさを与えられた。 ・芳寿会の方々が来園し、園児たちと交流することで、より詳しい知識や技術を園児たちに教えることができる。 ・様々な交流を通じて、繋がりを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芳寿会と幼稚園との連携をさらに深めていく。 ・芳寿会の方々と園児たちの活動が、地域の方々に伝わるように、公民館報などを通じて広報していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 本園では核家族が大半で祖父母と同居している家庭はほとんどないので、普段から保護者より年配の人たちとかかわる機会が少ない。そのため、芳寿会の方たちとの交流は子供たちも喜んでおり、交流会を楽しむ姿も見られる。園に来てくださる地域の方たちも優しく話しかけてくれたり、子供らしい発言を聞いて笑ってくれたりとお互いに有意義な時間を過ごすことができている。しかし、園児の中には話しかけられても恥ずかしがって黙ってしまったり、突き放すような言い方をしてしまうこともある。自分の意見を伝えたり、相手の話をしっかり聞いたり等のコミュニケーションの基本的な部分で課題を感じている。地域の方とのふれあいを心から楽しみ、たくさん話をすることで子供たちの表情も和らぎ、話す・伝わることの楽しさを実感できているように感じる。地域の方々の優しさが子供たちに伝わり、心が温かくなる、このことが子供たちの心を優しく育ててくれていると考えている。 今年はふれあい遊びの他に、今年で4回目になる『中芳養合同作品展』への共同制作を出品し、地域の方にも幼稚園と芳寿会との交流の様子を知っていただくと考えた。子供たちの図案通りに作るのには難しく苦労もしたが、芳寿会のみなさんが作り方を聞いてくれたり、上手いくように子供たちに教えてくれたりしながら進めていくことができ、出来上がりに満足している子供たちであった。一緒に制作をするうちにより親しみを感じ、笑顔で制作している様子が印象に残っている。しかし、芳寿会の方々にどんなふうに進めていくのかきちんと伝えられていなかったため、当日の制作時に戸惑う姿が見られたので反省している。作品展では、「幼稚園でもこんなことが出来るんやね。」など声をかけてくれる方もいて、少しずつ幼稚園について知ってくれている方が増えてきて嬉しく思っている。地域と幼稚園、そして子供たちと地域の人たちとの関係がより深まっていくために、人とのつながりを大切に、関係を深めていき、より地域に根ざした幼稚園となるように努めていきたい。		

あ と が き

昨年6月、学社融合研究所代表 越田幸洋氏の訃報が届きました。

田辺市教育委員会の学社融合推進に、長年御指導・御助言をいただいた越田幸洋氏を偲んで、これまでの10年を振り返ってみたいと考えます。

平成18年、約60年ぶりに、「教育基本法」が全面改正され、教育改革の新たな第一歩が踏み出されました。

その第13条に、「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする」との条文が新設されました。

田辺市教育委員会では、既に平成14年度より各学校、幼稚園に地域連携担当者を配置し、学校と公民館の合同会議や研修会を開催するなどして、学社融合を推進するとともに、市町村合併を機に、「基礎基本の徹底」と「学社融合の推進」を学校教育推進の大きな2本柱に掲げ、各学校における教育活動充実に取り組んでまいりました。

さらに、平成19年度を「学社融合元年」として、田辺市教育行政基本方針の最重点項目に位置づけ、平成20年度からは、学社融合研究モデル地域として、芳養小学校・芳養公民館を指定し、学社融合のさらなる推進を目指してきました。

芳養小学校並びに芳養公民館では、研究主題を「大人と子どもに感動あるふれあいを～地域の教育力を生かした学社融合活動の推進～」と設定し、平成19年度より取り組みを始めた子供の健全育成と放課後の居場所づくりを目的とした「芳養ふれあい教室」の活動を中心としながら研究を進めて参りました。さらに、研究指定を通して、地域と学校が結びつき、様々な活動に取り組むことで、地域の活性化や伝統文化の継承、子供の健全育成を目指すとともに、地域の教育力を学校の授業に組み入れ、各教科・総合的な学習の時間をはじめとする教育活動全体の充実を図ってまいりました。

この間、越田先生には芳養小学校に何度も足を運んでいただき、ご指導いただきました。

平行して平成20年度から3年間、文部科学省委託事業として地域全体で学校教育を支援する体制づくりを行う「学校支援地域本部」を本宮中学校・本宮小学校・本宮公民館で立ち上げ、実践活動についてご指導いただきました。

さらに、「学社融合元年」とした平成19年度より、各学校・幼稚園それぞれの特色ある取組から、お互いの実践に学び合うことを目的として、「学社融合実践集録」を作成し、各校に配布しておりますが、実践集録の様式についても、越田先生のご意見を頂き、現在のよう形となりました。また、実践集録の講評につきましても、田辺市教育委員会の学社融合

に深く関わってくださった越田先生にお願いをし、毎回、丁寧な分析とともに、進むべき方向もご示唆いただきました。

このように、田辺市教育委員会の学社融合の発展・充実は、越田先生の御指導・御助言をいただく中で築いてきたものであります。

今後も引き続きご指導いただきたいと思っていた矢先でしたが、先生のご訃報に接し、誠に残念でなりません。

越田先生のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。

